

大阪市立中学校生徒を対象とした ヤングケアラー実態調査報告書

(家庭生活と学校生活に関する調査)

令和4（2022）年7月

大阪市

大阪市教育委員会

研究チーム

〔 宮川 雅充(関西学院大学) 南 多恵子(京都光華女子大学) 濱島 淑恵(大阪歯科大学) 〕

目 次

I 調査の概要

1. 調査の背景・目的	1
2. 調査の方法	1

II 全体の集計結果

1. 分析対象	3
2. 基本情報－性別・学年・家族形態	3
3. 普段の生活、学校生活、悩みや困りごと、ヤングケアラーに関する認識	
(1) 生活満足感	4
(2) 全体的な健康感	5
(3) 生活時間	5
(4) お小遣い	7
(5) 塾や習い事	7
(6) 学校生活－欠席・遅刻・宿題忘れ	8
(7) 卒業後の進路先	9
(8) 悩みや困りごと	11
(9) 相談しやすい相手	12
(10) ヤングケアラーに関する認識	13
4. 家族のケアについて	
(1) ケアをしていると回答した者（ヤングケアラー）の存在割合	14
(2) ケアを要する家族とケアの状況	16
(3) 家族との関係性	23
(4) ケアを担うことによるプラスの側面	24
(5) 介護・福祉サービスとケアの内容	24
(6) 今、ほしいと思うサポートや支援	27
(7) 学校、社会、周囲に対して思ったことがあること	27

Ⅲ ケアの有無に注目したクロス集計の結果

1. ケアの有無別の集計結果

(1) 生活満足感	28
(2) 全体的な健康感	28
(3) 生活時間	29
(4) お小遣い	30
(5) 塾や習い事	30
(6) 学校生活一欠席、遅刻、宿題忘れ	31
(7) 卒業後の進路先	32
(8) 悩みや困りごと	33
(9) 相談しやすい相手	34
(10) ヤングケアラーに関する認識	35

2. ケアの頻度と時間別の集計結果

(1) 生活満足感	36
(2) 全体的な健康感	37
(3) 学校生活一欠席、遅刻、宿題忘れ	39

3. 家族形態別の集計結果

(1) 家族形態とケアの頻度	45
(2) 家族形態とケアの時間	45

4. ケアを要する家族別の集計結果

(1) ケアの頻度	46
(2) ケアの時間	47
(3) 介護、福祉サービスとケアの内容	48
(4) 今、ほしいと思うサポートや支援	52
(5) 学校、社会、周囲に対して思ったことがあること	53

Ⅳ. 調査結果のまとめ

1 ヤングケアラーの存在割合	54
2 ケアの状況	54

謝辞	56
----	----

資料

調査票：家庭生活と学校生活に関する調査

I 調査の概要

1. 調査の背景・目的

ヤングケアラーとは、法律上の正式な定義はまだないが、日本ケアラー連盟は「家族にケアを要する人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている、18歳未満の子ども」としている。具体例を挙げると、介護が必要な祖父母の介助をしている、精神疾患の母親の代わりに家事をしている、年下のきょうだいの世話をしている、障がいを持つきょうだいのケアをしている等がある。

近年では、令和2（2020）年度および令和3（2021）年度に国が全国調査を実施し、ヤングケアラーと考えられる子どもの存在割合について、小学生約6%、中学生約6%、高校生約4%、大学生約6%という結果を示している。すべての年代において一定の規模でヤングケアラーがいることが確認されるなど、実態把握が進んでいる。

これらの調査のなかでは、ケアを担っている子ども・若者において、身体的、精神的な健康状態が思わしくない、遅刻、欠席をよくする、自分の時間が取れないと回答した者が多い等、健康面、学校生活、日常生活に影響が生じている可能性が示唆されている。

上記のような結果が示されるなか、厚生労働省子ども家庭局は、令和4（2022）年3月に「ヤングケアラー支援体制強化事業実施要綱」を示した。そこでは、各自治体におけるヤングケアラーの現状把握に向けた調査の実施、コーディネーターの配置、ピアサポート、オンラインサロン等、ヤングケアラーの発見、支援に向けた体制整備等が挙げられている。

全国的には上記のような動きがあるなか、特にヤングケアラーの支援は地域単位で展開する必要があり、地域ごとの実態把握は極めて重要となる。このことを踏まえ、大阪市は、令和3（2021）年度、大阪市教育委員会と研究チームとともに、市内のヤングケアラーの実態把握と支援策の検討を目的として、全市立中学校を対象としたヤングケアラーに関する実態調査を実施することとした。

2. 調査の方法

令和3（2021）年11月中旬から令和4（2022）年1月上旬に、大阪市立中学校128校1年生から3年生（令和3（2021）年12月末現在で51,912名）を対象として、「家庭生活と学校生活に関する調査」と題する無記名・自記式の質問紙調査を授業時間等を活用して実施した。

調査票は、以下のA～Fの6項目からなり、質問Aから順に、質問B、C、D、E、Fの順で回答する構造とした。

- A. 基本事項（年齢、性別、学年、同居家族など）
- B. 普段の生活と健康状態（日常生活の状況、生活満足感、健康状態など）
- C. 学校生活（欠席、遅刻、宿題忘れ、卒業後の進路先など）
- D. 家族に対する介護、お手伝い、精神的サポート
（ケアを要する家族の有無、状態、ケアの内容、期間、頻度、時間など）
- E. 悩みや困りごと
- F. ヤングケアラーに関する認識

回答には 20 分程度がかかる分量であった。

調査票の配布、回収は各中学校に依頼した。調査票は回収用封筒と一緒に生徒に配布し、回答後、生徒自身が封筒へ入れ、厳封した状態での回収を依頼した。また、調査票の表紙には、調査協力は任意であること、回答したくない質問には回答する必要のないこと等、プライバシーに対する配慮を明記するとともに、配布教員にもその周知徹底を依頼した。調査票に何らかの回答があった（白紙ではなかった）場合、調査への協力の同意が得られたとみなした。

なお、集計結果の数値については、四捨五入の関係で合計が 100%にならない場合がある。

Ⅱ 全体の集計結果

1. 分析対象

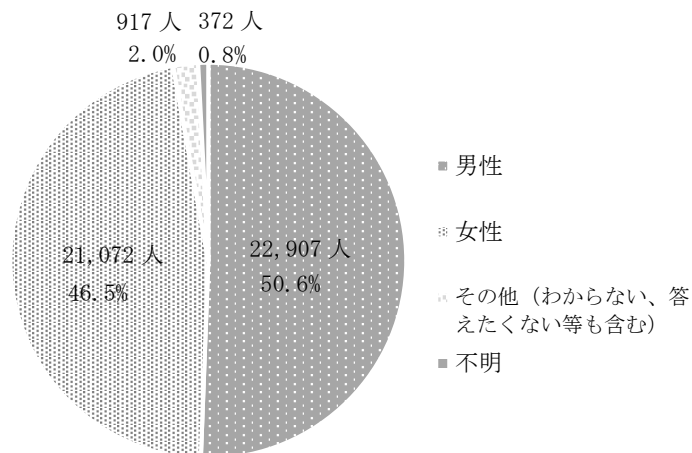
調査に際して、46,321名から調査票を回収することができた。以下の3つの条件を満たしている調査票を本質問紙調査の有効回答（分析対象）とした。

- ・調査への協力の同意が得られていること
- ・本調査の主題である質問Dに何らかの回答をしていること
- ・家族等の人数、年齢、ケアの期間などの質問に対して現実的にありえない数値が記入されていないこと

45,268名（調査対象51,912名の87.2%）からの回答を有効回答とみなした。

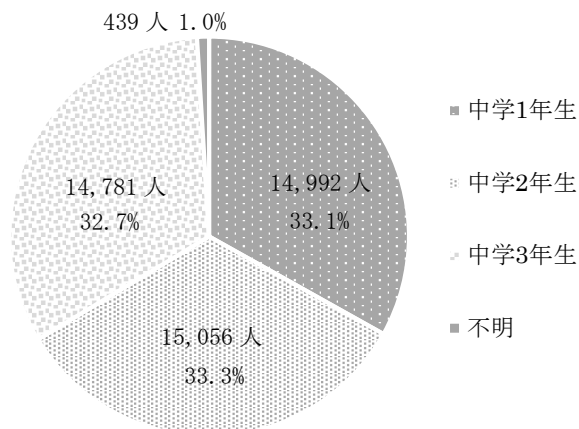
2. 基本情報－性別・学年・家族形態

性別（図Ⅱ-2-1）は、「女性」が21,072名（46.5%）、「男性」が22,907名（50.6%）、「その他（わからない、答えたくない等も含む）」が917名（2.0%）、不明（無回答など）が372名（0.8%）であった。



図Ⅱ-2-1 性別（n=45,268）

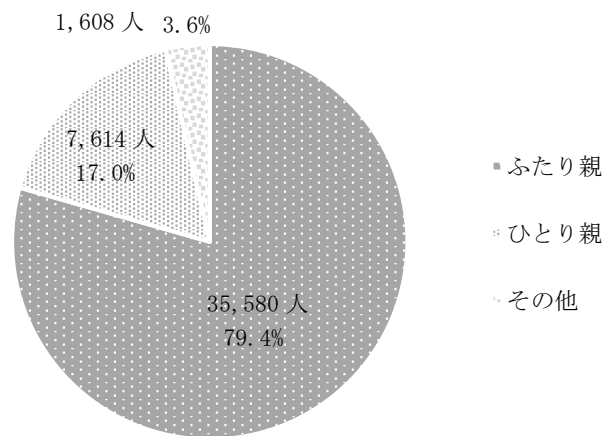
学年（図Ⅱ-2-2）は、1～3年生がほぼ均等な結果となっていた。



図Ⅱ-2-2 学年（n=45,268）

※以降では、特に明記されていない限りは、無回答などの理由で不明の回答は、その都度、除外した集計結果を示す。

家族形態（図Ⅱ-2-3）は、ふたり親の世帯が約8割（79.4%）を占め、ついでひとり親の世帯が17.0%、その他の世帯が3.6%であった。

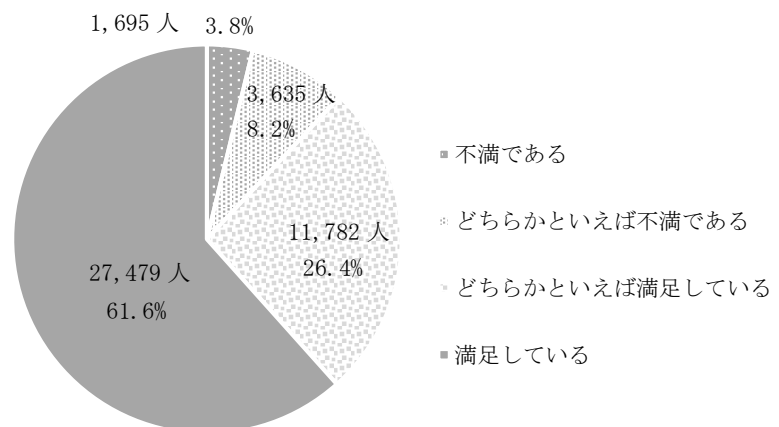


図Ⅱ-2-3 家族形態（n=44,802）

3. 普段の生活、学校生活、悩みや困りごと、ヤングケアラーに関する認識

（1）生活満足感

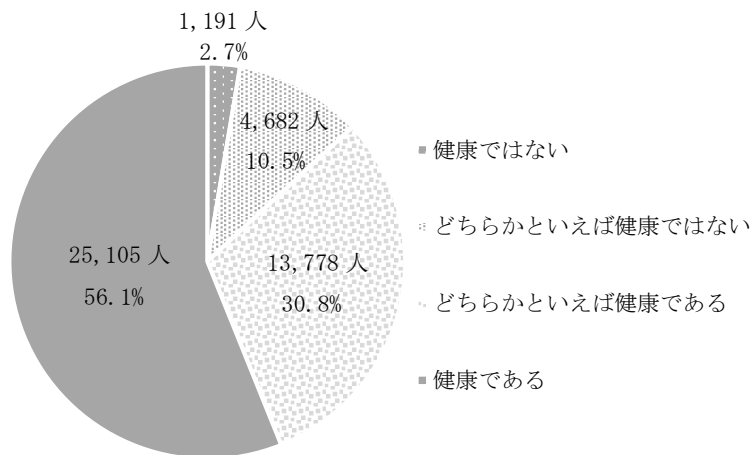
生活満足感（図Ⅱ-3-1）は、「不満である」は3.8%、「どちらかといえば不満である」は8.2%にとどまり、「満足している」と回答した者が61.6%と約6割を占めた。



図Ⅱ-3-1 生活満足感（n=44,591）

(2) 全体的な健康感

全体的な健康感（図Ⅱ-3-2）は、「健康ではない」と回答した者は2.7%、「どちらかといえば健康ではない」と回答した者は10.5%にとどまり、「健康である」と回答した者が56.1%と半数以上を占めた。

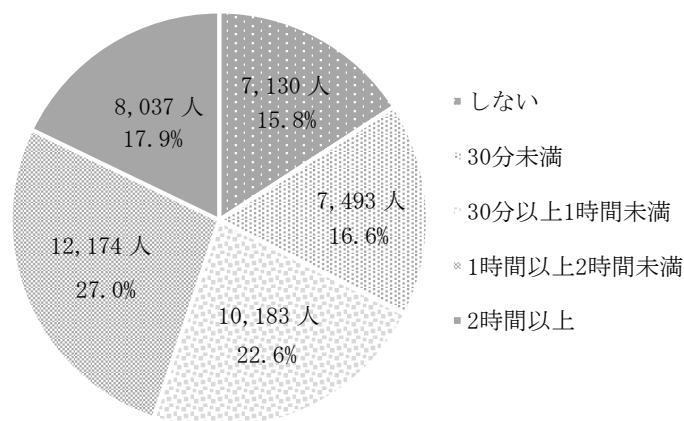


図Ⅱ-3-2 全体的な健康感 (n=44,756)

(3) 生活時間（定期テストの期間、長期の休み等は除く）

① 普段の平日の勉強時間

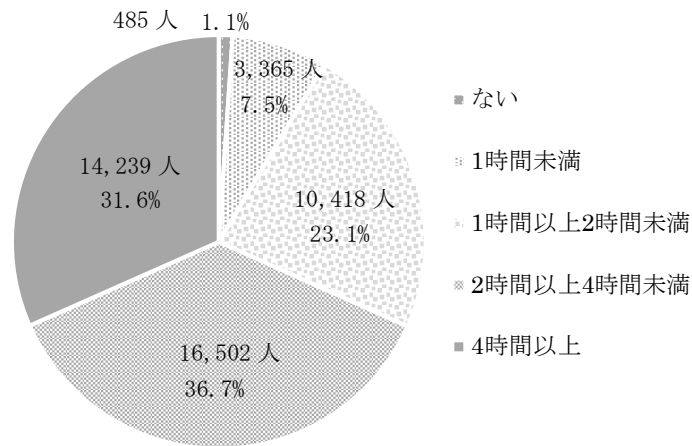
普段の平日の勉強時間について尋ねた（図Ⅱ-3-3）。「1時間以上2時間未満」が最も多く3割近くを占めた。



図Ⅱ-3-3 普段の平日の勉強時間（学校の授業以外） (n=45,017)

②普段の平日の自分の好きなことをしたりゆっくり過ごす時間

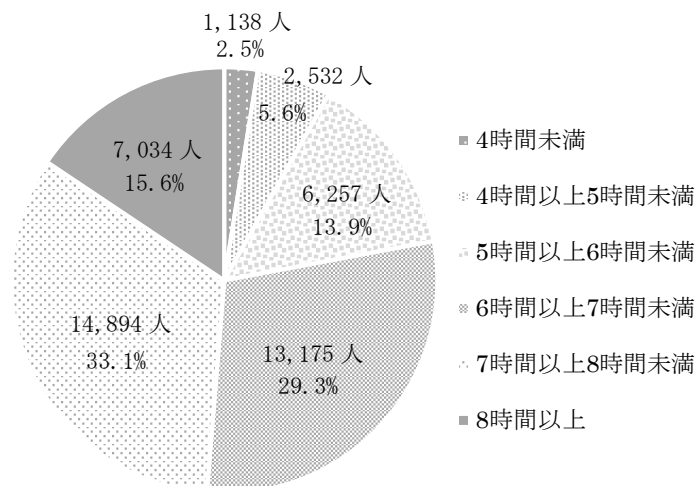
普段の平日の自分の好きなことをしたりゆっくり過ごす時間について尋ねた（図Ⅱ-3-4）。「2時間以上4時間未満」が最も多く36.7%であった。



図Ⅱ-3-4 普段の平日の自分の好きなことをしたり
ゆっくり過ごす時間（n=45,009）

③普段の平日の睡眠時間

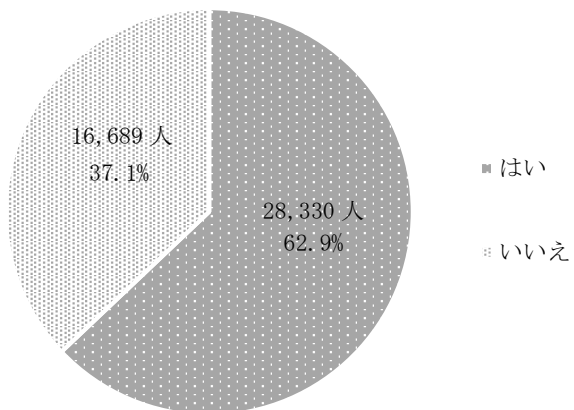
普段の平日の睡眠時間について尋ねた（図Ⅱ-3-5）。「7時間以上8時間未満」が最も多く、約3割を占めた。



図Ⅱ-3-5 普段の平日の睡眠時間（n=45,030）

(4) お小遣い

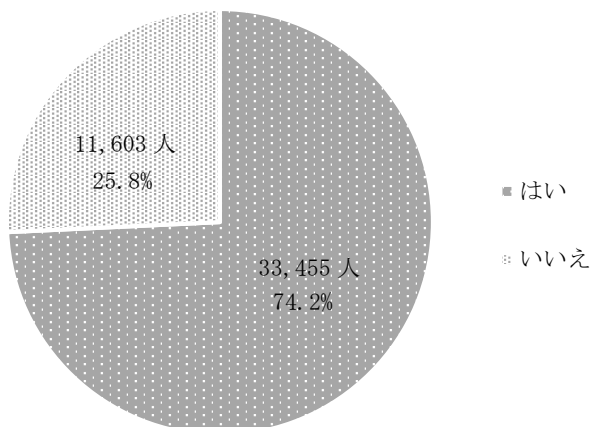
毎月お小遣いをもらっているか否かを尋ねた（図Ⅱ-3-6）。「はい」と回答した者の方が多く、約6割となった。



図Ⅱ-3-6 毎月、お小遣いをもらっているか (n=45,019)

(5) 塾や習い事

現在、塾や習い事に通っているか否かを尋ねた（図Ⅱ-3-7）。「はい」と回答した者の方が多く、7割を超えた。

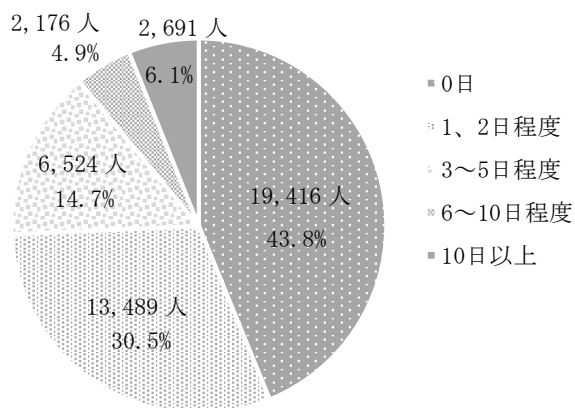


図Ⅱ-3-7 現在、塾や習い事に通っているか (n=45,058)

(6) 学校生活－欠席・遅刻・宿題忘れ

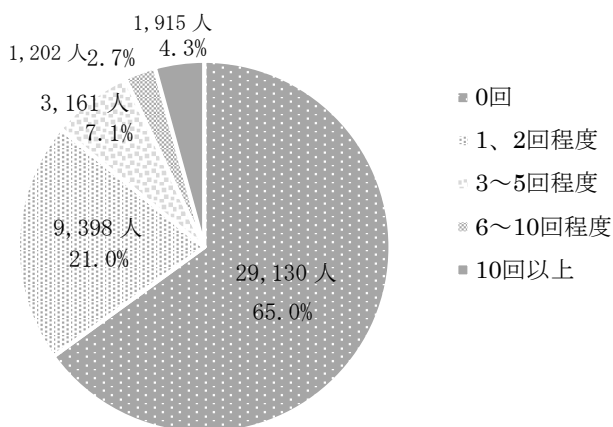
2021（令和3）年1学期における欠席の日数、遅刻、宿題忘れの回数を尋ねた。

欠席日数（図Ⅱ-3-8）は、「0日」が最も多く、約4割（43.8%）を占めた。次いで「1、2日程度」（30.5%）、「3～5日程度」（14.7%）と続いた。



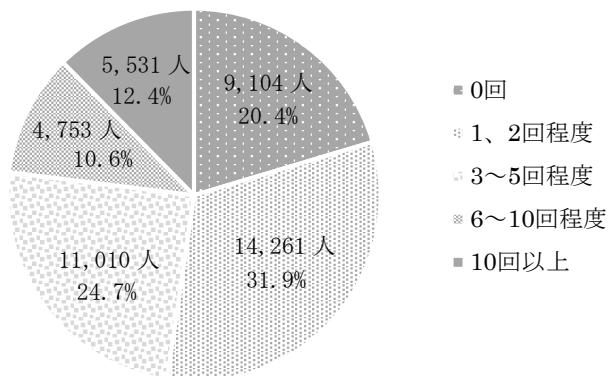
図Ⅱ-3-8 2021（令和3）年度1学期の欠席日数（n=44,296）

遅刻（図Ⅱ-3-9）は、「0回」が最も多く（65.0%）、「1、2回程度」（21.0%）、「3～5回程度」（7.1%）と続いた。



図Ⅱ-3-9 2021（令和3）年度1学期の遅刻回数（n=44,806）

宿題忘れ（図Ⅱ-3-10）の回数は「1、2回程度」が最も多く（31.9%）、「3～5回程度」（24.7%）、「0回」（20.4%）と続いた。



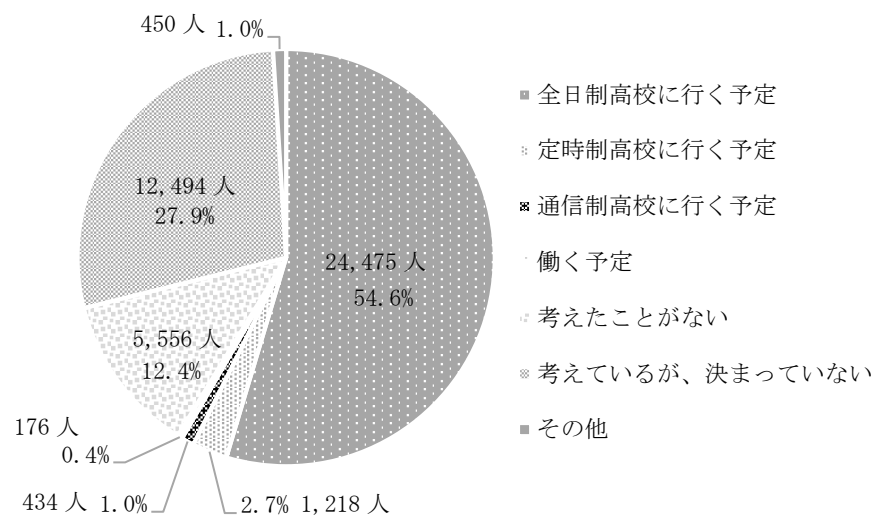
図Ⅱ-3-10 2021（令和3）年度1学期の宿題忘れの回数（n=44,659）

(7)卒業後の進路先

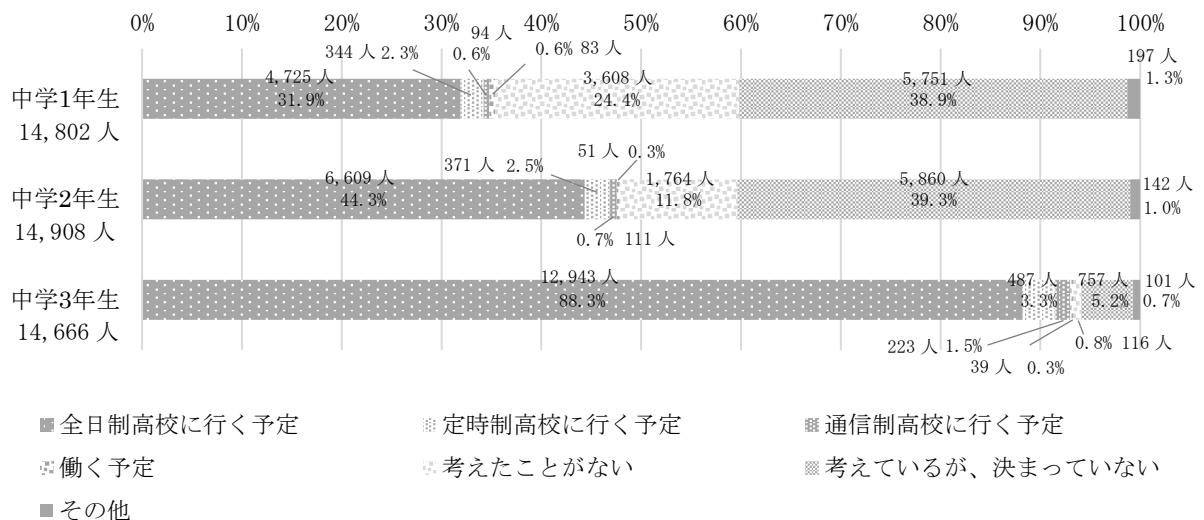
①進路先

卒業後の進路先（図Ⅱ-3-11）を尋ねたところ、「全日制高校に行く予定」が最も多く（54.6%）、半数以上を占めた。次いで、「考えているが、決まっていない」（27.9%）、「考えたことがない」（12.4%）となった。

学年別に卒業後の進路先（図Ⅱ-3-12）をみると、「考えているが、決まっていない」と回答した者が、2年生、1年生では4割近くを占めた。また、学年が下がるにつれて「考えたことがない」と回答した者の割合が高かった。



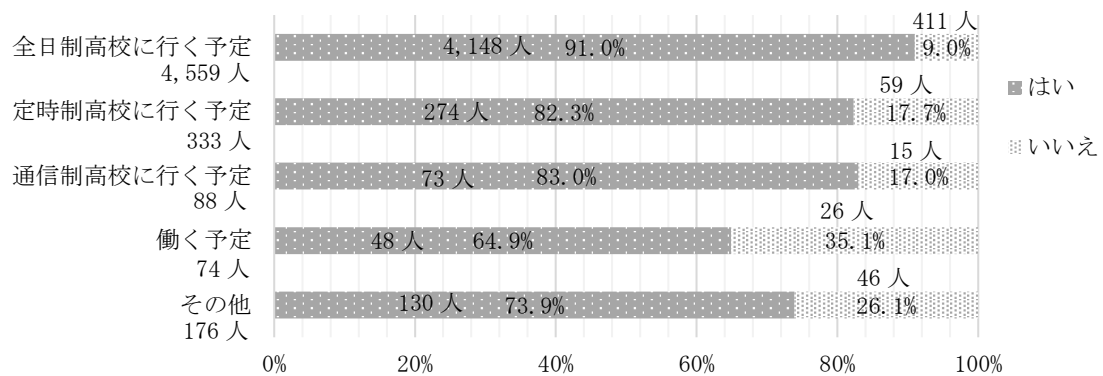
図Ⅱ-3-11 卒業後の進路先 (n=44,803)



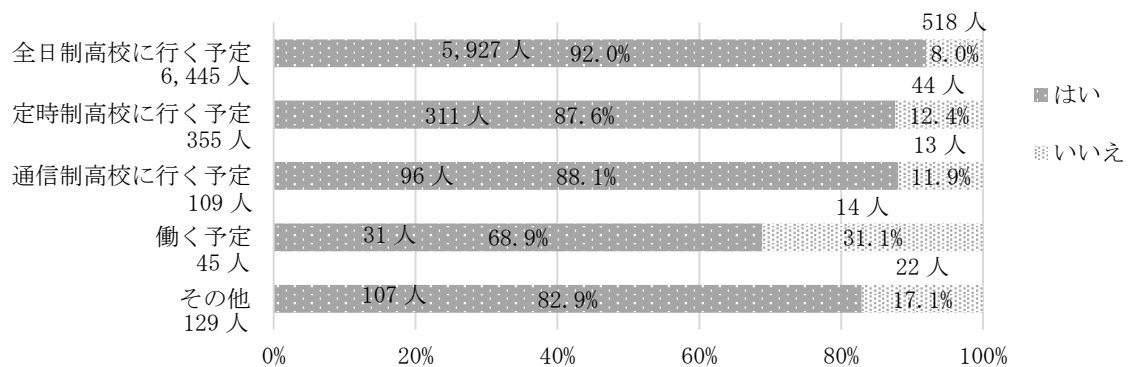
図Ⅱ-3-12 卒業後の進路先【学年別】 (n=44,376)

②進路先は希望通りか否か

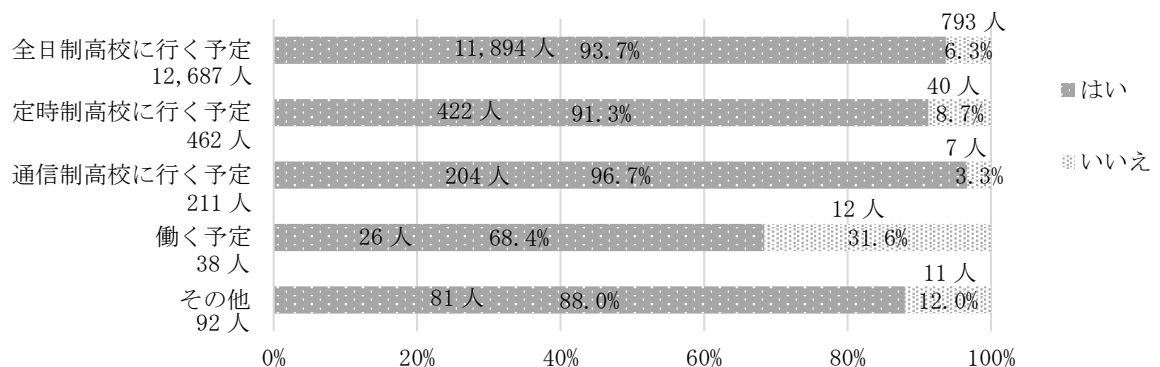
①で回答した進路先が自分の希望通りか否かを、学年別に集計した結果（図Ⅱ-3-13～図Ⅱ-3-15）、「はい」と回答した者の割合は、すべての学年において、「全日制高校に行く予定」の場合は9割を超えており、「通信制高校に行く予定」、「定時制高校に行く予定」の場合は8割以上となっていた。「働く予定」と回答した者の場合、「はい」と回答した者は6割～7割であり、希望通りではない者の割合が他の場合と比べて高かった。



図Ⅱ-3-13 進路先が希望通りか否か【1年】 (n=5,230)



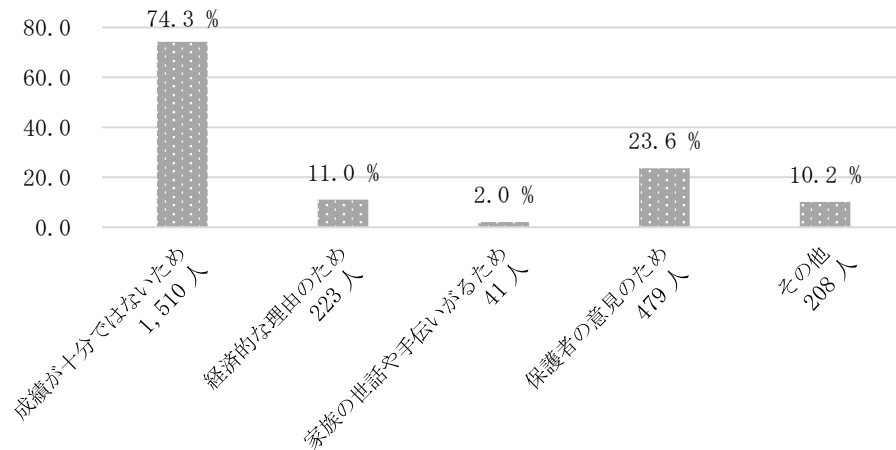
図Ⅱ-3-14 進路先が希望通りか否か【2年】 (n=7,083)



図Ⅱ-3-15 進路先が希望通りか否か【3年】 (n=13,490)

③希望の進路を選べない理由

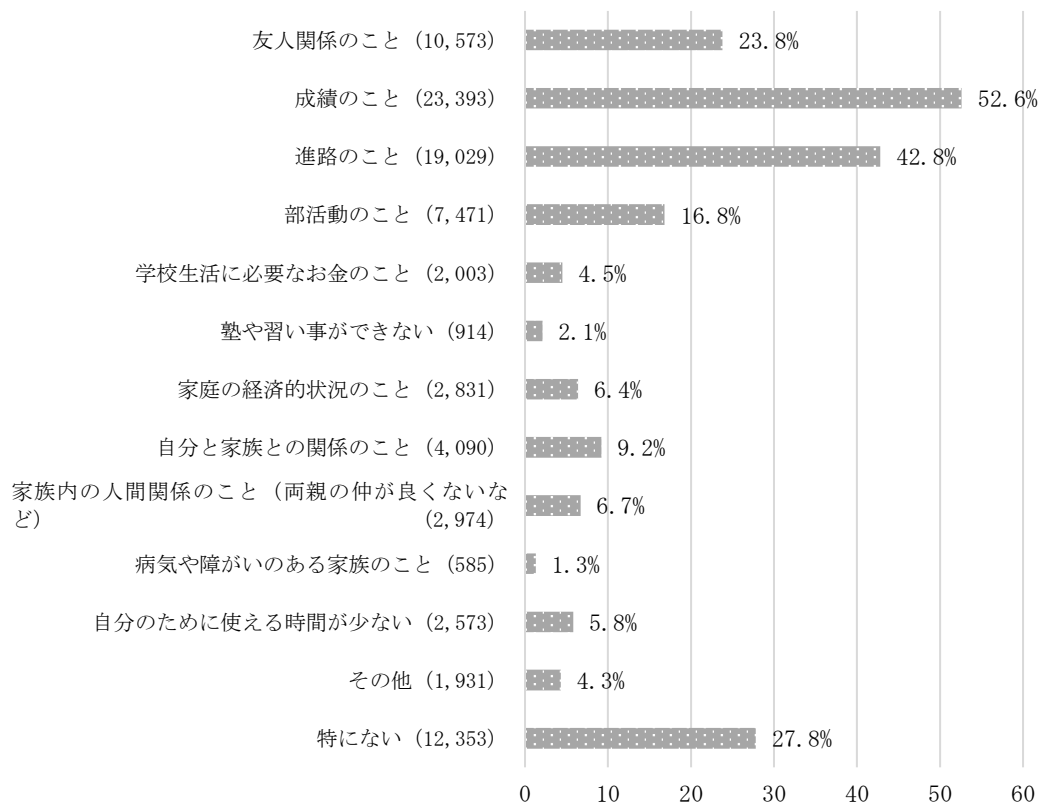
②で進路先について希望通りではないと回答した者に、その理由を尋ねた（図Ⅱ-3-16）。「成績が十分ではないため」と回答した者が最も多く7割以上を占め、次いで「保護者の意見のため」（23.6%）、「経済的な理由のため」（11.0%）となった。



図Ⅱ-3-16 希望の進路を選べない理由（n=2,032）※複数選択可

（8）悩みや困りごと

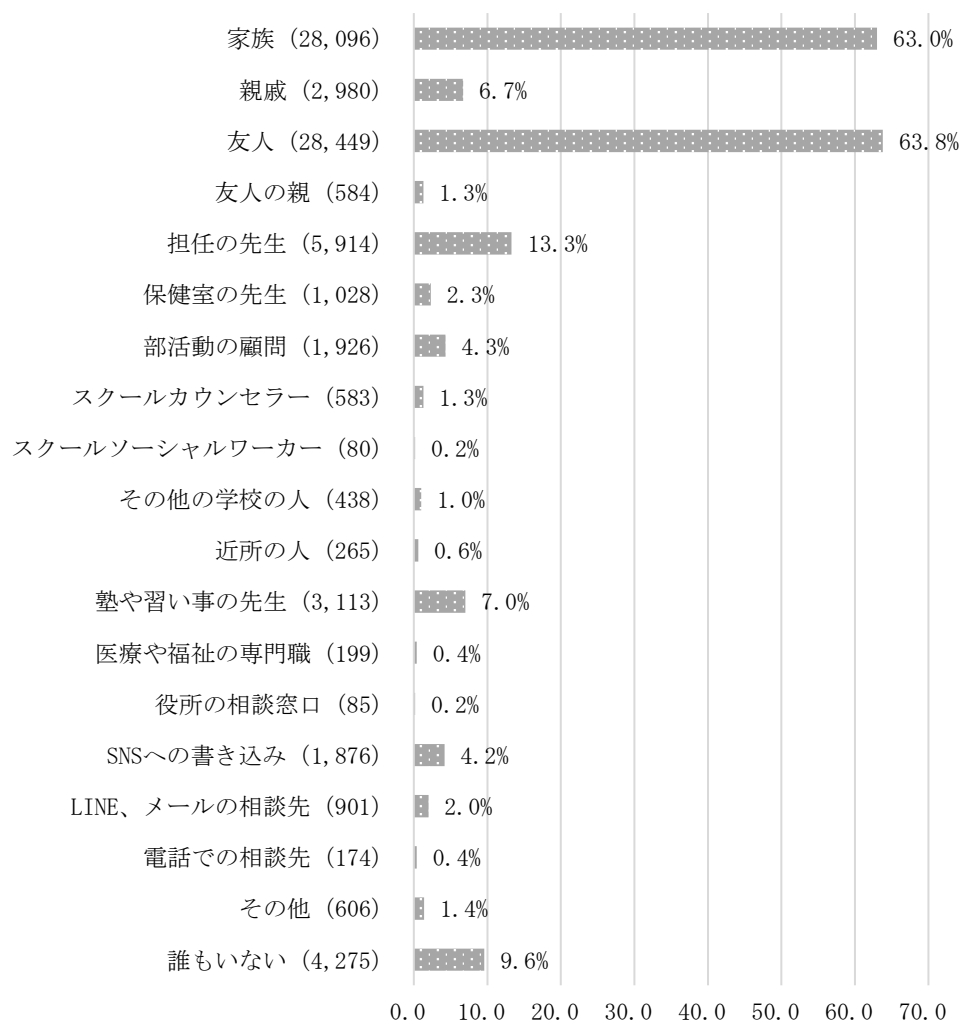
現在、悩んだり、困ったりしていることはあるかを尋ねた（図Ⅱ-3-17）。その結果、「成績のこと」が最も多く（52.6%）、次いで「進路のこと」（42.8%）、「友人関係のこと」（23.8%）と続いた。また、「特にない」と回答した者も3割近くいた。



図Ⅱ-3-17 悩んだり困ったりしていること（n=44,434）※複数選択可

（９）相談しやすい相手

悩みや困りごとを相談しやすいのはどこ（誰）かを尋ねた（図Ⅱ-3-18）。その結果、「友人」が最も多く（63.8%）、次いで「家族」（63.0%）で、両者ともに約６割の者が選択していた。「友人」「家族」以外を回答した者の割合は低かったが、次いで、「担任の先生」（13.3%）、「塾や習い事の先生」（7.0%）、「親戚」（6.7%）、「部活動の顧問」（4.3%）「SNS への書き込み」（4.2%）と続いた。

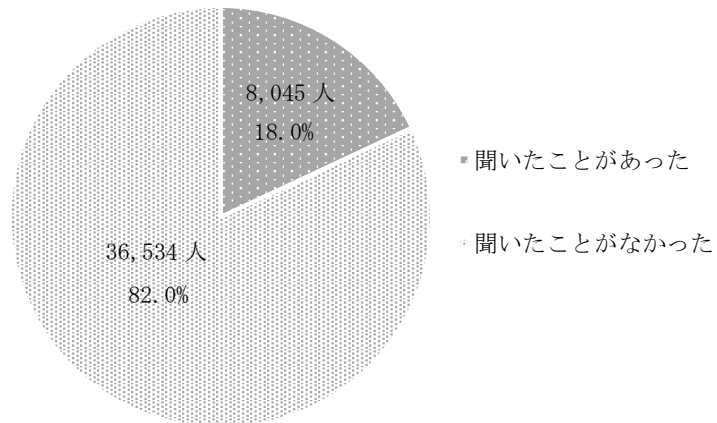


図Ⅱ-3-18 悩みや困りごとを相談しやすい場所（人）（n=44,579）

※複数選択可

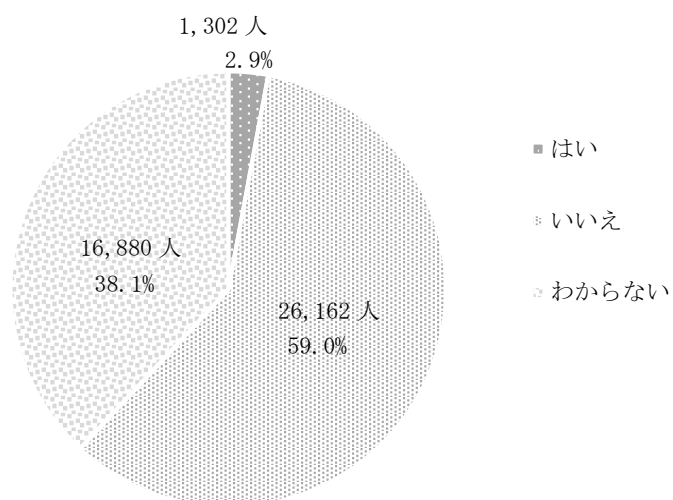
(10) ヤングケアラーに関する認識

「ヤングケアラー」という言葉を以前に聞いたことがあったか否かを尋ねた（図Ⅱ-3-19）。その結果、約2割が「聞いたことがあった」と回答した。「聞いたことがなかった」と回答した者は約8割を占めた。



図Ⅱ-3-19 「ヤングケアラー」という言葉を以前に聞いたことがあったか (n=44, 579)

自分を「ヤングケアラー」だと思うか否かを尋ねた（図Ⅱ-3-20）。その結果、「はい」と回答した者は2.9%、「いいえ」と回答した者は59.0%であった。一方で、38.1%は「わからない」と回答していた。



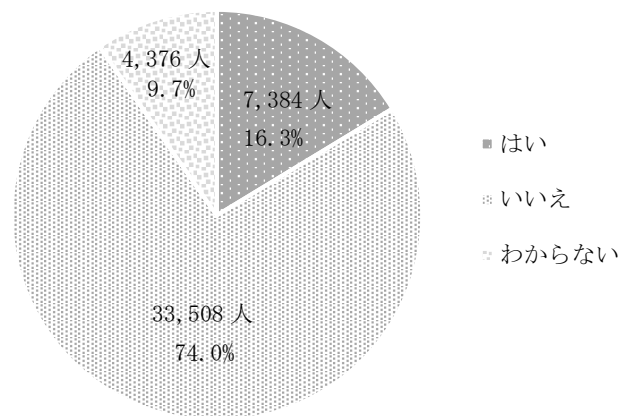
図Ⅱ-3-20 自分を「ヤングケアラー」だと思うか (n=44, 344)

4. 家族のケアについて

(1) ケアをしていると回答した者（ヤングケアラー）の存在割合

①ケアを要する家族の有無とヤングケアラーの存在割合

家族（別居している家族も含む）に、高齢である、幼い、病気や障がいがある、精神的に不安定、日本語が苦手などのために、介護、手伝い、精神的サポートが必要な人（ケアを要する家族）はいるかを尋ねた（図Ⅱ-4-1）。その結果、「はい」と回答した者は7,384名（16.3%）であった。



図Ⅱ-4-1 ケアを要する家族はいるか（n=45,268）

ケアを要する家族がいると回答した者に、現在、自分自身が介護、お手伝い、精神的サポート（ケア）をしているかを尋ねた結果、「している」と回答した者は4,133名（56.0%）であった。「している」と回答した者すべてをヤングケアラーとみなした場合、ヤングケアラーの存在割合は約9.1%となった。

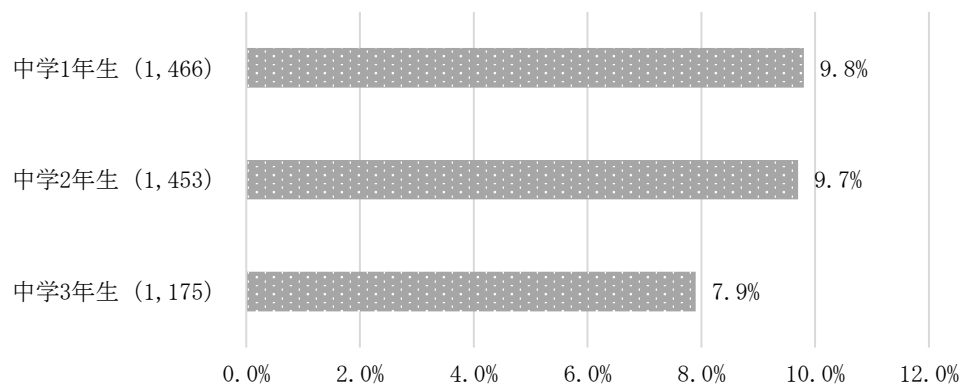
②学年別・性別・家族形態別の存在割合

学年別、性別、家族形態別にケアをしていると回答した者（ヤングケアラーと考えられる者）の割合を集計した。

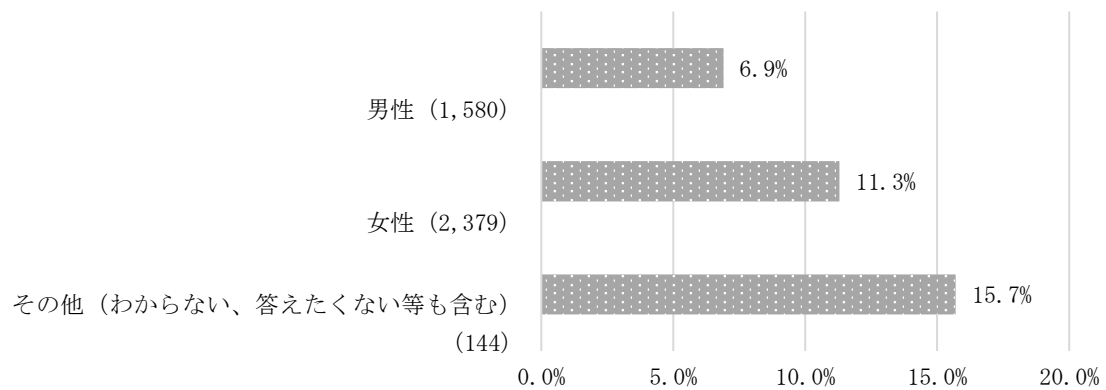
学年別（図Ⅱ-4-2）にヤングケアラーの存在割合をみた結果、1年生で9.8%、2年生で9.7%であり、ともに約1割になった。3年生は7.9%であり、1、2年生と比べると少し低い割合であった。

性別（図Ⅱ-4-3）では、「男性」（6.9%）よりも「女性」（11.3%）の方が、ヤングケアラーの存在割合が高かった。一方で、「その他（わからない、答えたくない等も含む）」では、ヤングケアラーの存在割合は15.7%であった。

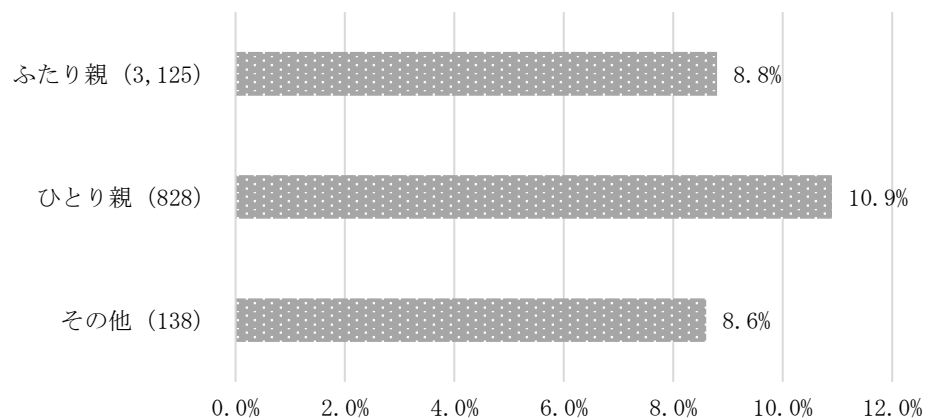
家族形態別（図Ⅱ-4-4）にみると、ひとり親の家庭におけるヤングケアラーの存在割合が最も高く10.9%であった。



図Ⅱ-4-2 学年別にみたヤングケアラーの存在割合 (n=44,829)



図Ⅱ-4-3 性別にみたヤングケアラーの存在割合 (n=44,896)



図Ⅱ-4-4 家族形態別にみたヤングケアラーの存在割合 (n=44,802)

(2) ケアを要する家族とケアの状況

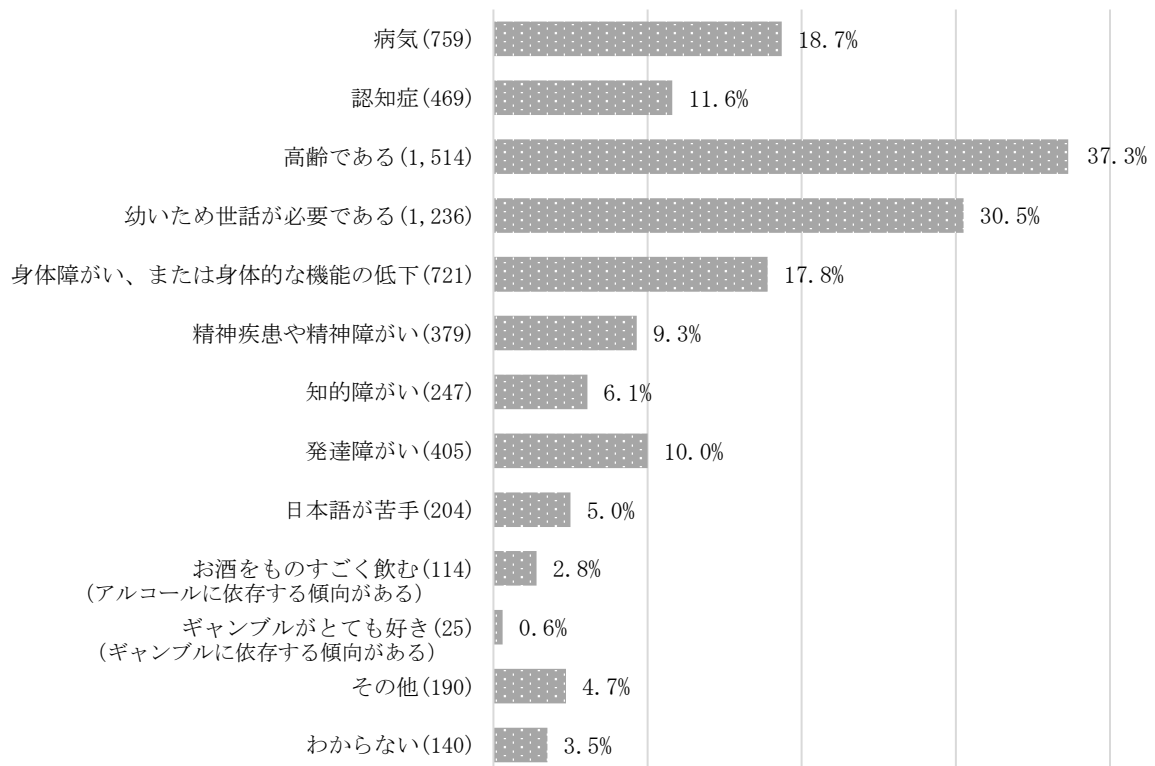
① ケアを要する家族とその状態

ケアを要する家族(図Ⅱ-4-5)は、「弟・妹」が最も多く(37.0%)、次いで「祖母」(31.3%)、「祖父」(19.1%)、「母」(13.9%)と続いた。



図Ⅱ-4-5 ケアを要する家族 (n=4,052) ※複数選択可

ケアを要する家族の状態(図Ⅱ-4-6)については、「高齢である」(37.3%)が最も多く、次いで「幼いため世話が必要である」(30.5%)、「病気」(18.7%)、「身体障がい、または身体的な機能の低下」(17.8%)、「認知症」(11.6%)等となった。



図Ⅱ-4-6 ケアを要する家族の状態 (n=4,057) ※複数選択可

②ケアを要する家族別にみた状態

ケアを要する家族別にその状態について集計した。なお、ケアを要する家族について複数の項目が回答されている場合は、誰の状態か判断が難しいため、ケアを要する家族に関する質問に1項目のみを回答していた3,177名についての結果を示す(表Ⅱ-4-1)。

「祖父」の場合、「高齢である」が最も多く(70.2%)、次いで「身体障がい、または身体的な機能の低下」(33.3%)、「病気」(32.2%)、「認知症」(22.1%)となっていた。

「祖母」の場合、「高齢である」が最も多く(77.3%)、「病気」(24.0%)、「認知症」(23.2%)、「身体障がい、または身体的な機能の低下」(22.9%)と続いた。

「父」の場合、「身体障がい、または身体的な機能の低下」が最も多く(35.1%)、次いで「病気」(31.5%)、「精神疾患や精神障がい、または精神的に不安定」(16.2%)、「日本語が苦手(外国の出身である等の理由で)」(14.4%)と続いた。なお、「お酒をものすごく飲む(アルコールに依存する傾向がある)」は10.8%であり、他のケアを要する家族と比べて最も高かった。

「母」の場合、「精神疾患や精神障がい、または精神的に不安定」が最も多く(35.4%)、次いで「病気」(31.8%)、「日本語が苦手(外国の出身である等の理由で)」(20.1%)、「身体障がい、または身体的な機能の低下」(14.6%)と続いた。なお、「精神疾患や精神障がい、または精神的に不安定」の割合が他のケアを要する家族と比べて最も高かった。

「兄・姉」の場合、「発達障がい」が最も多く(32.1%)、次いで「知的障がい」(31.6%)、「精神疾患や精神障がい、または精神的に不安定」(25.7%)、「身体障がい、または身体的な機能の低下」(19.8%)と続き、障がいを有する者が多かった。一方、「弟・妹」の場合、「幼いため世話が必要である」が最も多く7割以上を占め(75.1%)、次いで「発達障がい」(17.4%)、「知的障がい」(9.0%)、「身体障がい、または身体的な機能の低下」(4.7%)と続いた。

「曾祖父」の場合、「高齢である」が最も多く(90.9%)、次いで「認知症」(45.5%)、「病気」(18.2%)、「身体障がい、または身体的機能の低下」(18.2%)と続いた。「曾祖母」の場合、「高齢である」が最も多く(89.3%)、次いで「認知症」(33.9%)、「身体障がい、または身体的機能の低下」(18.2%)、「病気」(14.9%)と続いた。

「その他」の場合、「幼いため世話が必要である」が最も多く(52.9%)、次いで「身体障がい、または身体的機能の低下」(17.6%)、「発達障がい」(12.5%)、「病気」(11.0%)と続いた。

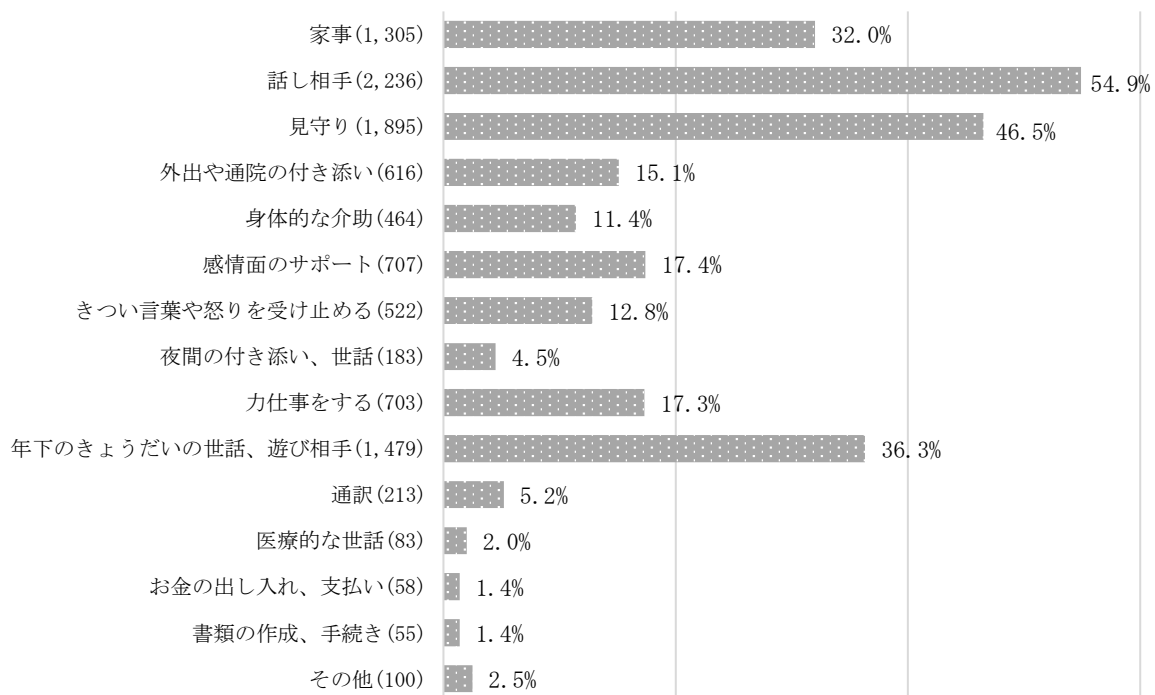
表Ⅱ-4-1 ケアを要する家族とその状態 (n=3, 166) ※複数選択可

	病気	認知症	高齢である	幼いための世話が必要である	身体障がい、または身体的な機能低下	精神疾患や精神障がい、または精神的に不安定	知的障がい	発達障がい	日本語が苦手（外国の出身である等の理由で）	お酒をのすごく飲む（アルコールに依存する傾向がある）	ギャンブルがとてもし（ギャンブルに依存する傾向がある）	その他	わからない
祖父 (n=339)	109人 32.2%	75人 22.1%	238人 70.2%	3人 0.9%	113人 33.3%	5人 1.5%	3人 0.9%	3人 0.9%	2人 0.6%	13人 3.8%	1人 0.3%	14人 4.1%	6人 1.8%
祖母 (n=730)	175人 24.0%	169人 23.2%	564人 77.3%	6人 0.8%	167人 22.9%	18人 2.5%	3人 0.4%	6人 0.8%	6人 0.8%	5人 0.7%	1人 0.1%	33人 4.5%	19人 2.6%
曾祖父 (n=11)	2人 18.2%	5人 45.5%	10人 90.9%	0人 0.0%	2人 18.2%	0人 0.0%	1人 9.1%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	1人 9.1%	0人 0.0%
曾祖母 (n=121)	18人 14.9%	41人 33.9%	108人 89.3%	1人 0.8%	22人 18.2%	1人 0.8%	1人 0.8%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	6人 5.0%	3人 2.5%
父 (N=111)	35人 31.5%	5人 4.5%	11人 9.9%	0人 0.0%	39人 35.1%	18人 16.2%	1人 0.9%	0人 0.0%	16人 14.4%	12人 10.8%	2人 1.8%	11人 9.9%	4人 3.6%
母 (n=314)	100人 31.8%	1人 0.3%	3人 1.0%	2人 0.6%	46人 14.6%	111人 35.4%	4人 1.3%	4人 1.3%	63人 20.1%	21人 6.7%	3人 1.0%	24人 7.6%	18人 5.7%
兄・姉 (n=187)	25人 13.4%	5人 2.7%	0人 0.0%	2人 1.1%	37人 19.8%	48人 25.7%	59人 31.6%	60人 32.1%	3人 1.6%	0人 0.0%	0人 0.0%	11人 5.9%	19人 10.2%
弟・妹 (n=1, 217)	32人 2.6%	1人 0.1%	0人 0.0%	914人 75.1%	57人 4.7%	34人 2.8%	110人 9.0%	212人 17.4%	11人 0.9%	0人 0.0%	0人 0.0%	29人 2.4%	21人 1.7%
その他 (n=136)	15人 11.0%	4人 2.9%	7人 5.1%	72人 52.9%	24人 17.6%	10人 7.4%	13人 9.6%	17人 12.5%	3人 2.2%	1人 0.7%	1人 0.7%	11人 8.1%	8人 5.9%
計 (n=3, 166)	511人 16.1%	306人 9.7%	941人 29.7%	1,000人 31.6%	507人 16.0%	245人 7.7%	195人 6.2%	302人 9.5%	104人 3.3%	52人 1.6%	8人 0.3%	140人 4.4%	98人 3.1%

※11名はケアを要する家族の状態について無回答

③ケアの内容

ケアの内容(図Ⅱ-4-7)については、「話し相手」が最も多く(54.9%)、次いで「見守り」(46.5%)、「年下のきょうだいの世話、遊び相手」(36.3%)、「家事」(32.0%)と続いた。



図Ⅱ-4-7 ケアの内容 (n=4, 074) ※複数選択可

④ケアを要する家族別にみたケアの内容

ケアを要する家族別にケアの内容について集計した。なお、ケアを要する家族について複数の項目が回答されている場合は、誰のためのケアであるか判断が難しいため、ケアを要する家族に関する質問に1項目のみを回答していた3,177名についての結果を示す(表Ⅱ-4-2)。

「祖父」の場合、「話し相手」が最も多く(69.9%)、次いで「見守り」(36.6%)、「家事」(21.8%)、「身体的な介助」(18.9%)と続いた。「祖母」の場合も「話し相手」が最も多く(71.5%)、次いで「見守り」(37.4%)、「家事」(32.6%)、「力仕事をする」(31.2%)と続いた。

「曾祖父」の場合、「話し相手」が最も多く(63.6%)、次いで「見守り」(45.5%)、「外出や通院の付き添い」(36.4%)、「家事」(18.2%)、「力仕事をする」(18.2%)と続いた。「曾祖母」の場合も、「話し相手」が最も多く(77.5%)、次いで「見守り」(46.7%)、「家事」(25.8%)、「力仕事をする」(22.5%)と続いた。

「父」の場合、「話し相手」が最も多く(43.6%)、次いで「家事」(34.5%)、「見守り」(24.5%)、「きつい言葉や怒りを受け止める」(23.6%)、「身体的な介助」(20.9%)、「力仕事をする」(20.9%)と続いた。「母」の場合、「家事」が最も多く(59.9%)、次いで「話し相手」(48.7%)、「感情面のサポート(ぐちをきく、なだめる、なぐさめる等)」(33.4%)、「きつい言葉や怒りを受け止める」(25.2%)と続いた。

「兄・姉」の場合、「見守り」が最も多く(58.4%)、次いで「話し相手」(49.2%)、「感情面のサポート(ぐちをきく、なだめる、なぐさめる等)」(24.9%)、「きつい言葉や怒りを受け止める」(23.8%)と続いた。「弟・妹」の場合、「年下のきょうだいの世話、遊び相手」が最も多く(82.6%)、次いで「見守り」(63.3%)、「話し相手」(38.4%)、「家事」(22.9%)と続いた。

「その他」の場合、「見守り」が最も多く(64.0%)、次いで「話し相手」(52.2%)、「年下のきょうだいの世話、遊び相手」(50.0%)、「外出や通院の付き添い」(16.2%)と続いた。

表Ⅱ-4-2 ケアを要する家族とケアの内容 (n=3, 158) ※複数選択可

	家事	話し相手	見守り	外出や通院の付き添い	身体的な介助	感情面のサポート（ぐちをきく、なだめる、なぐさめる等）	きつい言葉や怒りを受け止める	夜間の付き添い、世話
祖父 (n=339)	74 人 21.8%	237 人 69.9%	124 人 36.6%	56 人 16.5%	64 人 18.9%	23 人 6.8%	13 人 3.8%	4 人 1.2%
祖母 (n=727)	237 人 32.6%	520 人 71.5%	272 人 37.4%	147 人 20.2%	130 人 17.9%	96 人 13.2%	47 人 6.5%	14 人 1.9%
曾祖父 (n=11)	2 人 18.2%	7 人 63.6%	5 人 45.5%	4 人 36.4%	1 人 9.1%	1 人 9.1%	0 人 0.0%	0 人 0.0%
曾祖母 (n=120)	31 人 25.8%	93 人 77.5%	56 人 46.7%	23 人 19.2%	18 人 15.0%	11 人 9.2%	4 人 3.3%	1 人 0.8%
父 (N=110)	38 人 34.5%	48 人 43.6%	27 人 24.5%	19 人 17.3%	23 人 20.9%	22 人 20.0%	26 人 23.6%	7 人 6.4%
母 (n=314)	188 人 59.9%	153 人 48.7%	69 人 22.0%	46 人 14.6%	27 人 8.6%	105 人 33.4%	79 人 25.2%	12 人 3.8%
兄・姉 (n=185)	38 人 20.5%	91 人 49.2%	108 人 58.4%	23 人 12.4%	23 人 12.4%	46 人 24.9%	44 人 23.8%	12 人 6.5%
弟・妹 (n=1, 216)	279 人 22.9%	467 人 38.4%	770 人 63.3%	93 人 7.6%	46 人 3.8%	187 人 15.4%	137 人 11.3%	84 人 6.9%
その他 (n=136)	20 人 14.7%	71 人 52.2%	87 人 64.0%	22 人 16.2%	16 人 11.8%	17 人 12.5%	12 人 8.8%	7 人 5.1%
計 (n=3, 158)	907 人 28.7%	1,687 人 53.4%	1,518 人 48.1%	433 人 13.7%	348 人 11.0%	508 人 16.1%	362 人 11.5%	141 人 4.5%

	力仕事をする	年下のきょうだいの世話、遊び相手	通訳	医療的な世話（たんの吸引、薬の管理など）	お金の出し入れ、支払い	書類の作成、手続き	その他
祖父 (n=339)	53 人 15.6%	10 人 2.9%	8 人 2.4%	12 人 3.5%	3 人 0.9%	2 人 0.6%	19 人 5.6%
祖母 (n=727)	227 人 31.2%	27 人 3.7%	12 人 1.7%	9 人 1.2%	12 人 1.7%	2 人 0.3%	15 人 2.1%
曾祖父 (n=11)	2 人 18.2%	0 人 0.0%	0 人 0.0%	0 人 0.0%	0 人 0.0%	0 人 0.0%	0 人 0.0%
曾祖母 (n=120)	27 人 22.5%	3 人 2.5%	2 人 1.7%	4 人 3.3%	1 人 0.8%	1 人 0.8%	5 人 4.2%
父 (N=110)	23 人 20.9%	8 人 7.3%	11 人 10.0%	2 人 1.8%	4 人 3.6%	3 人 2.7%	6 人 5.5%
母 (n=314)	71 人 22.6%	34 人 10.8%	58 人 18.5%	12 人 3.8%	6 人 1.9%	14 人 4.5%	4 人 1.3%
兄・姉 (n=185)	14 人 7.6%	17 人 9.2%	3 人 1.6%	7 人 3.8%	3 人 1.6%	1 人 0.5%	6 人 3.2%
弟・妹 (n=1, 216)	43 人 3.5%	1,005 人 82.6%	23 人 1.9%	8 人 0.7%	5 人 0.4%	2 人 0.2%	13 人 1.1%
その他 (n=136)	13 人 9.6%	68 人 50.0%	3 人 2.2%	4 人 2.9%	3 人 2.2%	1 人 0.7%	6 人 4.4%
計 (n=3, 158)	473 人 15.0%	1,172 人 37.1%	120 人 3.8%	58 人 1.8%	37 人 1.2%	26 人 0.8%	74 人 2.3%

※19 名はケアの内容について無回答

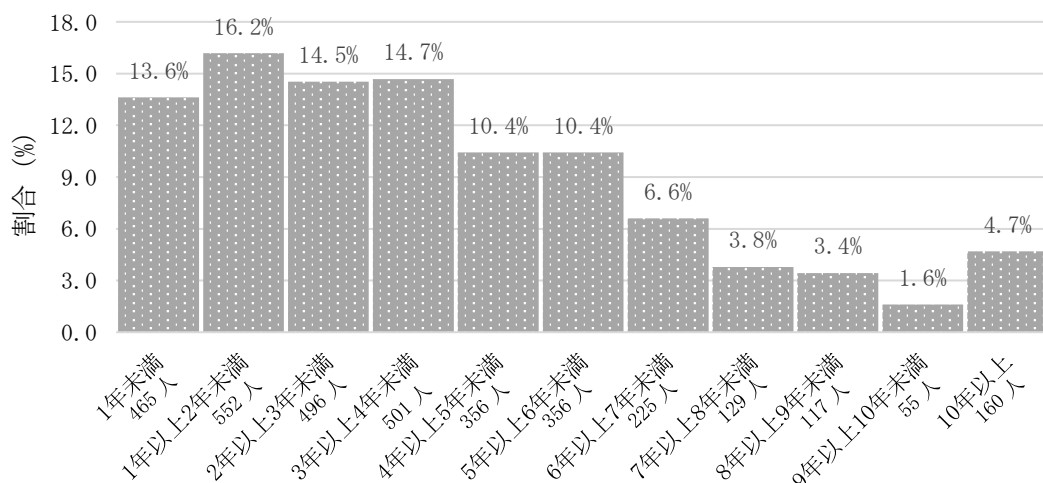
⑤ケアの期間

ケアをしてきた期間を尋ね、数値を回答した 3,412 名について集計した（表Ⅱ-4-3、図Ⅱ-4-8）。その結果、平均 3 年 9 か月、最長で 15 年 4 か月（生まれてからずっとの意と考えられる）であった。中央値が 3 年 0 か月であることから半数は 3 年以内であるが、約 5%が 10 年以上と回答していた。

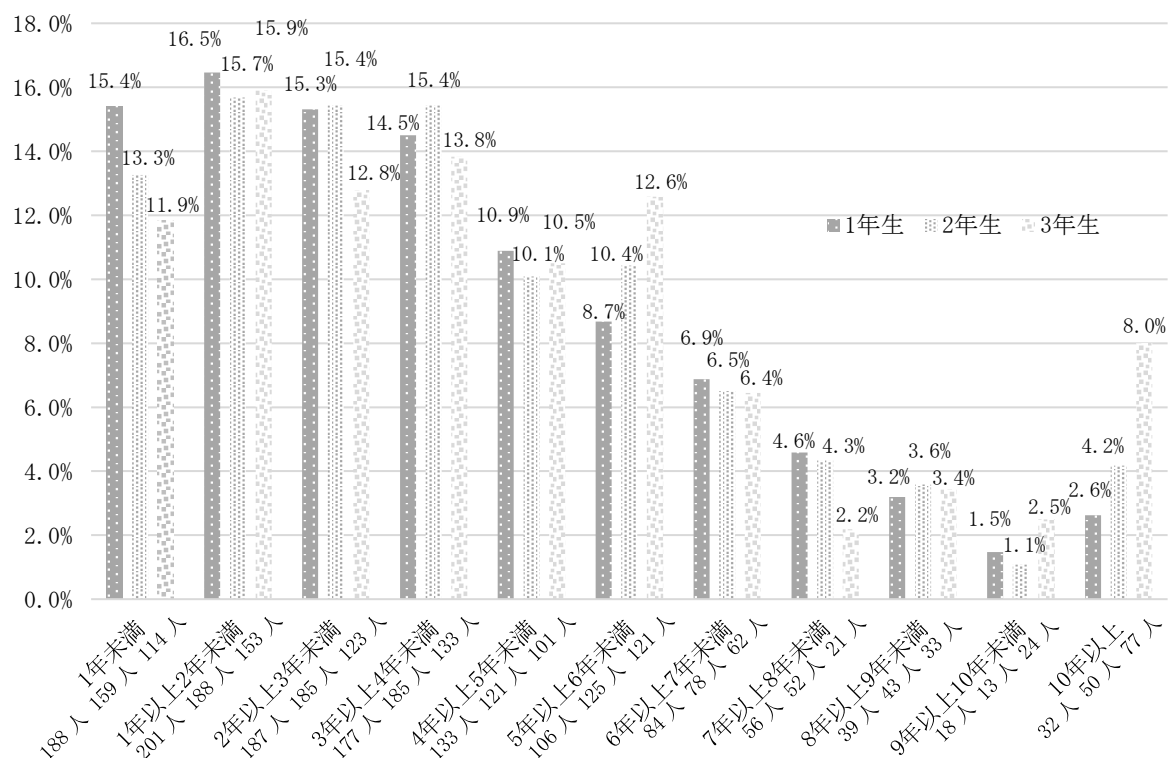
学年別にケアの期間を集計した（図Ⅱ-4-9）。1 年生で 1 年以上の期間を回答した者は 84.6%、2 年生で 2 年以上の期間を回答した者は 71.1%、3 年生で 3 年以上の期間を回答した者は 59.5%であり、小学生のときからケアをしていた者が相当数いると考えられた。また、1 年生で 4 年以上の期間を回答した者は 38.3%、2 年生で 5 年以上の期間を回答した者は 30.1%、3 年生で 6 年以上の期間を回答した者は 22.6%であり、小学校低学年のときからケアを担っている者も少なからず存在することが確認された。

表Ⅱ-4-3 ケアの期間（n=3,412）

	（か月）	年月
平均	44.9	3 年 9 か月
標準偏差	34.5	2 年 11 か月
最大値	184	15 年 4 か月
75 パーセンタイル	62	5 年 2 か月
中央値	36	3 年 0 か月
25 パーセンタイル	18	1 年 6 か月
最小値	0	※ケアを担いはじめたばかりという趣旨



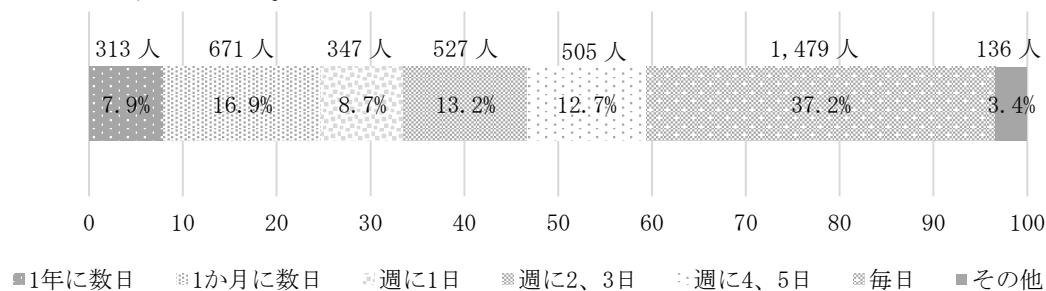
図Ⅱ-4-8 ケアの期間（n=3,412）



図Ⅱ-4-9 ケアの期間【学年別】(n=3,382)

⑥ケアの頻度と時間

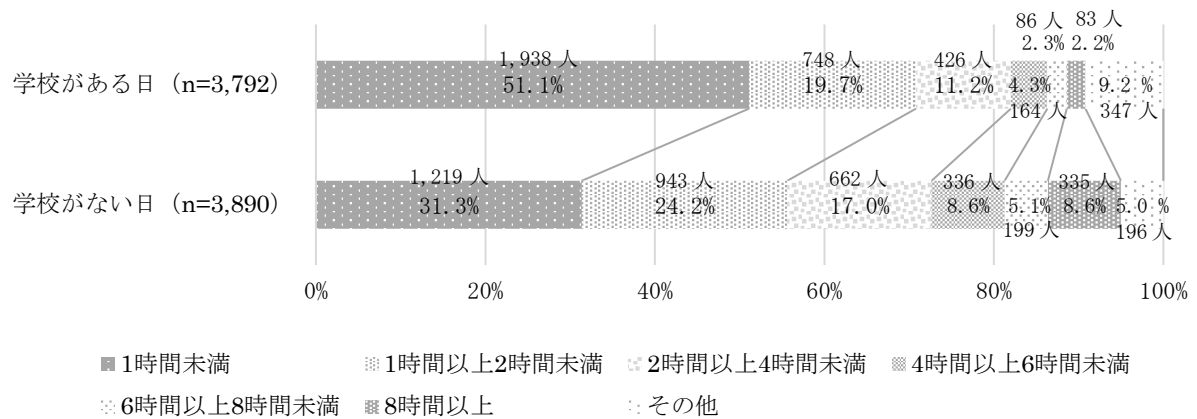
ケアをしている頻度(図Ⅱ-4-10)は、「毎日」が最も多く約4割(37.2%)を占め、次いで「1か月に数日」(16.9%)、「週に2、3日」(13.2%)、「週に4、5日」(12.7%)と続いた。「毎日」と「週に4、5日」を合わせると約5割となり、約半数が毎日のようにケアをしていると回答していた。



図Ⅱ-4-10 ケアの頻度 (n=3,978)

ケアの時間（図Ⅱ-4-11）については、学校がある日は「1 時間未満」が最も多く約半数を占め（51.1%）、次いで「1 時間以上 2 時間未満」（19.7%）、「2 時間以上 4 時間未満」（11.2%）と続いた。学校がない日においても、「1 時間未満」が最も多く（31.3%）、次いで「1 時間以上 2 時間未満」（24.2%）、「2 時間以上 4 時間未満」（17.0%）と続いた。

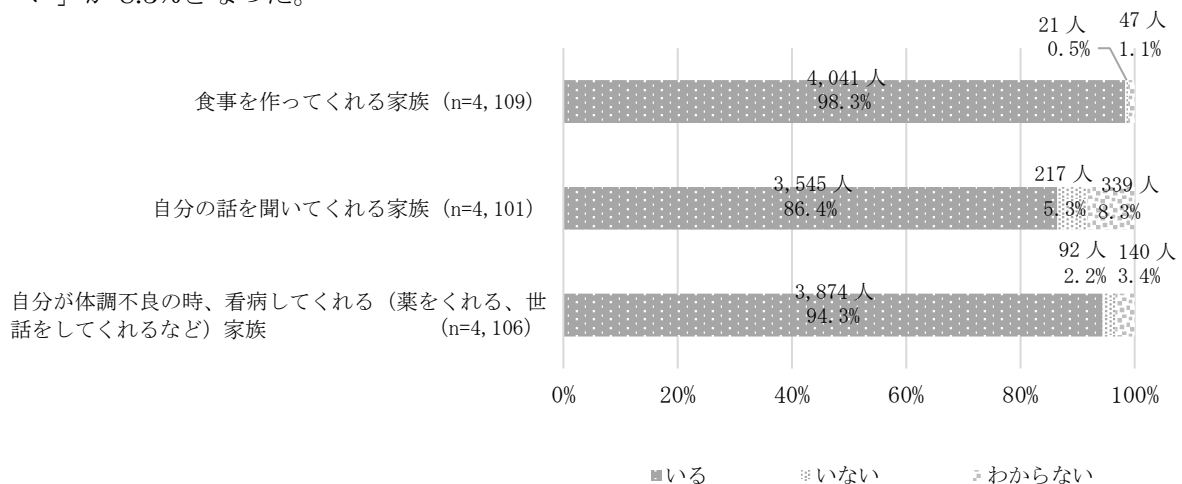
学校がある日とない日を比べると、学校がない日の方が、ケアの時間が長時間化する傾向がみられた。学校がない日では、「8 時間以上」と回答した者の割合が 8.6%であった。



図Ⅱ-4-11 ケアの時間

(3) 家族との関係性

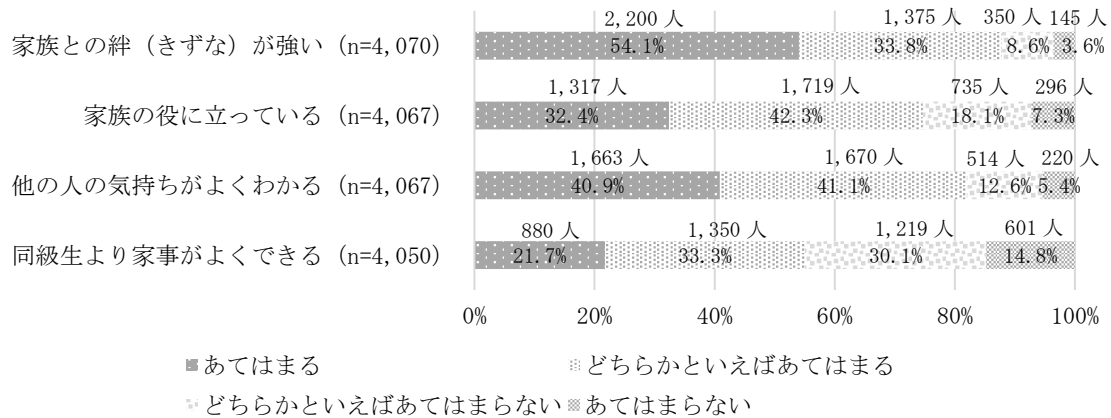
「食事を作ってくれる家族」、「自分の話を聞いてくれる家族」、「自分が体調不良の時、看病してくれる（薬をくれる、世話をしてくれるなど）家族」についているか否かを尋ねた（図Ⅱ-4-12）。いずれも「いる」と回答した者が大多数を占めた。「自分の話を聞いてくれる家族」についてのみ、「いる」と回答した者が 9 割を切り、「いない」が 5.3%、「わからない」が 8.3%となった。



図Ⅱ-4-12 ヤングケアラーの家族との関係性に関する結果

(4) ケアを担うことによるプラスの側面

ケアを担うことによるプラスの側面として4項目を挙げ、あてはまるか否かを尋ねた(図Ⅱ-4-13)。その結果、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した者の割合をみると、「家族との絆(きずな)が強い」が約9割と最も高く、次いで「他の人の気持ちがよくわかる」が約8割となった。

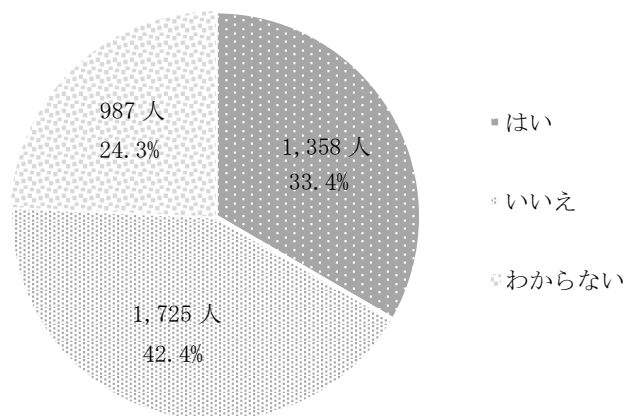


図Ⅱ-4-13 ケアを担うことによるプラスの側面に関する結果

(5) 介護・福祉サービスとケアの内容

①介護・福祉サービスの利用の有無

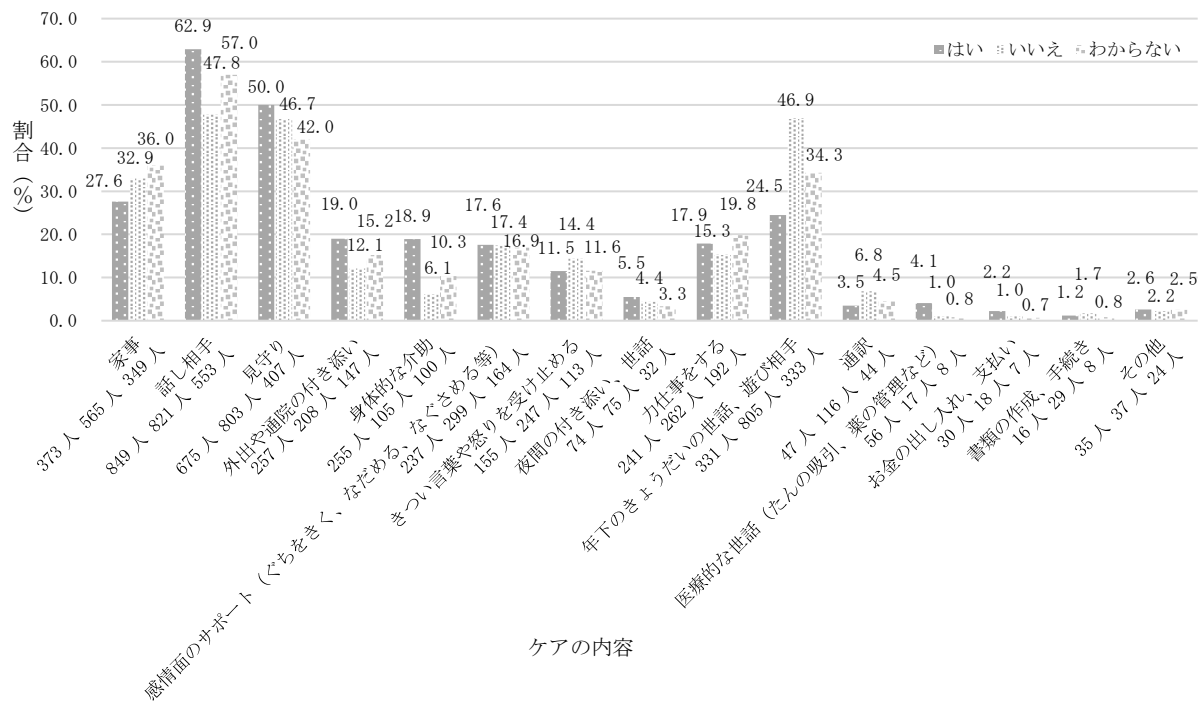
ケアを要する家族のために、介護や福祉のサービスを利用しているかを尋ねた(図Ⅱ-4-14)。「いいえ」と回答した者が最も多く約4割(42.4%)を占め、「はい」と回答した者は約3割(33.4%)、「わからない」と回答した者が24.3%と4分の1近くになった。



図Ⅱ-4-14 介護、福祉サービスの利用 (n=4,070)

②介護、福祉サービスの利用とケアの内容

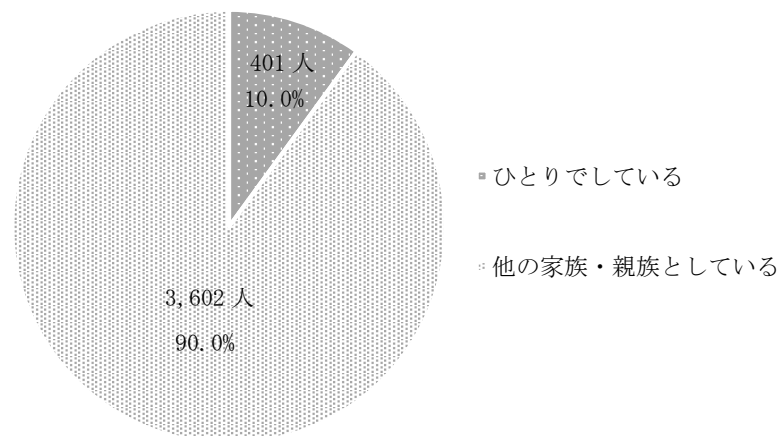
介護、福祉サービスの利用の有無別にケアの内容を集計した（図Ⅱ-4-15）。その結果、介護、福祉サービスの利用について、「はい」と回答した者でも「話し相手」、「身体的な介助」をしていると回答した者の割合は、「いいえ」、「わからない」と回答した者よりも顕著に高かった。一方で、「いいえ」と回答した者では、「年下のきょうだいの世話、遊び相手」をしていると回答した者の割合が顕著に高かった。



図Ⅱ-4-15 介護、福祉サービスの利用とケアの内容 (n=4,038) ※複数選択可

③ケアを他の家族・親族としている否か

ケアを他の家族・親族としているかを尋ねた（図Ⅱ-4-16）。その結果、「他の家族・親族としている」と回答した者が 90.0%と多くを占めたが、「ひとりでしている」と回答した者も 10.0%であり少なからず存在した。

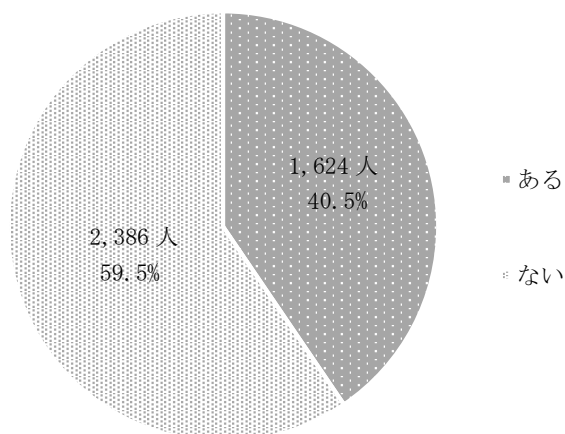


図Ⅱ-4-16 ケアを他の家族・親族としているか (n=4,003)

④ケアしていることを家族以外の人に話したことはあるか

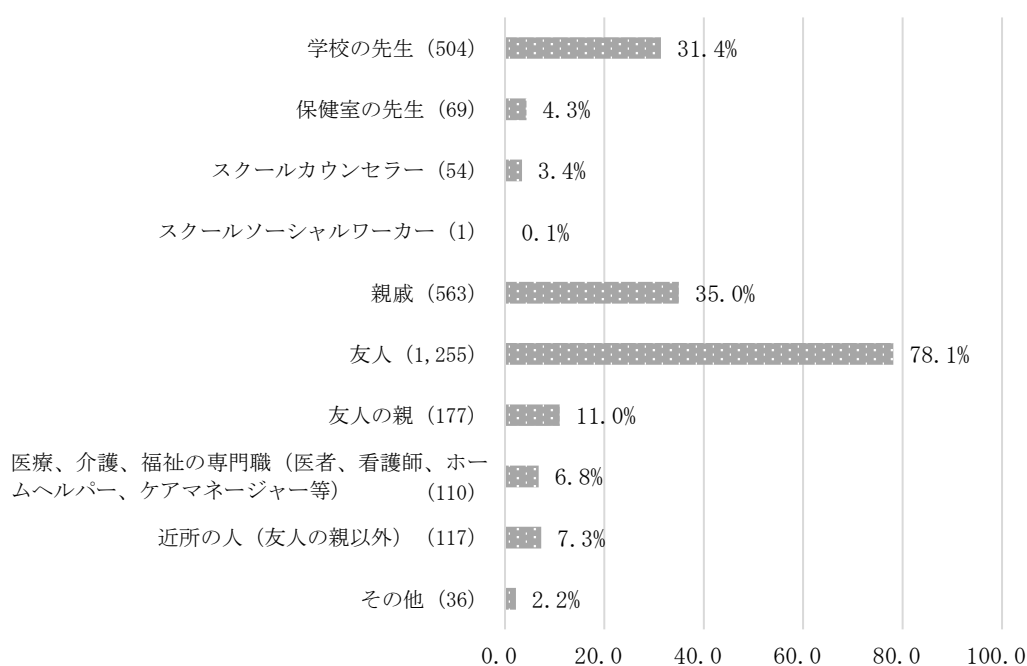
ケアをしていることを家族以外の人に話したことがあるかを尋ねた（図Ⅱ-4-17）。「ある」と回答した者は約4割（40.5%）になり、約6割（59.5%）は「ない」と回答した。

また、話したことがあると回答した者に、その相手を探ねた（図Ⅱ-4-18）。その結果、「友人」が最も多く（78.1%）、次いで「親戚」（35.0%）、「学校の先生」（31.4%）となった。



図Ⅱ-4-17 家族のケアをしていることを家族以外の人に話したことがあるか（n=4,010）

※複数選択可

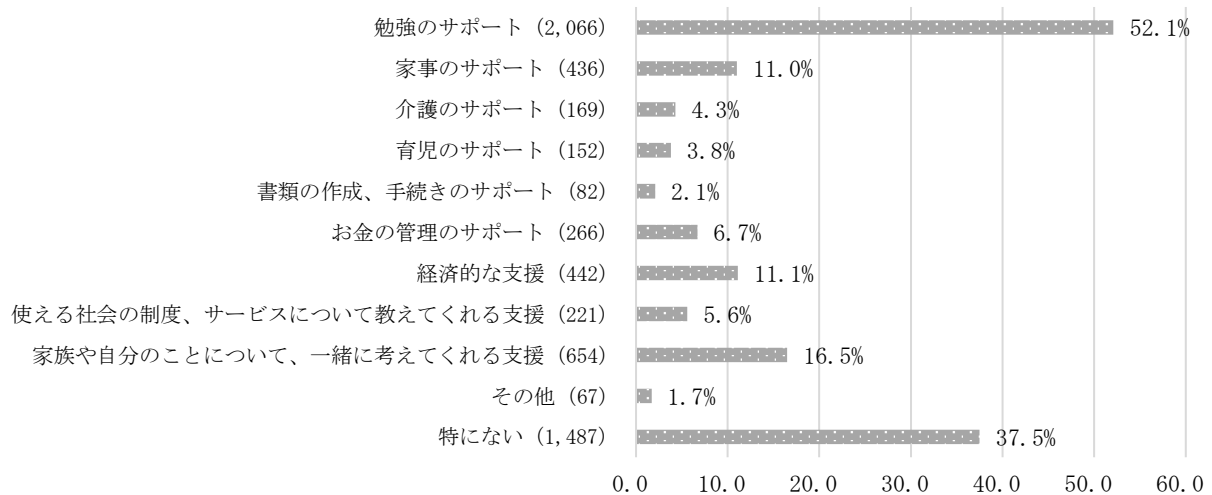


図Ⅱ-4-18 家族のケアをしていることを話したことがある人（n=1,607）

※複数選択可

(6) 今、ほしいと思うサポートや支援

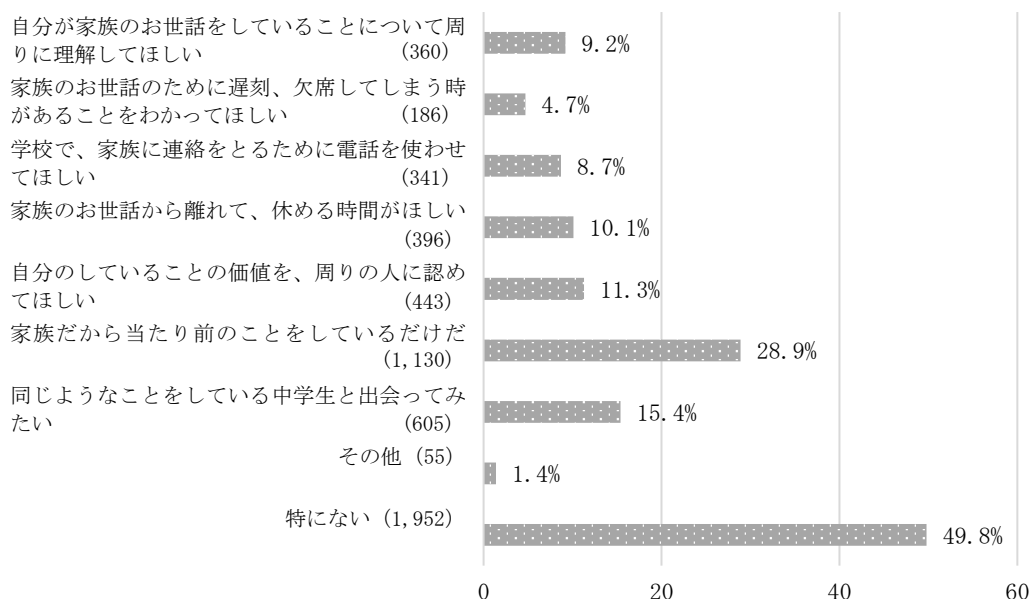
今、ほしいと思うサポートや支援について尋ねた（図Ⅱ-4-19）。その結果、「勉強のサポート」が最も多く約半数の者が選択していた（52.1%）。次いで、「家族や自分のことについて、一緒に考えてくれる支援」（16.5%）、「経済的な支援」（11.1%）、「家事のサポート」（11.0%）、と続いた。なお、「特にない」と回答した者が約4割（37.5%）いた。



図Ⅱ-4-19 今、ほしいと思うサポートや支援（n=3,965）※複数選択可

(7) 学校、社会、周囲に対して思ったことがあること

ケアをしてきて、学校、社会、周囲の人などに対して思ったことがあることを尋ねた（図Ⅱ-4-20）。その結果、「特にない」が最も多く（49.8%）、次いで「家族だから当たり前のことをしているだけだ」（28.9%）、「同じようなことをしている中学生と出会ってみたい」（15.4%）、「自分のしていることの価値を、周りの人に認めてほしい」（11.3%）、「家族のお世話から離れて、休める時間がほしい」（10.1%）と続いた。



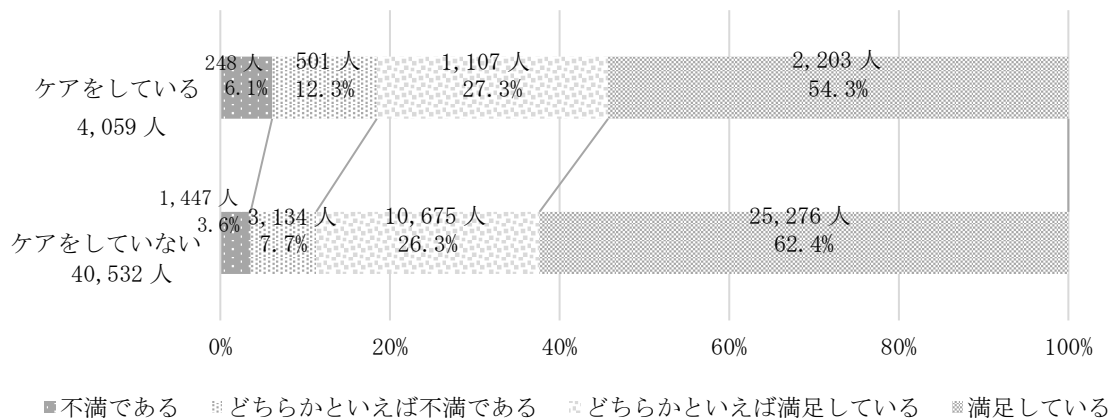
図Ⅱ-4-20 学校、社会、周囲に対して思うこと（n=3,916）※複数選択可

Ⅲ ケアの有無に注目したクロス集計の結果

1. ケアの有無別の集計結果

(1) 生活満足感

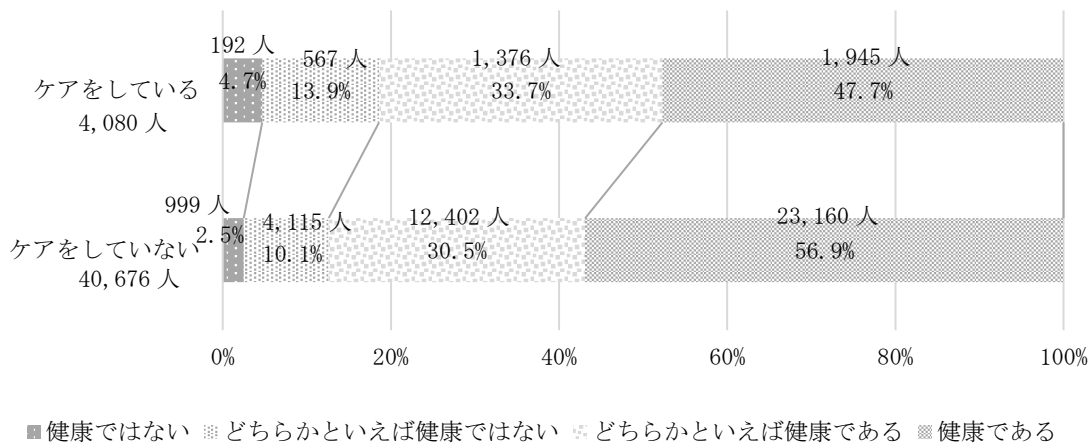
ケアをしている者としていない者で、生活満足感を比較した（図Ⅲ-1-1）。ケアをしている者の方がケアをしていない者よりも、生活満足感が低い傾向が認められた。



図Ⅲ-1-1 ケアの有無と生活満足感 (n=44,591)

(2) 全体的な健康感

ケアをしている者としていない者で、全体的な健康感を比較した（図Ⅲ-1-2）。ケアをしている者の方がケアをしていない者よりも、健康感が低い傾向が認められた。

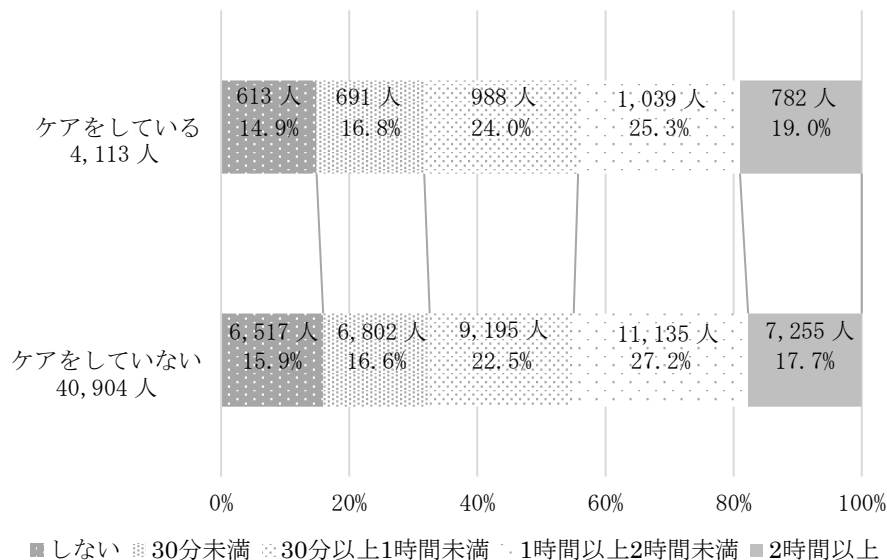


図Ⅲ-1-2 ケアの有無と全体的な健康感【ケアの有無別】 (n=44,756)

(3) 生活時間

① 普段の平日の勉強時間

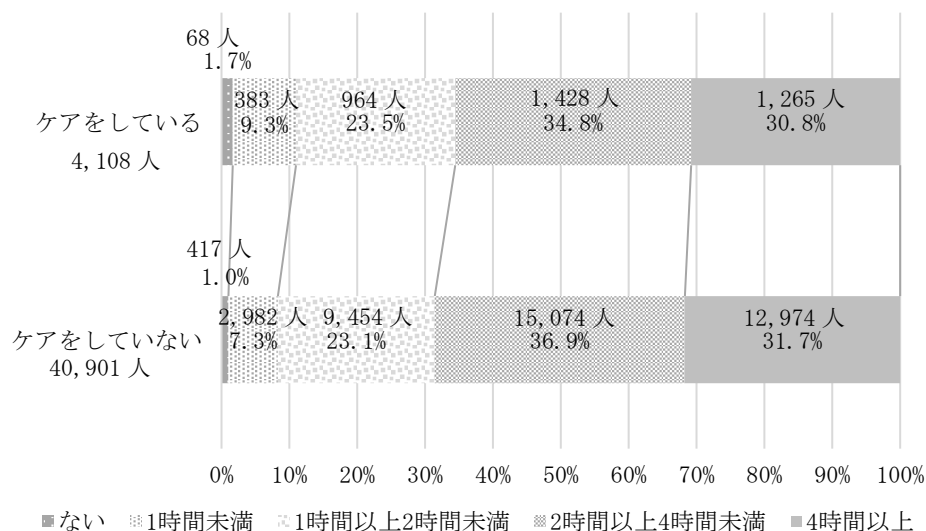
ケアをしている者としていない者で、普段の平日の勉強時間（学校の授業以外）について比較した（図Ⅲ-1-3）。その結果、顕著な差はみられなかった。



図Ⅲ-1-3 ケアの有無と普段の平日の勉強時間
（学校の授業以外）（n=45,017）

② 普段の平日の好きなことをしたりゆっくり過ごす時間

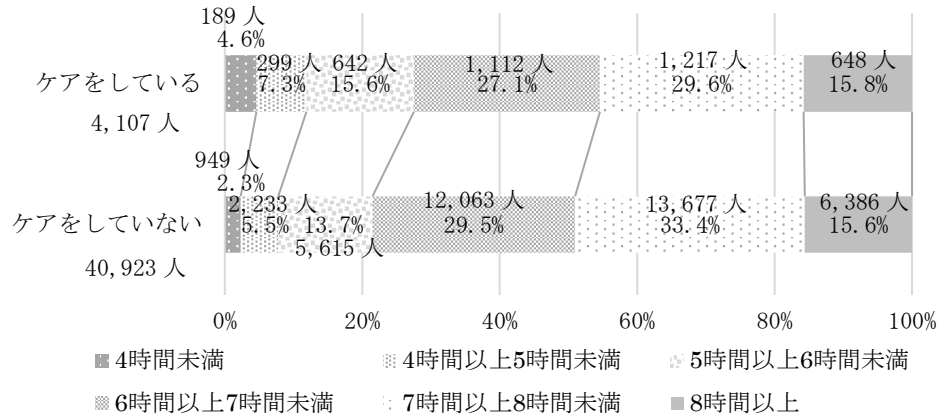
ケアをしている者としていない者で、普段の平日の好きなことをしたりゆっくり過ごす時間について比較した（図Ⅲ-1-4）。その結果、1時間未満と回答した者がケアをしている者に多かったが、顕著な差はみられなかった。



図Ⅲ-1-4 ケアの有無と普段の平日自分の好きなことをしたり
ゆっくり過ごす時間（n=45,009）

③普段の平日の睡眠時間

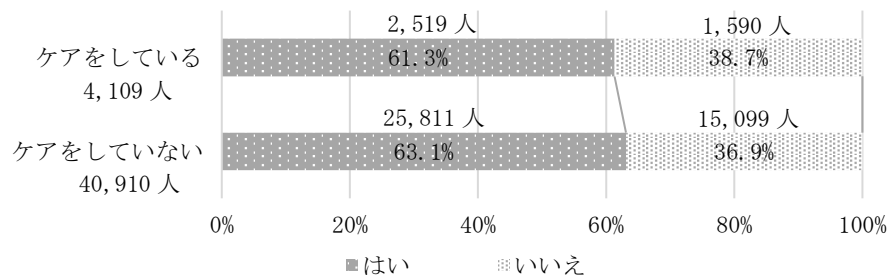
ケアをしている者としていない者で、普段の平日の睡眠時間について比較した（図Ⅲ-1-5）。その結果、特に6時間未満の者がケアをしている者に多いなど、ケアをしている者の方が睡眠時間が短い傾向がみられた。



図Ⅲ-1-5 ケアの有無と普段の平日の睡眠時間 (n=45,030)

(4) お小遣い

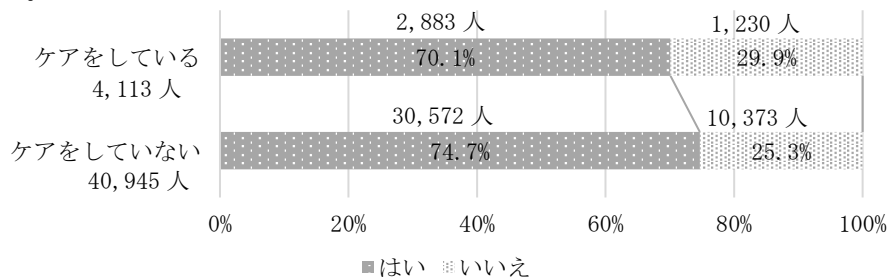
ケアをしている者としていない者で、毎月、お小遣いをもらっているか否かを比較した（図Ⅲ-1-6）。ケアをしている者の方がケアをしていない者よりも、「はい」と回答した者の割合が低かったが、顕著な違いは認められなかった。



図Ⅲ-1-6 ケアの有無と毎月、お小遣いをもらっているか (n=45,019)

(5) 塾や習い事

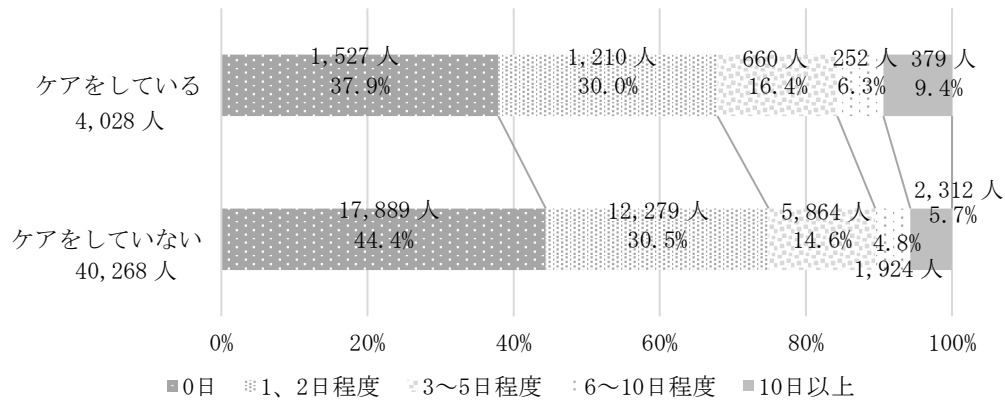
ケアをしている者としていない者で、現在、塾や習い事に通っているか否かを比較した（図Ⅲ-1-7）。ケアをしている者の方がケアをしていない者よりも、「はい」と回答した者の割合が低かった。



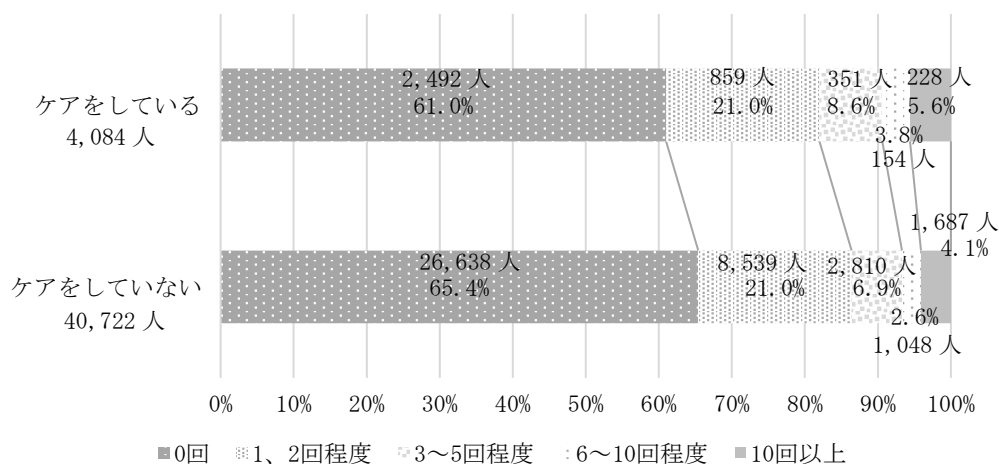
図Ⅲ-1-7 ケアの有無と現在、塾や習い事に通っているか (n=45,058)

(6) 学校生活－欠席、遅刻、宿題忘れ

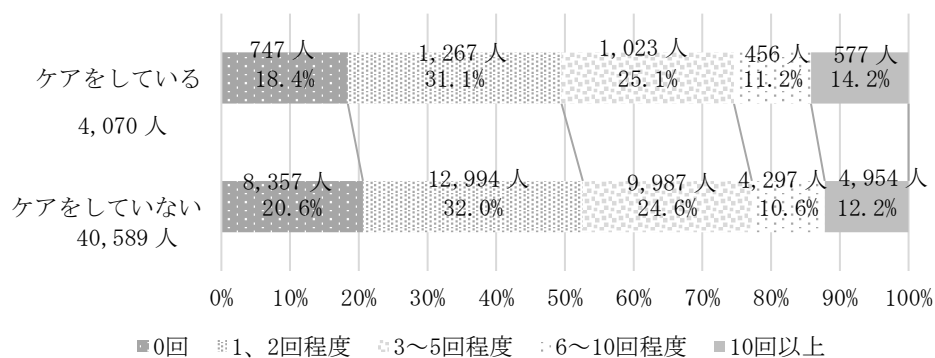
ケアをしている者としていない者で、欠席、遅刻、宿題忘れに関する回答を比較した（図Ⅲ-1-8～図Ⅲ-1-10）。その結果、ケアをしている者の方がしていない者と比較して、欠席日数や遅刻・宿題忘れの回数が多い傾向が認められた。特に、欠席の日数については、顕著な差がみられた。



図Ⅲ-1-8 ケアの有無と2021（令和3）年度1学期の欠席日数（n=44,296）



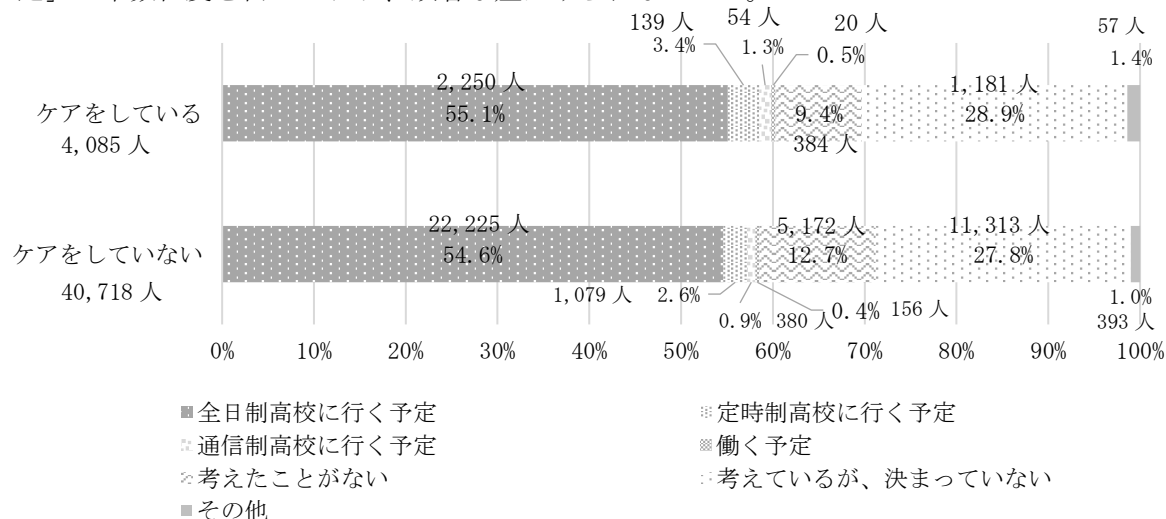
図Ⅲ-1-9 ケアの有無と2021（令和3）年度1学期に遅刻をした回数（n=44,806）



図Ⅲ-1-10 ケアの有無と2021（令和3）年度1学期に宿題を忘れた回数（n=44,659）

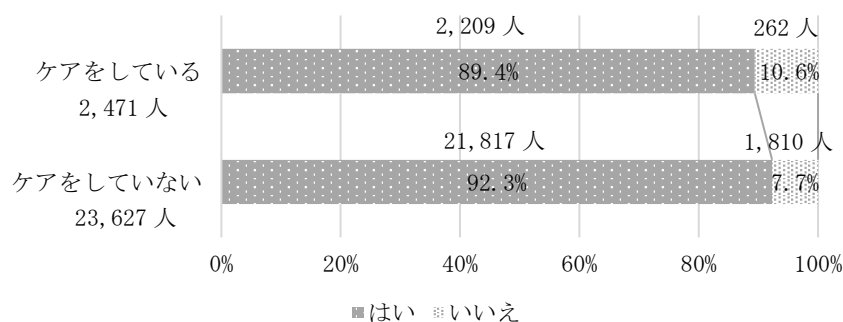
(7) 卒業後の進路先

ケアをしている者としていない者で、卒業後の進路先に関する回答を比較した（図Ⅲ-1-11）。卒業後の進路先については、ケアをしているか否かに関わらず、「全日制高校に行く予定」が半数程度を占めており、顕著な差はみられなかった。



図Ⅲ-1-11 ケアの有無と卒業後の進路に関する回答 (n=44,803)

ケアをしている者としていない者で、進路先が希望通りかを比較した（図Ⅲ-1-12）。その結果、ケアをしている者の方の場合「いいえ」と回答した者が10.6%、ケアをしていない者の方の場合「いいえ」と回答した者が7.7%であり、ケアをしている者の方が卒業後の進路先が希望通りではないという回答が多かった。

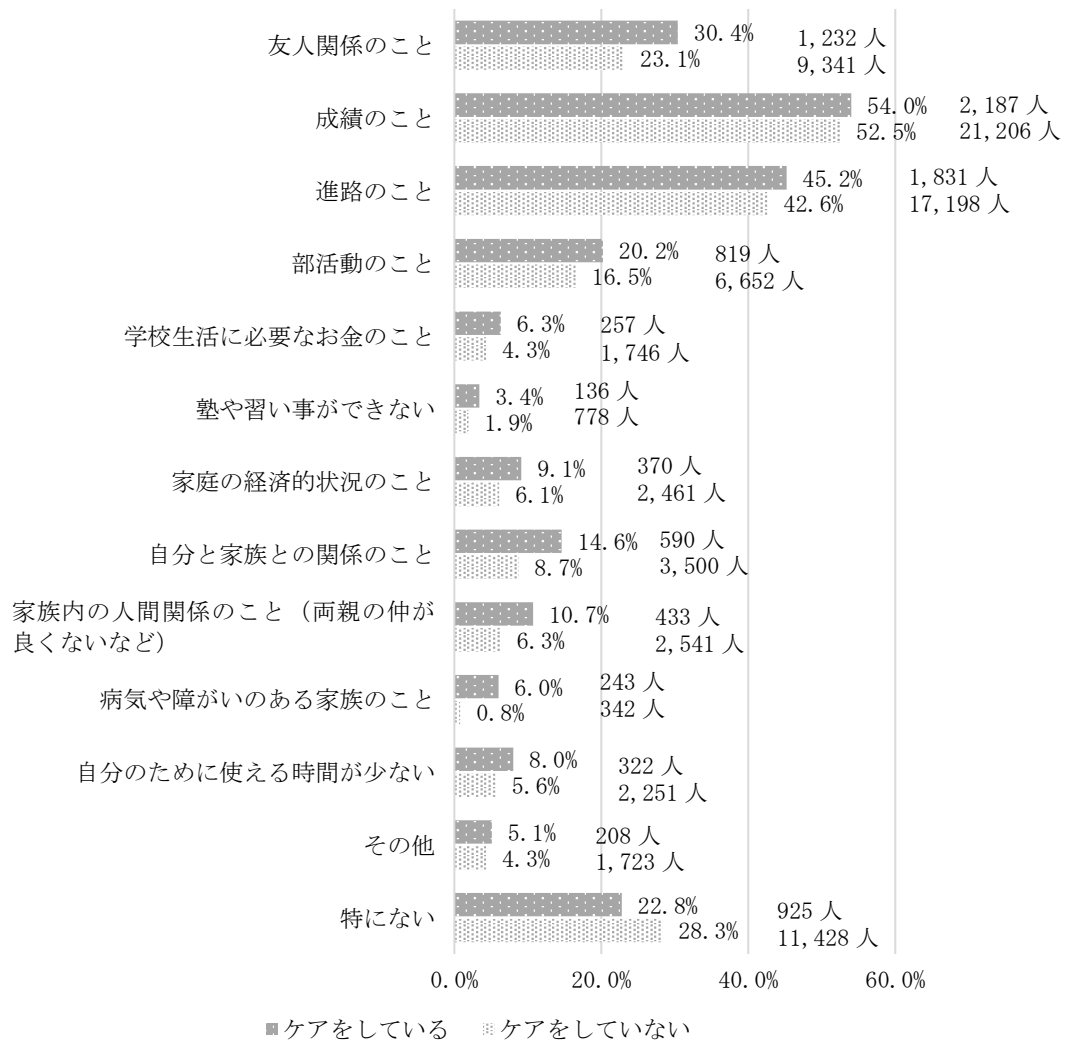


図Ⅲ-1-12 ケアの有無と卒業後の進路先が希望通りかどうか (n=26,098)

(8) 悩みや困りごと

①悩みや困りごとの有無

ケアをしている者としていない者で、悩みや困りごとの回答を比較した（図Ⅲ-1-13）。ケアをしているか否かに関係なく様々な悩みや困りごとを抱えているといえるが、ケアをしている者の場合、「友人関係のこと」、「部活動のこと」、「自分と家族との関係のこと」、「病気や障がいのある家族のこと」等を選択した者の割合が、ケアをしていない者よりも高かった。また、「特にない」と回答した割合は、ケアをしていない者の方が高かった。

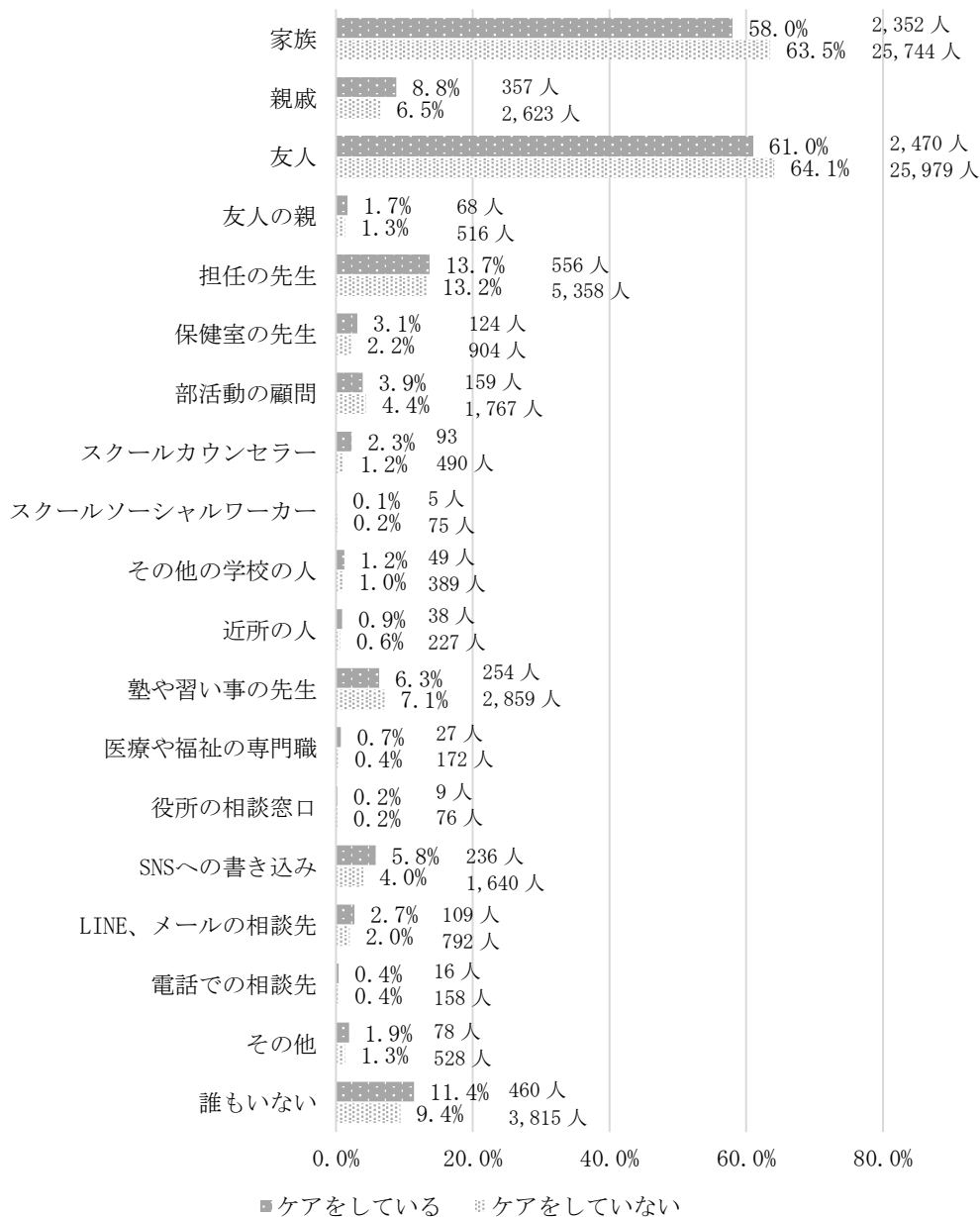


図Ⅲ-1-13 ケアの有無別にみた、悩んだり困ったりしていること（n=44,434）

※複数選択可

(9) 相談しやすい相手

ケアをしている者としていない者で、悩みや困りごとを相談しやすい場所（人）の回答を比較した（図Ⅲ-1-14）。ケアをしているか否かによる顕著な違いはみられないが、「家族」と回答した割合は、ケアをしている者の方が、ケアをしていない者よりも低かった。「誰もいない」と回答した者の割合は、ケアをしている者の方が高かった。



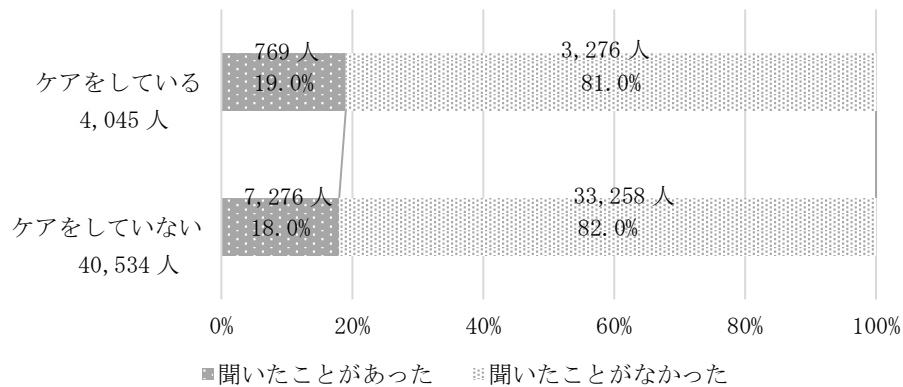
図Ⅲ-1-14 ケアの有無別にみた悩みや困りごとを相談しやすい場所（人）（n=44,579）

※複数選択可

(10) ヤングケアラーに関する認識

①ヤングケアラーという言葉聞いたことがあるか

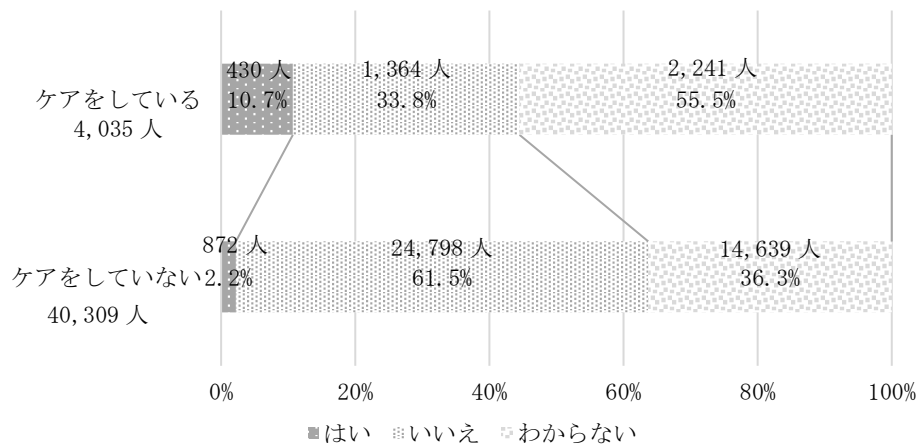
ケアをしている者としていない者で、「ヤングケアラー」という言葉を聞いたことがあるかを比較した（図Ⅲ-1-15）。ケアを担っているかどうかで、ヤングケアラーという言葉聞いたことがあるかには、顕著な差はみられなかった。



図Ⅲ-1-15 ケアの有無とヤングケアラー」という言葉を以前に聞いたことがありましたか (n=44,579)

②自分をヤングケアラーだと思うか

ケアをしている者としていない者で、自分を「ヤングケアラー」だと思うかに対する回答を比較した（図Ⅲ-1-16）。ケアをしている者では約1割が「はい」と答えており、ケアをしていない者よりも高い割合になった。ただし、ケアをしている者の約3割は「いいえ」と回答しており、5割以上が「わからない」と回答していた。ケアの有無の状況と自身をヤングケアラーだと思うかについては、一致しない場合が多い結果になった。

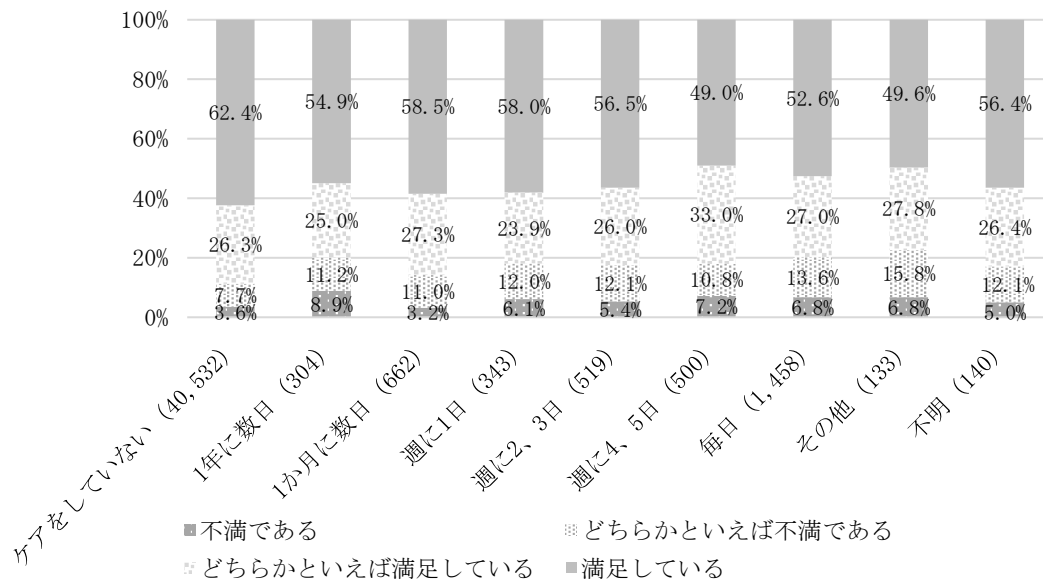


図Ⅲ-1-16 ケアの有無と自分を「ヤングケアラー」だと思いますか (n=44,344)

2. ケアの頻度と時間別の集計結果

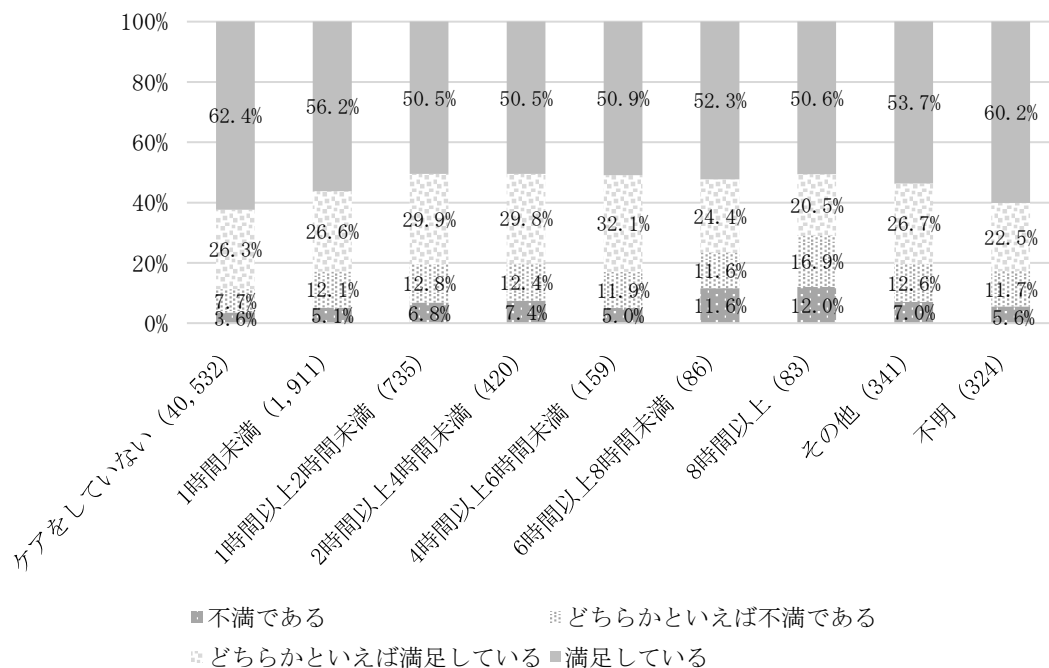
(1) 生活満足感

ケアの頻度と生活満足感の関係を調べた(図Ⅲ-2-1)。図Ⅲ-1-1と同様、ケアをしている者の方が生活満足感が低い傾向が認められたが、ケアの頻度によって顕著な差は認められなかった。

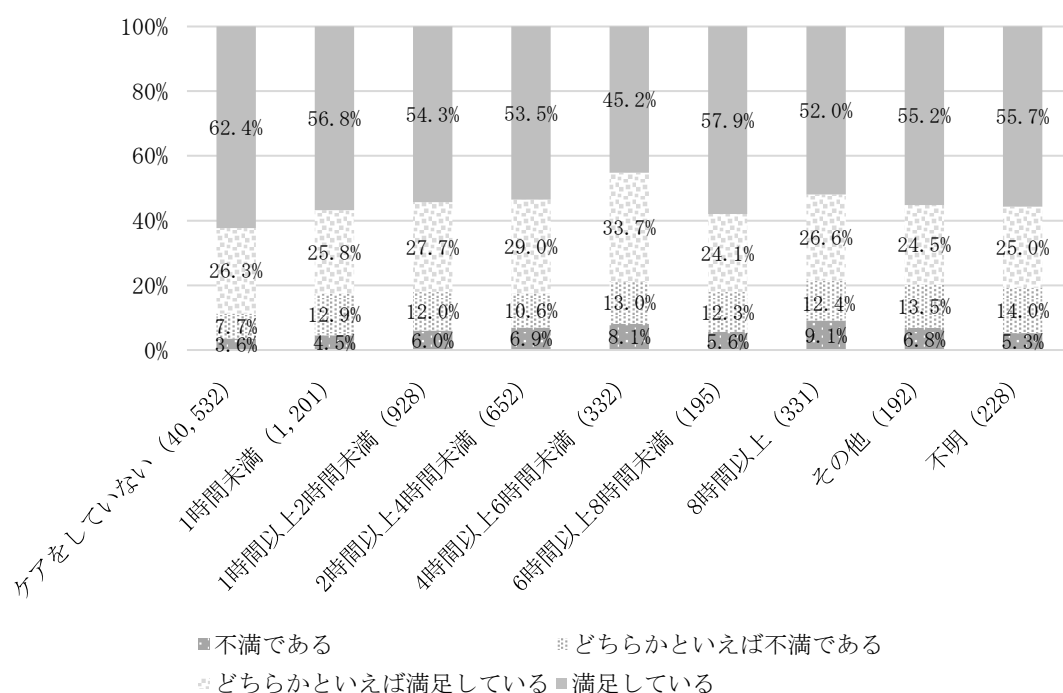


図Ⅲ-2-1 ケアの頻度と生活満足感 (n=44,591)

学校がある日、学校がない日について、ケアの時間と生活満足感の関係を調べた(図Ⅲ-2-2、図Ⅲ-2-3)。特に学校がある日に、ケアの時間が長くなるほど生活満足感が低くなる傾向がみられた。



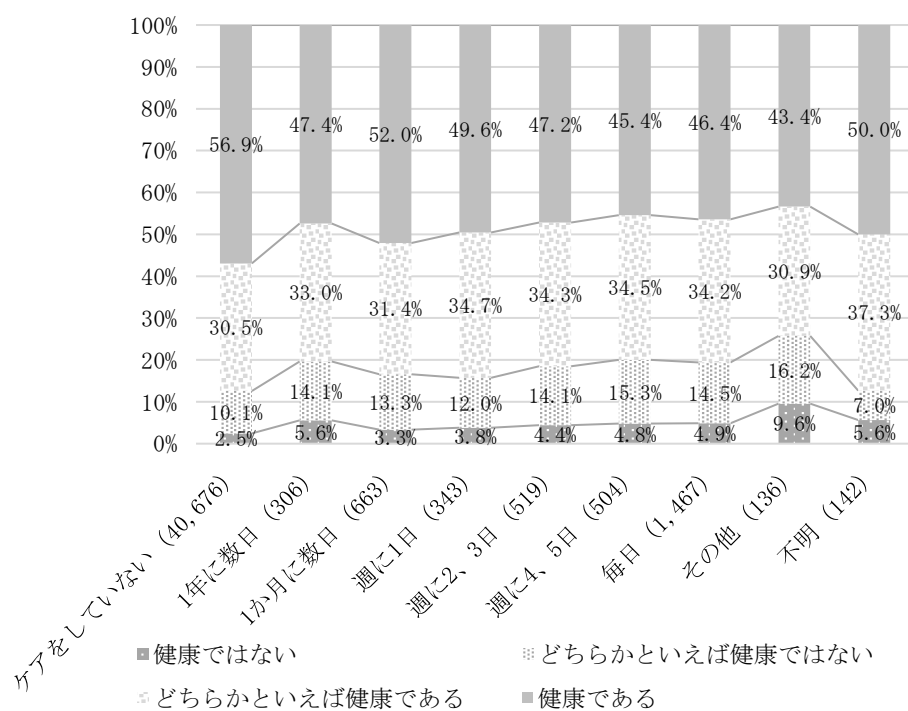
図Ⅲ-2-2 学校がある日のケア時間と生活満足感 (n=44,591)



図Ⅲ-2-3 学校がない日のケア時間と生活満足感 (n=44,591)

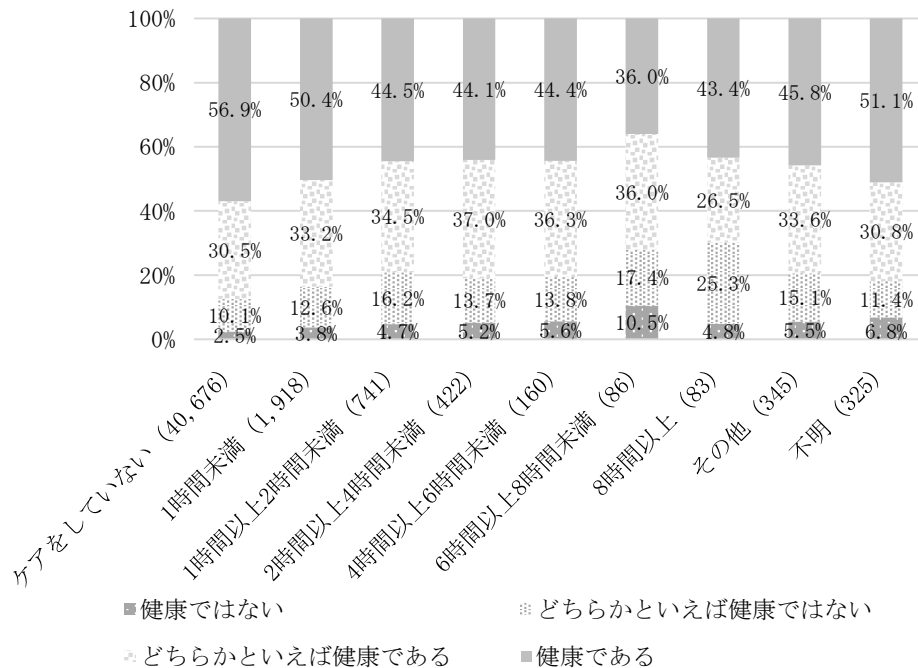
(2) 全体的な健康感

ケアの頻度と全体的な健康感の関係を調べた(図Ⅲ-2-4)。図Ⅲ-1-2と同様、ケアをしているの方が全体的な健康感が低い傾向が認められたが、ケアの頻度によって顕著な差は認められなかった。

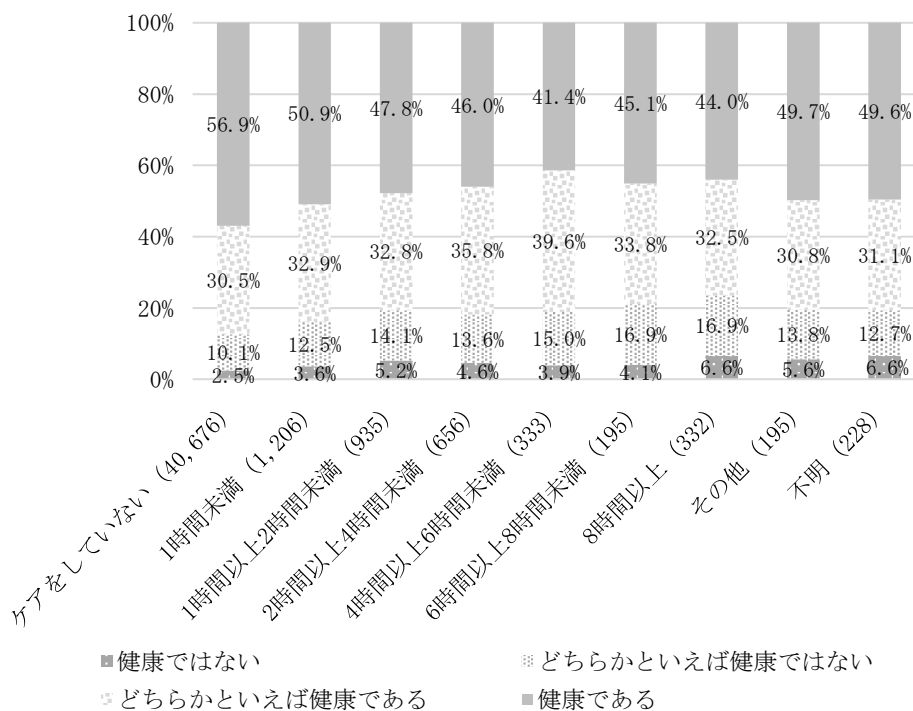


図Ⅲ-2-4 ケアの頻度と全体的な健康感 (n=44,756)

学校がある日、学校がない日について、ケアの時間と全体的な健康感の関係を調べた（図Ⅲ-2-5、図Ⅲ-2-6）。学校がある日、ない日ともに、ケアの時間が長くなるほど健康感が低くなる傾向がみられた。特に、学校がある日に、6時間以上（「6時間以上8時間未満」および「8時間以上」）の者において、「健康ではない」あるいは「どちらかといえば健康ではない」と回答した者の割合が顕著に高かった。



図Ⅲ-2-5 学校がある日のケア時間と全体的な健康感 (n=44,756)



図Ⅲ-2-6 学校がない日のケア時間と全体的な健康感 (n=44,756)

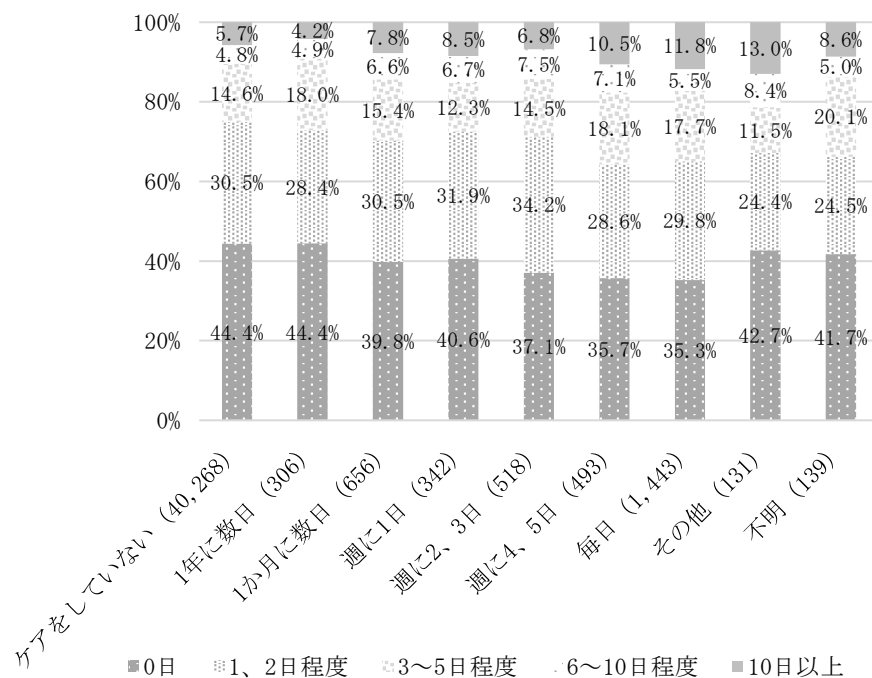
(3) 学校生活－欠席・遅刻・宿題忘れ

①ケアの頻度と学校生活（欠席・遅刻・宿題忘れ）

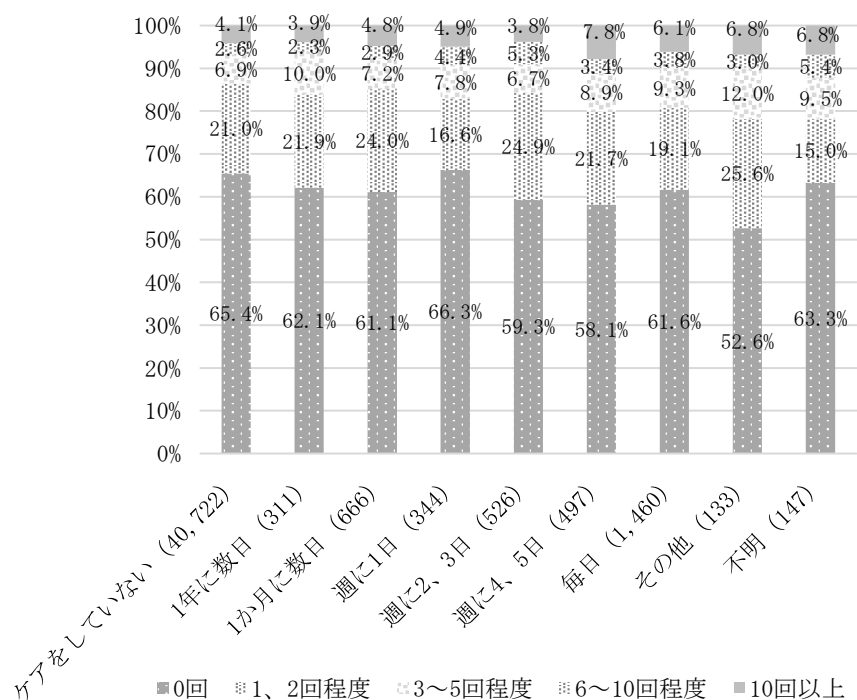
ケアの頻度と 2021（令和 3）年度 1 学期の欠席・遅刻・宿題忘れの関係を調べた（図Ⅲ-2-7～図Ⅲ-2-9）。

欠席の日数、遅刻の回数（図Ⅲ-2-7、図Ⅲ-2-8）は、「週に 4、5 日」あるいは「毎日」ケアをしている者の場合、日数、回数が多い傾向がみられた。欠席については「10 日以上」と回答した割合が約 1 割、遅刻については「10 回以上」と回答した割合が 6%～8% 程度であった。また、「その他」と回答した者においても、欠席が「10 日以上」と回答した者の割合が 1 割を超え、遅刻についても「10 回以上」が 6.8%と高い値を示していた。なお、欠席の日数、遅刻の回数ともに、「1 年に数日」と回答した者は、ケアをしていない者とほとんど差は認められなかった。

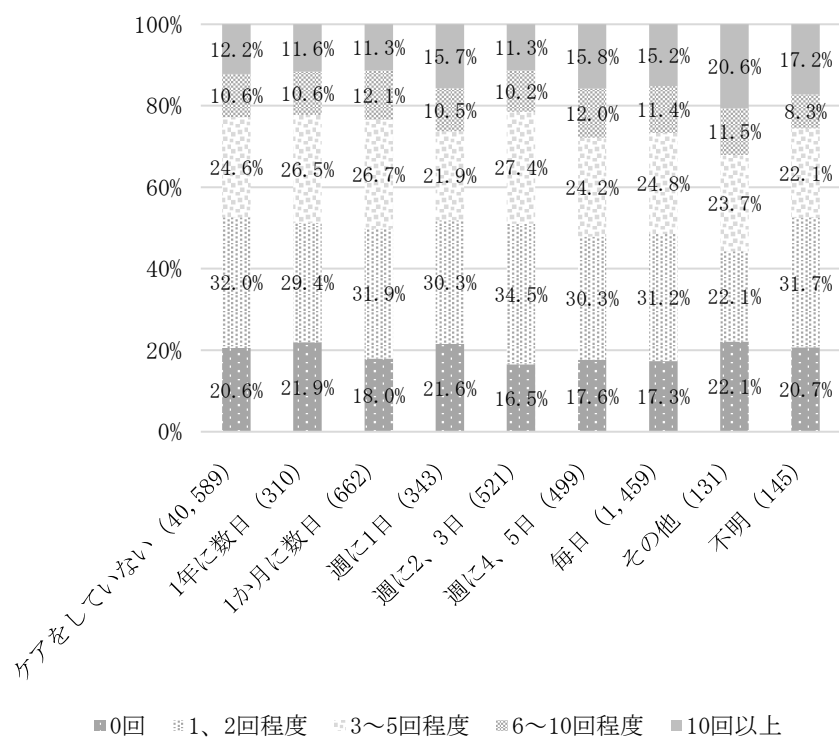
宿題忘れの回数（図Ⅲ-2-9）については、ケアの頻度による差はほとんどみられなかった。ただし、「その他」と回答した者については、「10 回以上」と回答した者が約 2 割であり、他の群と比べて多かった。



図Ⅲ-2-7 ケアの頻度と 2021（令和 3）年度 1 学期の欠席日数（n=44, 296）



図Ⅲ-2-8 ケアの頻度と1学期の遅刻回数 (n=44,806)

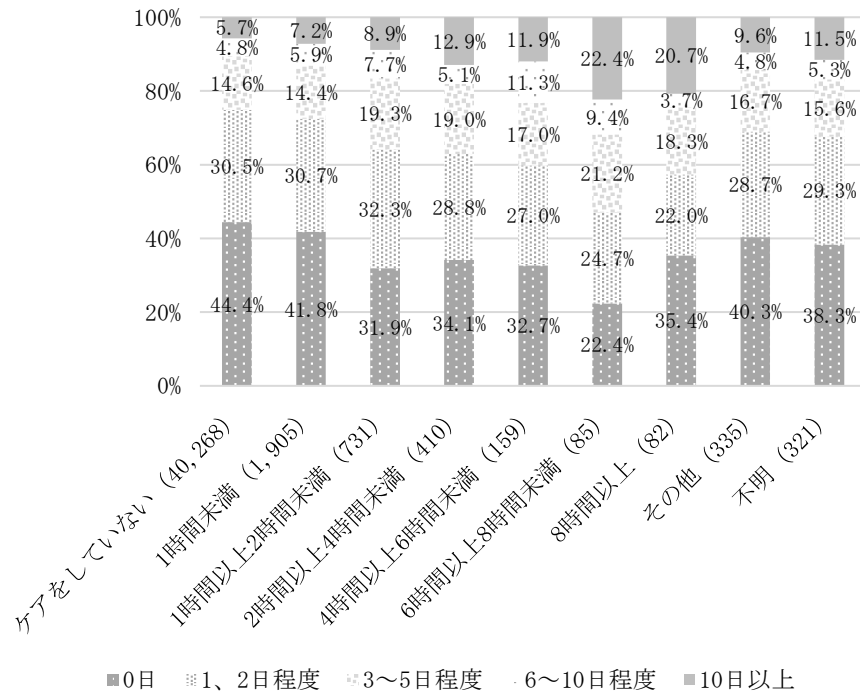


図Ⅲ-2-9 ケアの頻度と1学期の宿題を忘れた回数 (n=44,659)

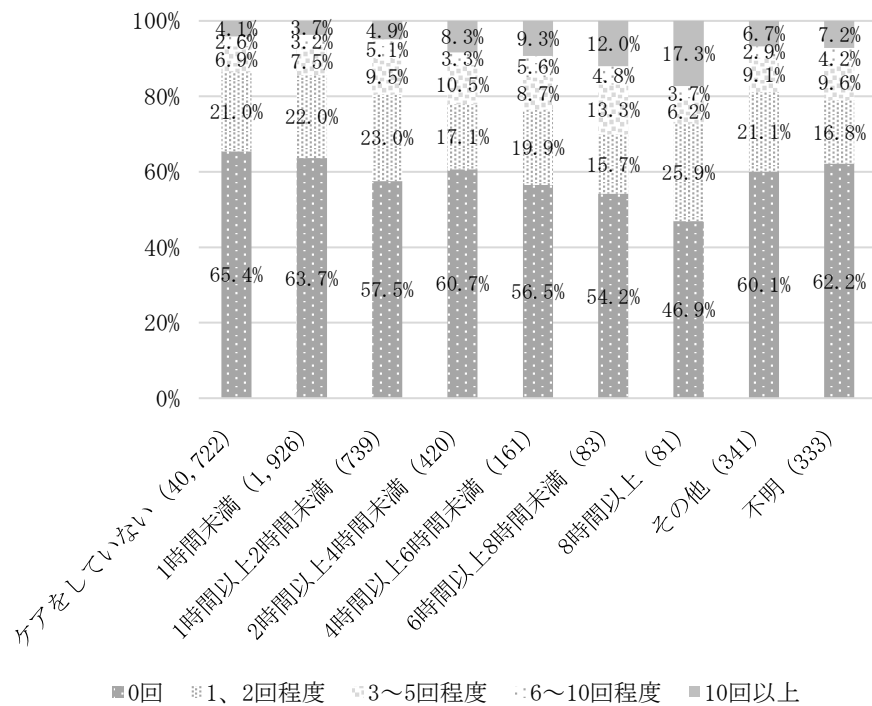
②学校がある日のケアの時間と学校生活（欠席・遅刻・宿題忘れ）

学校がある日のケアの時間と 2021（令和 3）年度 1 学期の欠席・遅刻・宿題忘れの関係を調べた（図Ⅲ-2-10～図Ⅲ-2-12）。

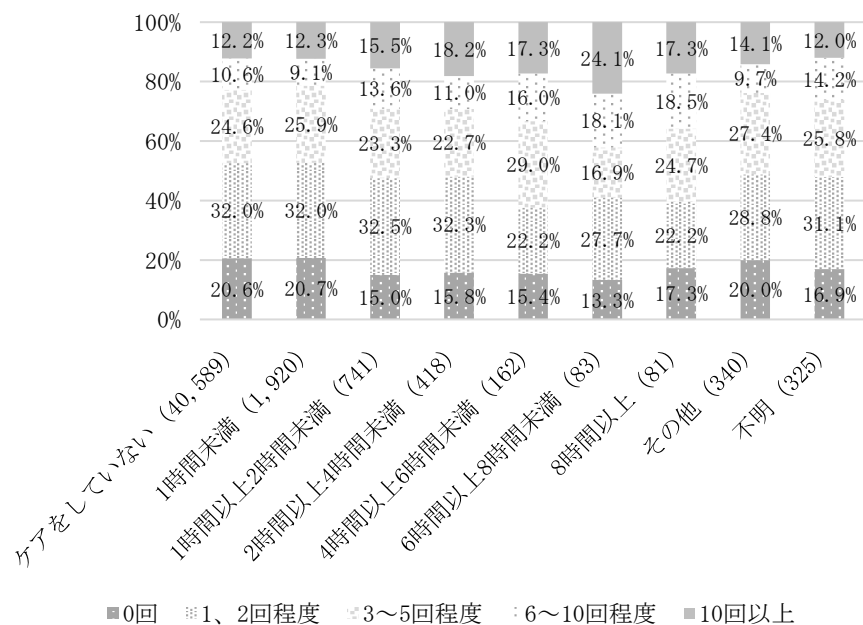
学校がある日のケアの時間が長くなるほど、欠席の日数、遅刻、宿題忘れの回数が増える傾向がみられた。「6 時間以上 8 時間未満」あるいは「8 時間以上」と回答した者をみると、欠席の日数が「10 日以上」と回答した者が 2 割を超え、遅刻は「10 回以上」と回答した者が 1 割を超え、宿題忘れは「10 回以上」と回答した者が 2 割前後となった。



図Ⅲ-2-10 学校がある日のケア時間と 2021（令和 3）年度 1 学期の欠席日数（n=44, 296）



図Ⅲ-2-11 学校がある日のケア時間と 2021（令和 3）年度 1 学期の遅刻回数（n=44,806）

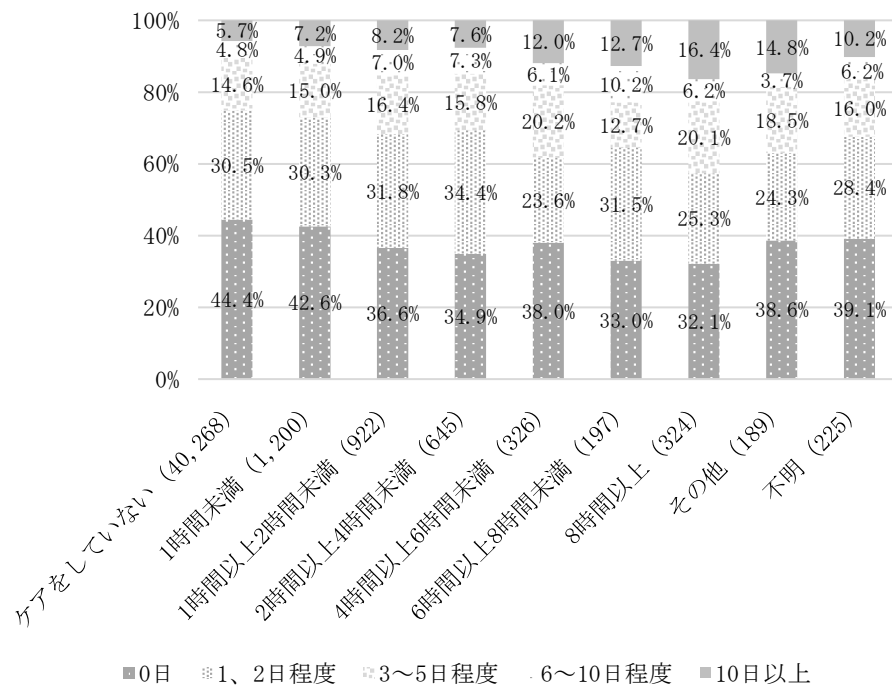


図Ⅲ-2-12 学校がある日のケア時間と 2021（令和 3）年度 1 学期の宿題を忘れた回数（n=44,659）

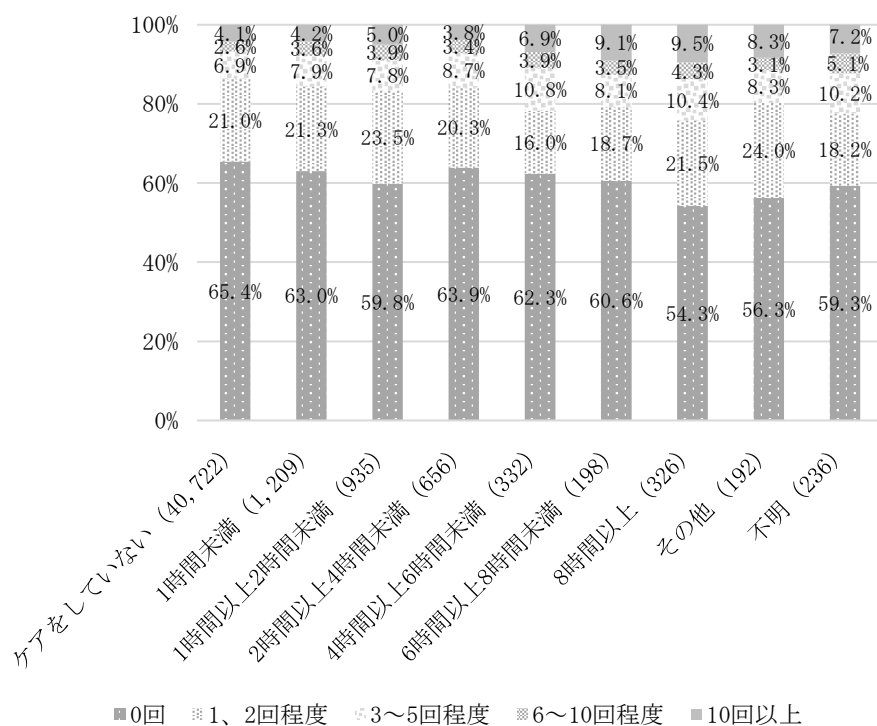
③学校がない日のケアの時間と欠席・遅刻・宿題忘れ

学校がない日のケアの時間と 2021（令和 3）年度 1 学期の欠席・遅刻・宿題忘れの関係を調べた（図Ⅲ-2-13～図Ⅲ-2-15）。

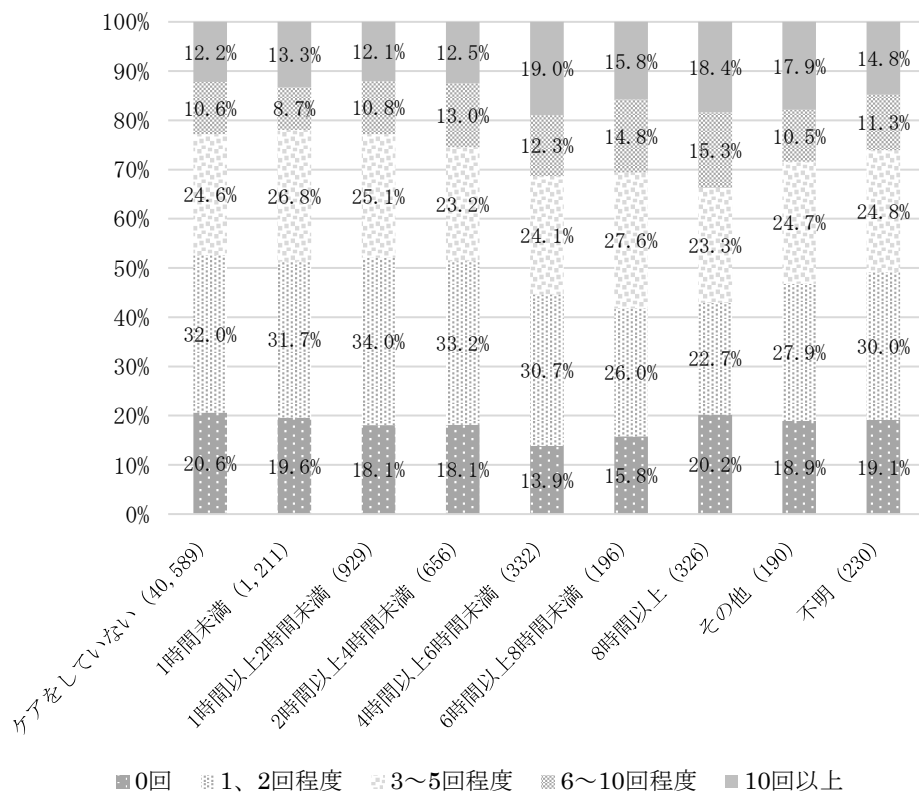
学校がある日の場合と同様に、ケアの時間が長い方が欠席の日数、遅刻、宿題忘れの回数が多い傾向がみられた。特に、欠席の日数は、4 時間以上（「4 時間以上 6 時間未満」「6 時間以上 8 時間未満」「8 時間以上」）と回答した者において、「10 日以上」と回答した者が 1 割を超えていた。



図Ⅲ-2-13 学校がない日のケア時間と 2021（令和 3）年度 1 学期の欠席日数（n=44, 296）



図Ⅲ-2-14 学校がない日のケア時間と 2021（令和3）年度1学期の遅刻回数（n=44,806）

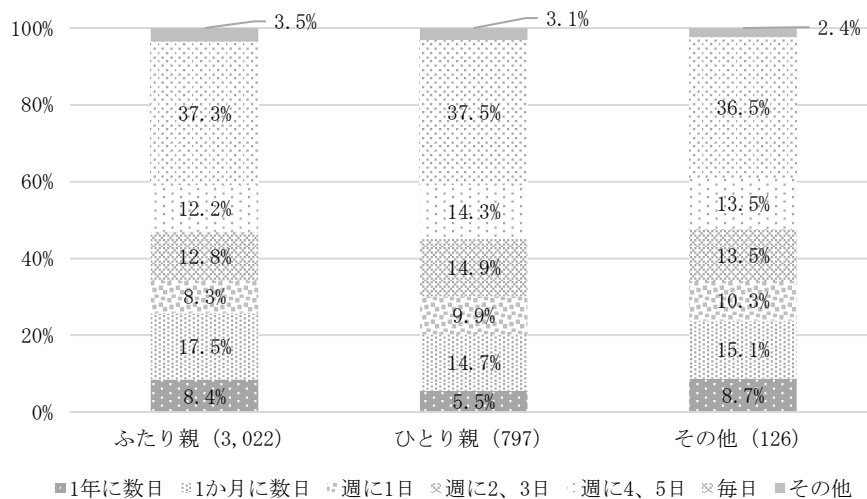


図Ⅲ-2-15 学校がない日のケア時間と 2021（令和3）年度1学期の宿題を忘れた回数（n=44,659）

3. 家族形態別の集計結果

(1) 家族形態とケアの頻度

家族形態別にケアの頻度を集計した（図Ⅲ-3-1）。ケアの頻度については、家族形態による顕著な違いはみられなかった。



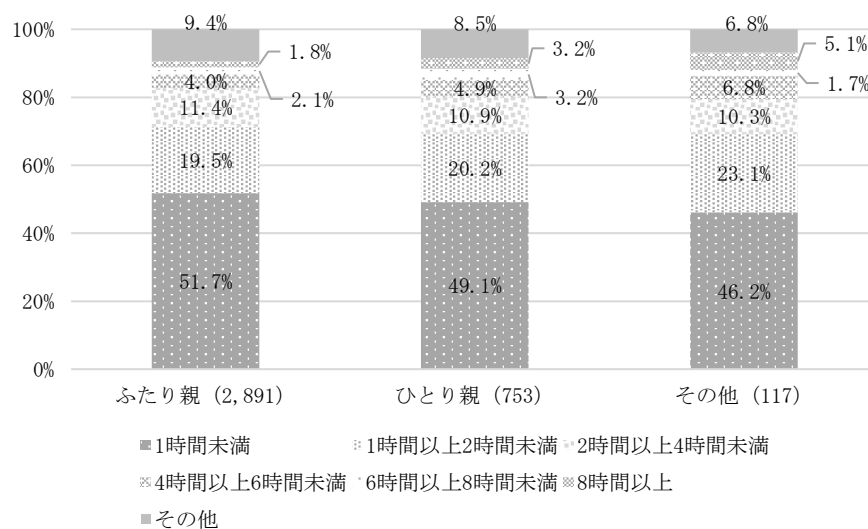
図Ⅲ-3-1 家族形態とケアの頻度 (n=3,945)

(2) 家族形態とケアの時間

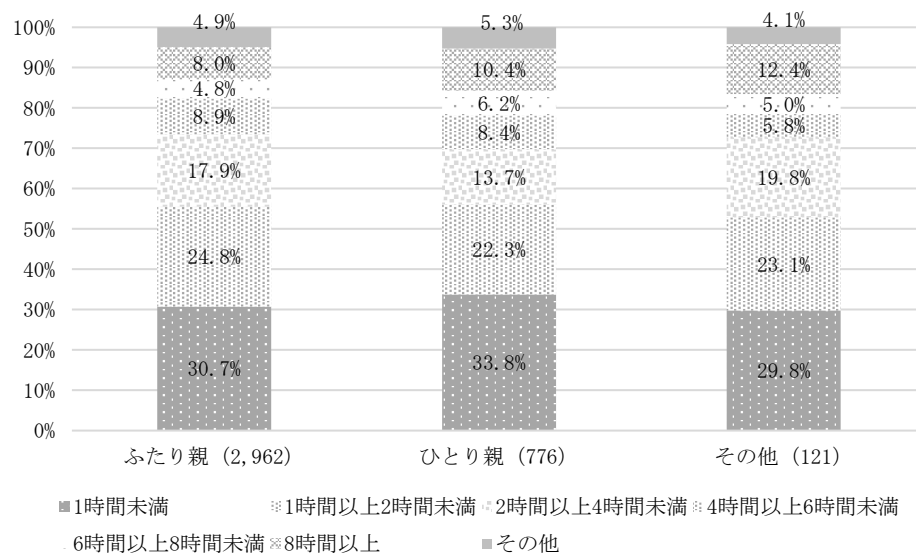
家族形態別にケアの時間を集計した（図Ⅲ-3-2、図Ⅲ-3-3）。

学校がある日のケアの時間（図Ⅲ-3-2）では、「1時間未満」と回答した者の割合は、ふたり親で51.7%、ひとり親で49.1%、その他で46.2%であった。一方で、「8時間以上」と回答した者の割合は、ふたり親で1.8%、ひとり親で3.2%、その他で5.1%であった。

学校がない日のケアの時間（図Ⅲ-3-3）では、「8時間以上」と回答した者の割合は、ふたり親で8.0%、ひとり親で10.4%、その他で12.4%であった。



図Ⅲ-3-2 家族形態と学校がある日のケア時間 (n=3,761)



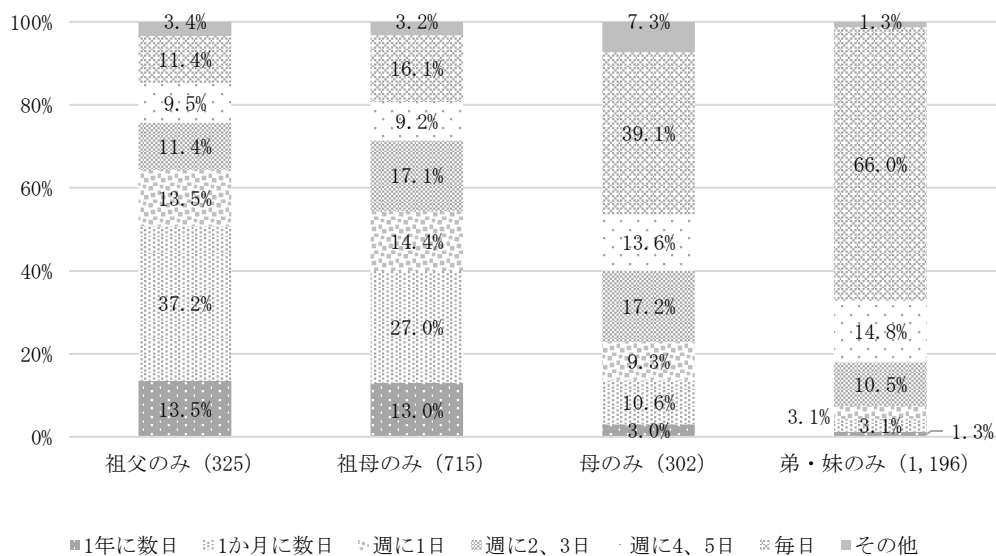
図Ⅲ-3-3 家族形態と学校がない日のケア時間 (n=3,859)

4. ケアを要する家族別の集計結果

ケアを要する家族に関する質問に1項目のみ選択したケースのうち、特に人数が多かった祖父のみ (341 ケース)、祖母のみ (731 ケース)、母のみ (315 ケース)、弟・妹のみ (1,221 ケース) を回答した 2,608 ケースについて、ケアを要する家族別にケアの頻度、時間を集計した。

(1) ケアの頻度

図Ⅲ-4-1 は、ケアの頻度の結果である。ケアを要する家族が弟・妹のみの場合、「毎日」と回答した者が最も多く、66.0%を占めた。「毎日」と回答した者の割合は、母のみの場合 39.1%、祖母のみの場合 16.1%、祖父のみの場合 11.4%となった。

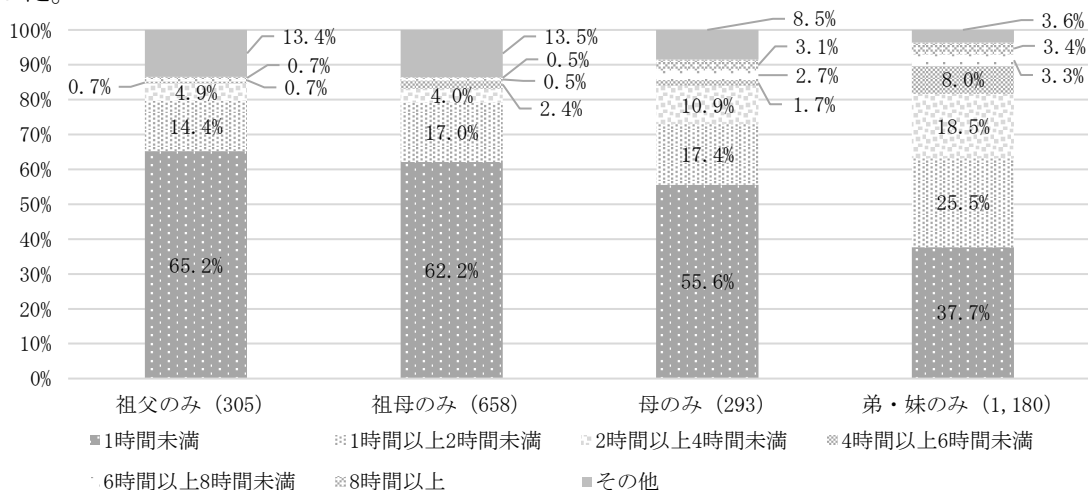


図Ⅲ-4-1 ケアを要する家族別にみたケアの頻度

【要ケア家族が祖父のみ、祖母のみ、母のみ、弟・妹のみ】

(2) ケアの時間

図Ⅲ-4-2は、学校がある日のケアの時間に関する結果である。学校がある日についてみると、ケアを要する家族が弟・妹のみの場合、「1時間未満」と回答した者の割合が最も低く（37.7%）、ケアの時間が長い者の割合が高い傾向がみられた。「1時間未満」と回答した者の割合が低い順にみると、次いで母のみ（55.6%）、祖母のみ（62.2%）、祖父のみ（65.2%）となった。

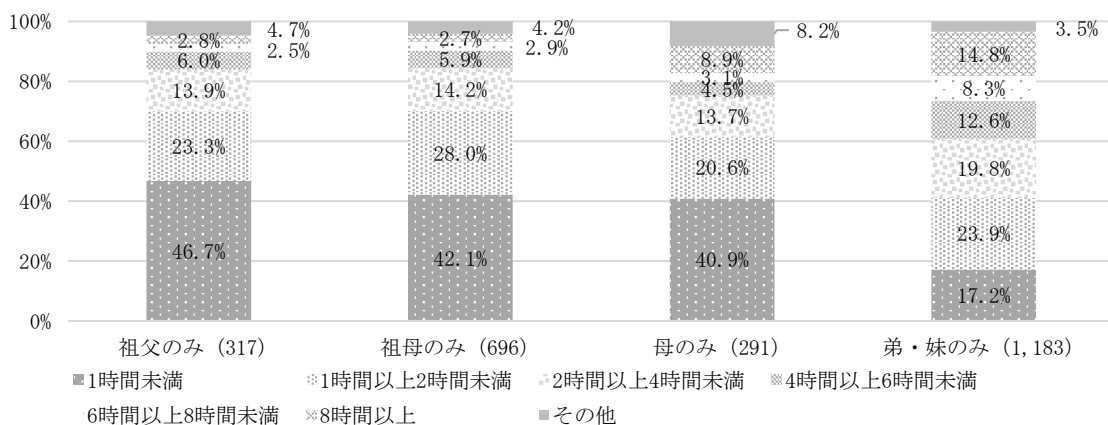


図Ⅲ-4-2 ケアを要する家族別にみた学校がある日のケア時間

【要ケア家族が祖父のみ、祖母のみ、母のみ、弟・妹のみ】

図Ⅲ-4-3は、学校がない日のケアの時間に関する結果である。学校がない日についてみると、「1時間未満」と回答した者の割合は、弟・妹のみの場合が最も低く、2割弱（17.2%）にとどまり、次いで母のみ（40.9%）、祖母のみ（42.1%）、祖父のみ（46.7%）の順に割合が低かった。

全体的に、弟・妹、母に比べて、祖父母の場合はケアの時間が短い傾向がみられた。ただし、学校がある日においては、祖父母の場合、「その他」と回答している者の割合が高かった。「その他」と回答した者には、その都度、随時という意味合いの記述が多く含まれており、時間数では表しにくいケアを担っている可能性がある。



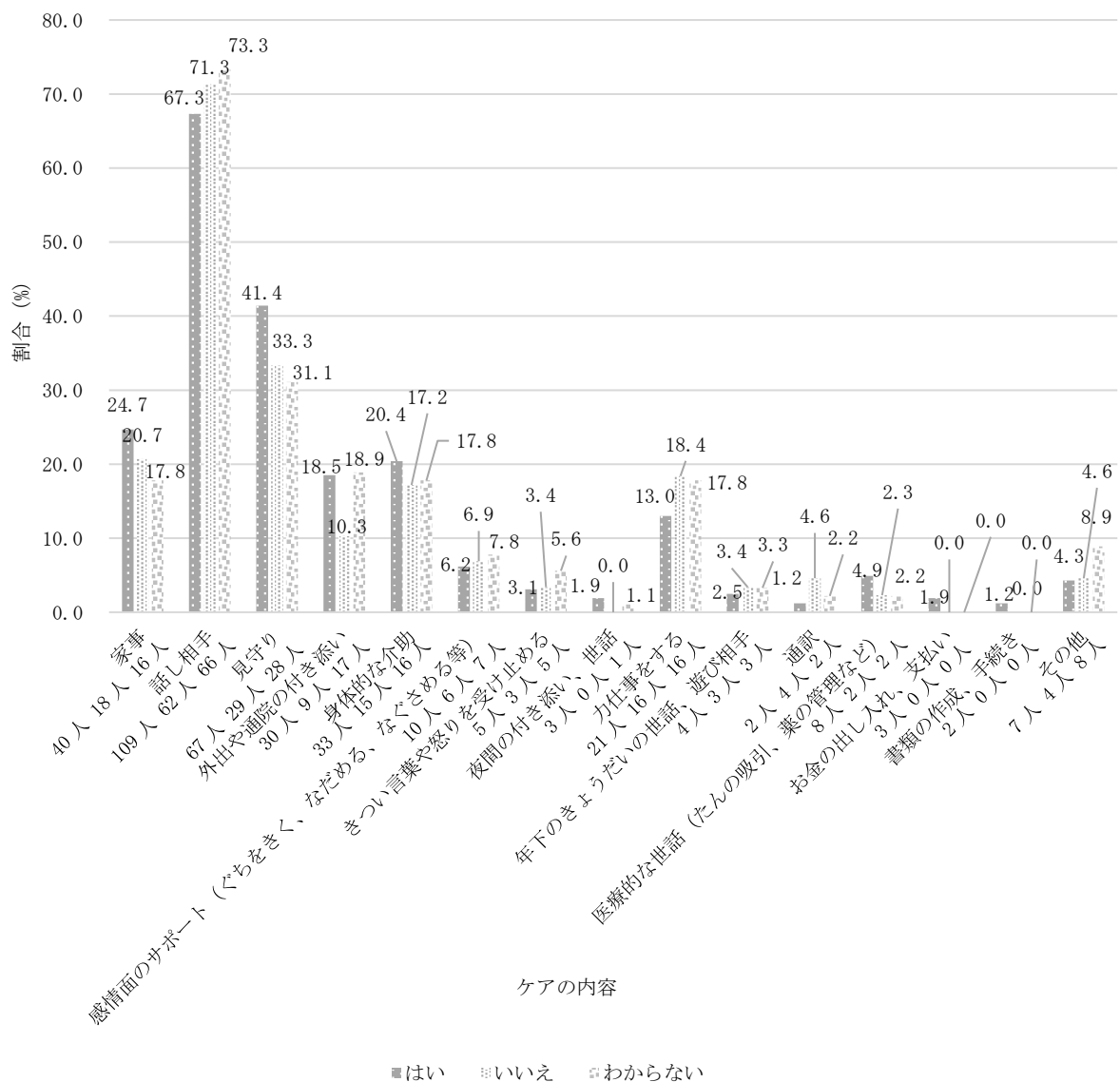
図Ⅲ-4-3 ケアを要する家族別にみた学校がない日のケア時間

【要ケア家族が祖父のみ、祖母のみ、母のみ、弟・妹のみ】

(3) 介護、福祉サービスの利用とケアの内容

ケアを要する家族が祖父のみの場合、祖母のみの場合、母のみの場合、弟・妹のみの場合のそれぞれについて、介護、福祉サービスの利用とケアの内容を集計した（図Ⅲ-4-4～図Ⅲ-4-7）。

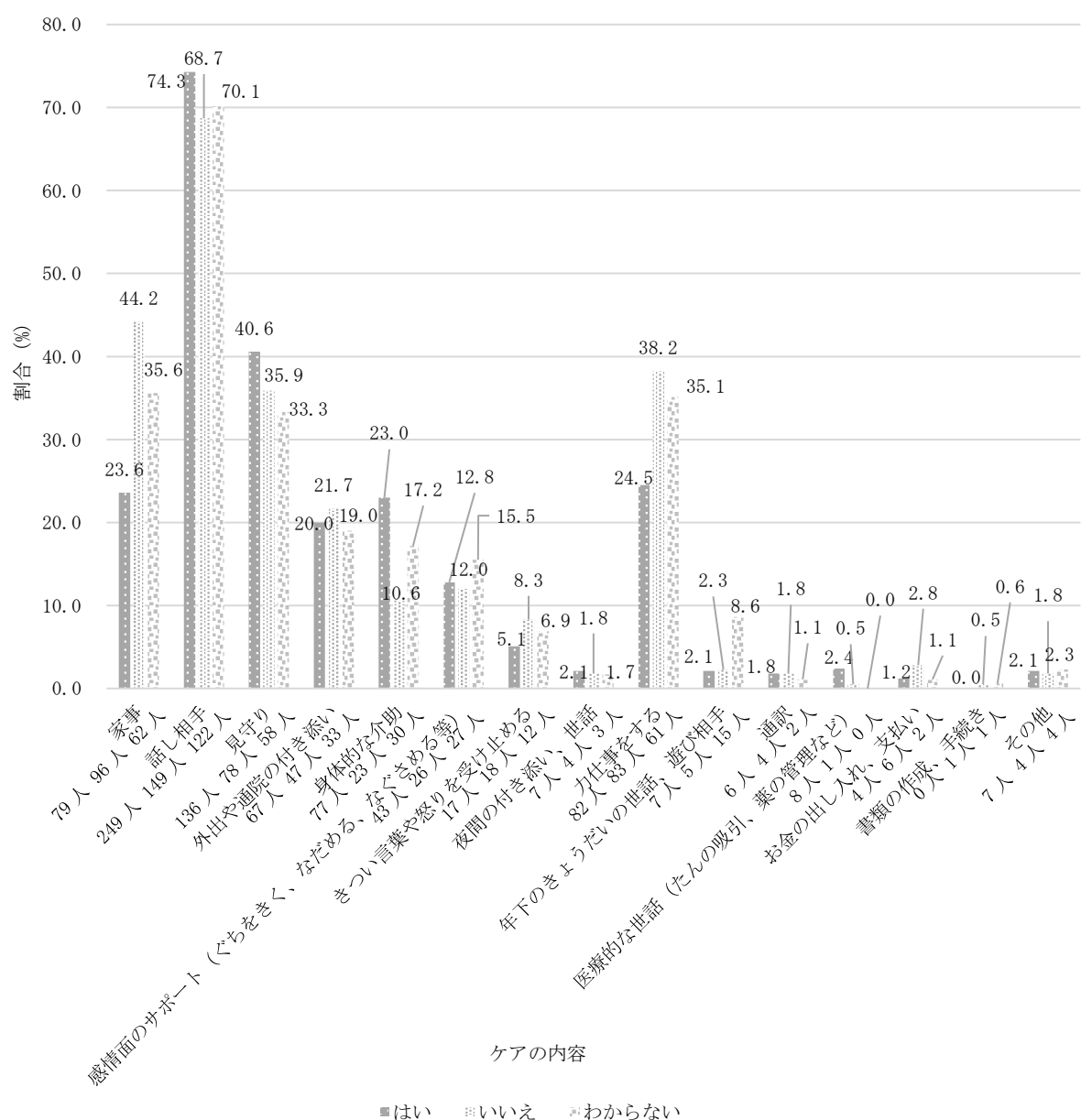
祖父のみの場合（図Ⅲ-4-4）、サービス利用の有無によってケアの内容に顕著な違いは認められなかった。



図Ⅲ-4-4 介護、福祉サービスの利用とケアの内容

【ケアを要する家族が祖父のみ】(n=339) ※複数選択可

祖母のみの場合（図Ⅲ-4-5）、介護、福祉のサービスの利用について「いいえ」と回答した者では、「家事」が44.2%、「力仕事をする」が38.2%であり、「はい」あるいは「わからない」と回答した者よりも高い値を示していた。また、介護、福祉のサービスの利用について「はい」と回答した者では、ケアの内容として「身体的な介助」を回答した者が約2割であり、「いいえ」あるいは「わからない」と回答した者と比較して高い値を示していた。

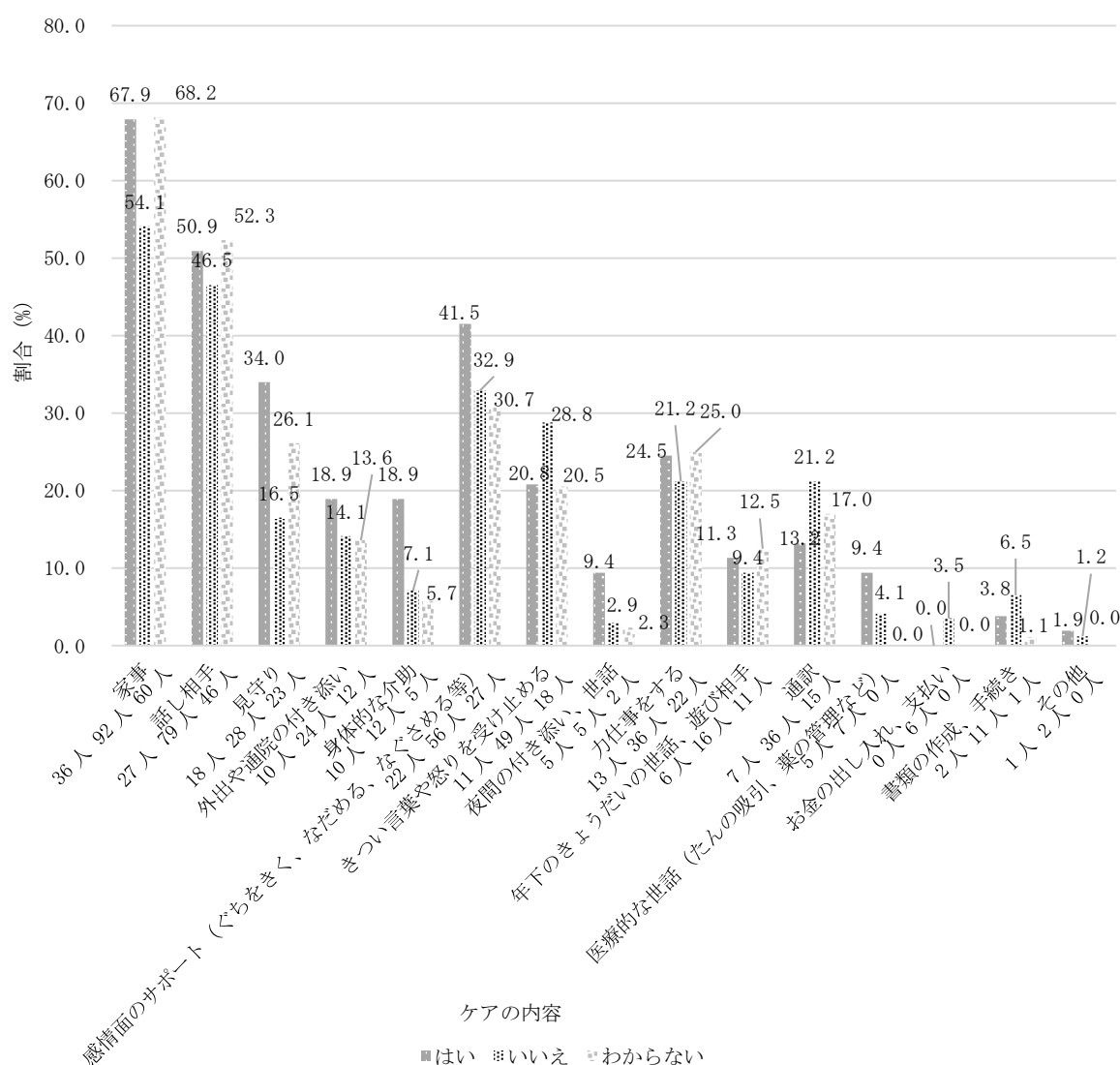


図Ⅲ-4-5 介護、福祉サービスの利用とケアの内容

【ケアを要する家族が祖母のみ】(n=726) ※複数選択可

母のみの場合（図Ⅲ-4-6）、介護、福祉のサービスの利用について「いいえ」と回答した者では、ケアの内容として「通訳」と回答した者の割合が約2割、「きつい言葉や怒りを受け止める」と回答した者が約3割であり、「はい」あるいは「わからない」と回答した者と比較して高い値を示していた。

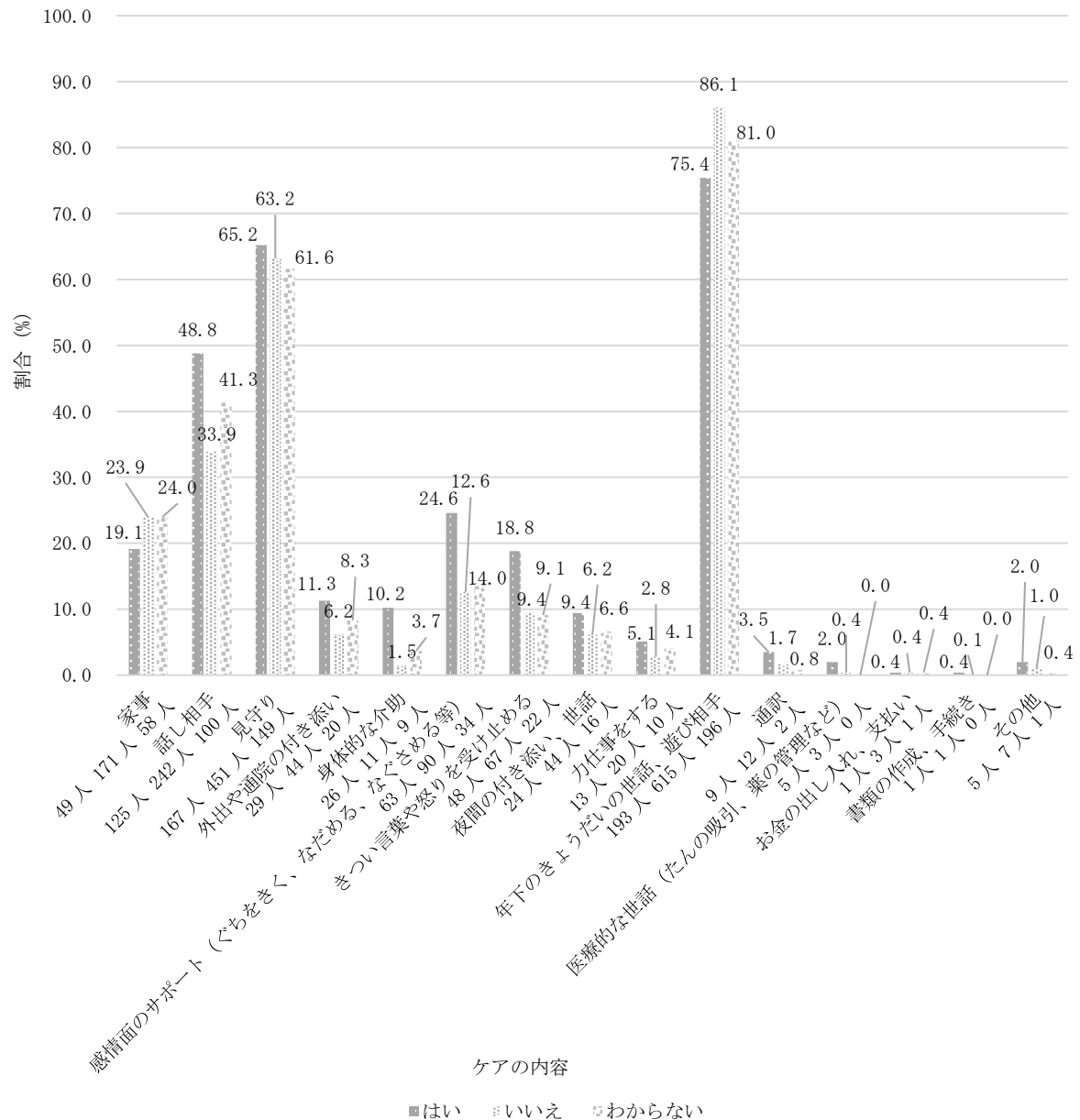
介護、福祉のサービスの利用について「はい」と回答した者において、ケアの内容として「家事」と回答した者の割合が約7割、「見守り」と回答した者の割合が約3割、「感情面のサポート（ぐちをきく、なだめる、なぐさめる等）」と回答した者の割合が約4割であり、「いいえ」あるいは「わからない」と回答した者と比較して高い値を示していた。



図Ⅲ-4-6 介護、福祉サービスの利用とケアの内容

【ケアを要する家族が母のみ】(n=311) ※複数選択可

弟・妹のみの場合（図Ⅲ-4-7）、介護、福祉のサービスの利用について「はい」と回答した者において、ケアの内容として「話し相手」と回答した者の割合が約5割、「感情面のサポート（ぐちをきく、なだめる、なぐさめる等）」、「きつい言葉や怒りを受け止める」と回答した者の割合が約2割となっており、「いいえ」あるいは「わからない」と回答した者と比較して高い値を示していた。



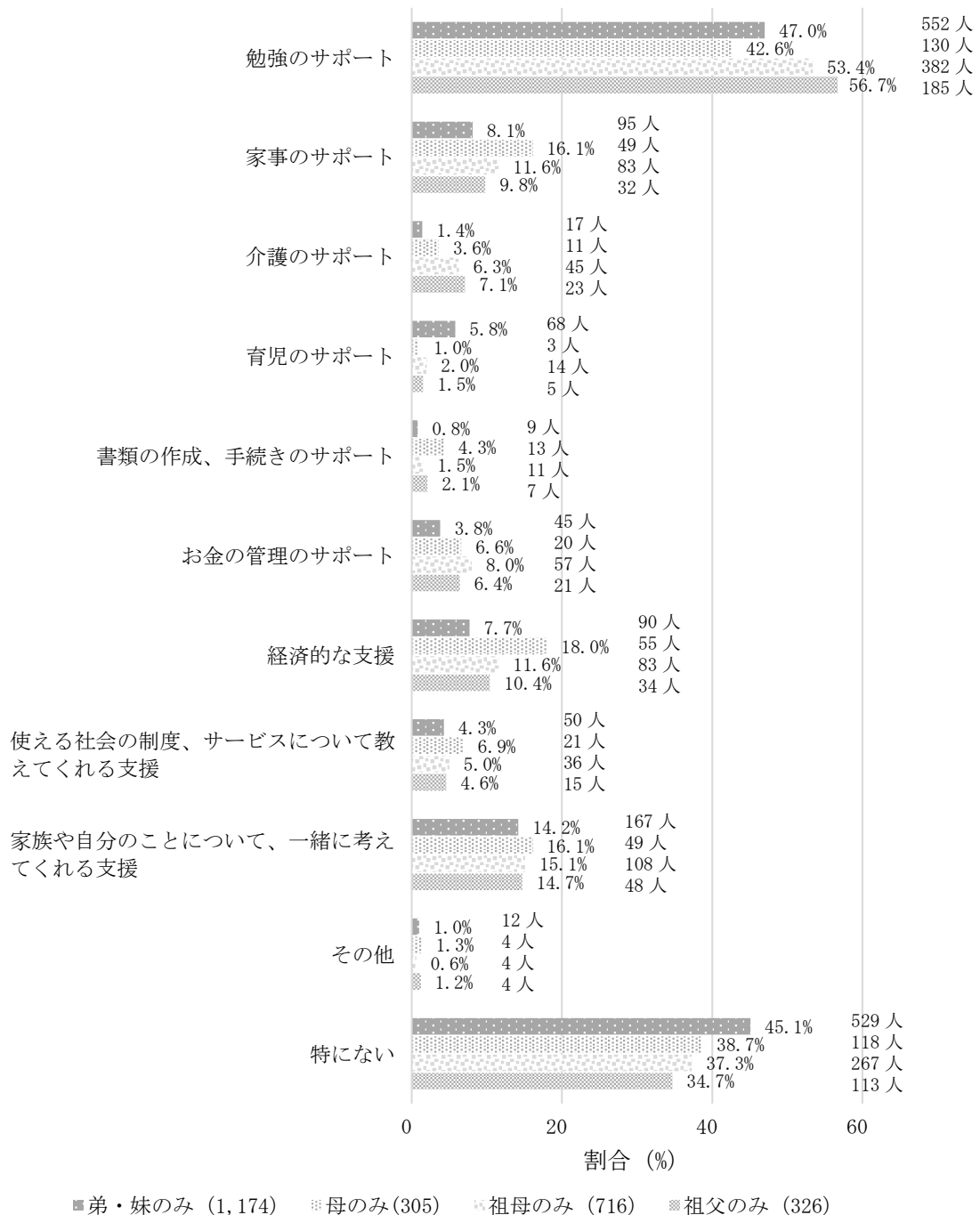
図Ⅲ-4-7 介護、福祉サービスの利用とケアの内容

【ケアを要する家族が弟・妹のみ】(n=1,212) ※複数選択可

(4) 今、ほしいと思うサポートや支援

図Ⅲ-4-8は、今、ほしいと思うサポートや支援の結果である。

ケアを要する家族が祖父母のみの場合、「勉強のサポート」を選択した者の割合が5割を超え、他よりも高かった。母のみの場合、「家事のサポート」、「経済的な支援」を選択した者の割合が他よりも高かった。弟・妹のみの場合、「特にない」と選択した者の割合が他よりも高く、4割を超えた。



図Ⅲ-4-8 ケアを要する家族別にみた今、ほしいと思うサポートや支援

【要ケア家族が祖父のみ、祖母のみ、母のみ、弟・妹のみ】※複数選択可

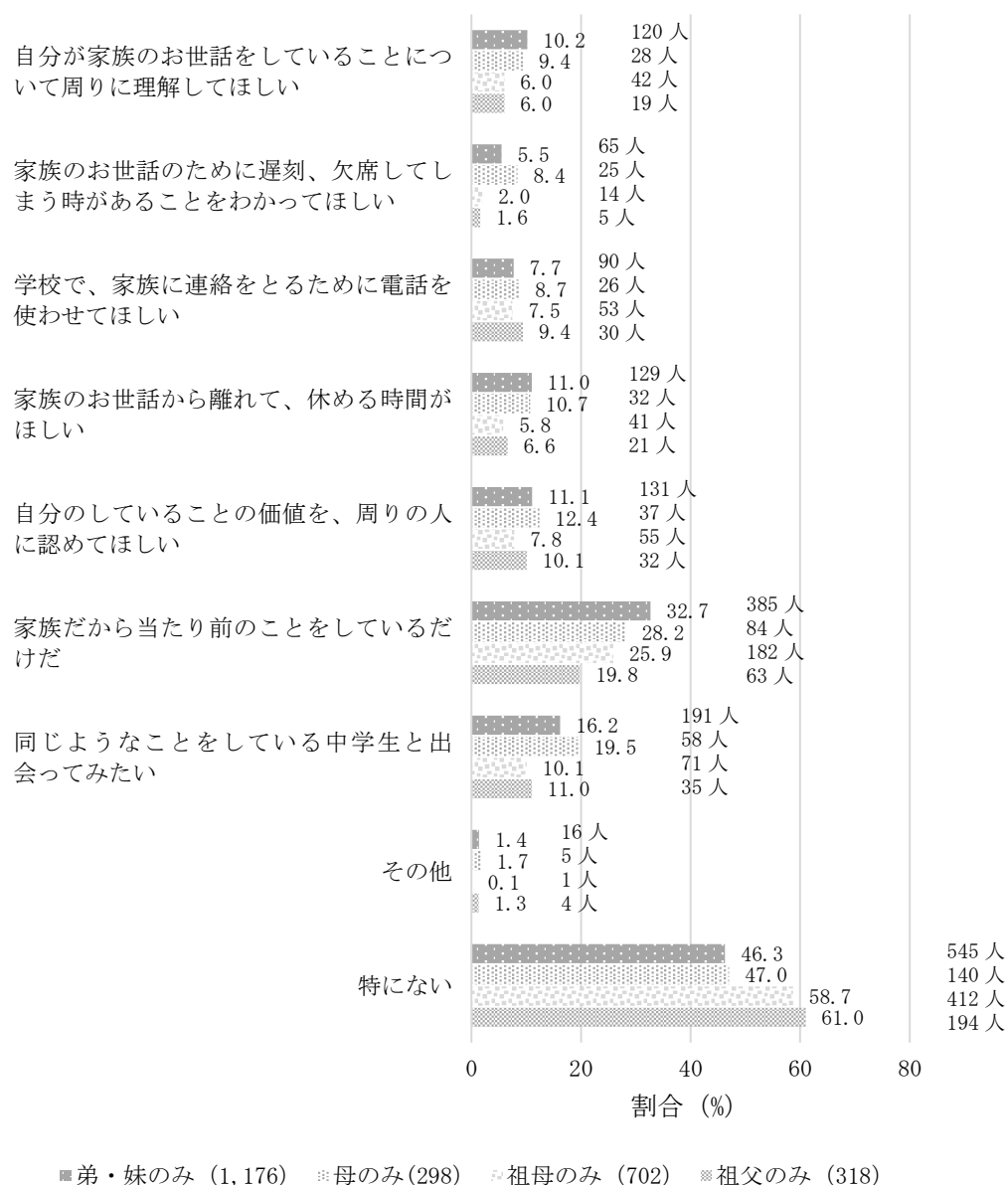
(5) 学校、社会、周囲に対して思ったことがあること

図Ⅲ-4-9は、学校、社会、周囲に対して思ったことがあることの結果である。

弟・妹のみの場合、「自分が家族のお世話をしていることについて周りに理解してほしい」、「家族のお世話から離れて、休める時間がほしい」を回答した者の割合が他よりも高かった。一方で、「家族だから当たり前のことをしているだけだ」と回答した者の割合も他よりも高く、約3割を占めた。

母のみの場合、「自分のしていることの価値を、周りの人に認めてほしい」、「同じようなことをしている中学生と出会ってみたい」と回答した者の割合が他よりも高かった。

祖父母のみの場合、「特にない」と回答している者が約6割にのぼり、自身の中で抱え込む傾向がある可能性が考えられる。



図Ⅲ-4-9 ケアを要する家族別にみた学校、社会、周囲に対して思ったことがあること
【要ケア家族が祖父のみ、祖母のみ、母のみ、弟・妹のみ】 ※複数選択可

IV. 調査結果のまとめ

1 ヤングケアラーの存在割合

ケアを要する家族がいる、自分がその人のケアを担っていると回答した者をヤングケアラーとみなした場合、ヤングケアラーの存在割合は9.1%であった。ただし、負荷がそれほど大きくなっていないヤングケアラーも多く含まれていると考えられる。

学年別では、「3年生」において存在割合が最も低く（7.9%）、性別では、「男性」よりも「女性」（11.3%）、「その他（わからない、答えたくない等も含む）」と回答した者（15.7%）に多く、家族形態では、ひとり親の家庭（10.9%）で存在割合が高い傾向がみられた。

2 ケアの状況

①ケアを要する家族とその状態

ケアの相手は「弟・妹」（37.0%）、「祖母」（31.3%）、「祖父」（19.1%）、「母」（13.9%）、「兄・姉」（7.1%）、「父」（6.6%）等であった。

それぞれの状態をみると、「祖父母」の場合、「高齢」である、「認知症」、「身体的機能の低下」がみられる状態にある者が多かった。

「父母」の場合は「病気」や「障がい」を有するケースが多く、特に「母」は「精神的に不安定な状態、または精神疾患、精神障がい」を有しているケース、「日本語が苦手」（外国の出身である等の理由）なケース、「父」については「アルコールに依存する傾向がある」の割合が他よりも多かった。特に、「母」の特徴として「精神障がい」等がある、「父親」の特徴として何らかの依存症である可能性であるケースが多いことは他の調査でも指摘されており、今回の調査でも同様の結果が示された。さらに、今回は「日本語が苦手」なケースも多くみられ、外国にルーツのある家族のケアをするヤングケアラーの存在も確認された。

「兄・姉」では、「障がい」を有しているケース、「弟・妹」は、「幼い」もしくは「障がい」を有しているケースが多かった。

②ケアの内容

ケアの内容は「話し相手」（54.9%）、「見守り」（46.5%）、「年下のきょうだいの世話、遊び相手」（36.3%）、「家事」（32.0%）等であった。

ケアを要する家族別にみると、「祖父」、「祖母」とともに「話し相手」、「見守り」、「家事」の順に多く、「父」の場合は、「話し相手」、「家事」、「見守り」の順に多く、上位3位のケアの内容は同じであった。

一方、母の場合は「家事」が最も多く、次いで「話し相手」、「感情面のサポート」となっており、その次に「きつい言葉や怒りを受け止める」と続いており、家事と感情的なケアが上位に上がっていた。「話し相手」も精神的に不安定な家族のサポートするために必要なケアであり、常に相手の様子をうかがい、話題、言葉、表情を選びながら話し相手をする必要があることから、大変な緊張感を伴うケアであると言える。単なる話し相手とは質的な違いがあることに留意する必要がある。

「きょうだい」の場合をみると、「兄・姉」、「弟・妹」とともに、「話し相手」、「見守り」が

上位に入っているが、「兄・姉」の場合は「感情的なケア」（感情面のサポート、きつい言葉や怒りを受け止める）が挙げられていた。「兄・姉」は「発達障がい」や「知的障がい」、「精神障がい」等を有する状態の割合が多いため、感情的なケアを担うことが多くなっていることが考えられる。

一方、「弟・妹」では「年下のきょうだいの世話・遊び相手」（82.6%）、「見守り」（63.3%）、「話し相手」（38.4%）、「家事」（22.9%）が挙げられていた。幼いきょうだいのケアをしているケースが多いことが反映された結果と考えられるが、家事を担うケースが見受けられた。

③ケアの期間、頻度と時間

ケアの期間をみると、中学入学前からケアをしていた者は 6 割～8 割程度いると考えられ、10 年以上の期間を回答した者が約 5%になった。今回の調査ではヤングケアラーと考えられる中学生の人数は約 4,000 名であり、単純に計算した場合、約 200 名に該当する。ケアが長期化しているケースが一定数いることが確認された。

ケアの頻度は「毎日」が最も多く約 4 割、「週 4、5 日」と合わせると、ほぼ毎日と回答した者が約 5 割になった。ケアを要する家族（弟・妹、母、祖母、祖父のみ回答）に着目すると、特に「弟・妹」のみ、「母」のみと回答した者に「毎日」と回答した者が多かった（弟・妹のみ 66.0%、母のみ 39.1%）。

ケアの時間は学校のある日、ない日ともに「1 時間未満」が最も多かったが、「8 時間以上」と回答した者もいた（学校がある日 2.2%、学校がない日 8.6%）。学校がない日の方が長時間になる傾向がみられ、特に学校が長期休みの時にはヤングケアラーのケア時間が長くなる可能性が考えられる。ケアを要する家族（弟・妹、母、祖母、祖父のみ回答）に着目すると、弟・妹のみの場合、学校がある日、ない日ともにケアの時間が長時間である傾向がみられた。

④生活、健康への影響

ケアをしている者の方が生活満足感、全体的な健康感が低くなり、睡眠時間が短い傾向がみられ、ケアによって生活や健康面に負の影響が生じている可能性が見受けられた。学校生活においても、欠席、遅刻、宿題忘れの日数、回数が多くなる傾向がみられ、特に欠席においてその傾向は顕著であった。また、ケアの時間が長時間になるほど生活満足感、全体的な健康感が低くなり、学校生活への影響も顕著になる傾向がみられた。

⑤介護、福祉サービスの利用

介護、福祉サービスの利用は、約 4 割が「利用していない」と回答しており、約 4 分の 1 は「わからない」と回答していた。ヤングケアラーの、介護、福祉サービスに対する認識は十分ではないことがうかがえる。

⑥サポートや支援について

ケアをしていることを家族以外の「誰にも話していない」と回答した者が約 6 割にのぼった。「話したことがある」と回答した場合でも、相手は「友人」が多数を占め、「学校の先生」に話したことがある者は 3 割程度にとどまり、「スクールカウンセラー」、「スクールソーシャルワーカー」、「医療や福祉の専門職」等に話している者は極めて少なく、「頼れる大人」に話せていないことがわかった。

今、ほしいサポートについては、「勉強のサポート」が最も多く（52.1%）、「家族や自分のことについて、一緒に考えてくれる支援」（16.5%）、「経済的な支援」（11.1%）、「家事のサポート」（11.0%）等が挙げられた。なお、「特にない」と回答した者が 4 割近くにのぼった。通常の手伝い程度のケアである、短時間のケアにとどまっている、それほど負荷がかかっていない者も多いと考えられるが、自分の状況を客観的に理解することが難しく、サポートが必要であることに気付きにくいことも背景にある可能性がある。

また、学校、社会、周囲に対して思うこととして、「特にない」（49.8%）が最も多く、「家族だから当たり前のことをしているだけだ」（28.9%）、「同じようなことをしている中学生と出会ってみたい」（15.4%）、「自分のしていることの価値を周りの人に認めてほしい」（11.3%）、「家族のお世話から離れて、休める時間がほしい」（10.1%）等が挙げられた。

謝辞

本調査を実施するにあたり、ご多忙のところ、調査の意義、必要性をご理解くださり、ご協力くださった中学校の先生方、そして調査に回答してくださった中学生の皆さんに、心より感謝申し上げます。

なお、本調査は大阪市、大阪市教育委員会と濱島淑恵（大阪歯科大学）を研究代表者とする研究チームが共同で行ったものである。研究チームは科学研究費補助金（課題番号：20H01606）を得て調査研究を行っており、本調査はその成果の一部である。

家庭生活と学校生活に関する調査

調査の目的

1. 中学生の皆さんの家での過ごし方、学校での様子、健康状態等について、調べることを目的としています。

プライバシーの保護

2. 調査への参加は、強制ではありません(任意です)。回答しなくても、不利益を受けることはありません。
3. 本調査は無記名でおこなわれますので、誰がどのような回答をしたかはわかりません。
4. 回答は統計的処理を施したうえで、本調査の目的のためだけに利用します。調査結果は、報告書や論文として発表されることがありますが、回答結果が個人を特定できる形で公表されることは一切ありません。

回答方法

5. さまざまなことをたずねていますが、すべて、調査の目的を達成するために必要な質問です。
6. ほとんどの質問は選択回答式になっておりますので、あてはまると思う選択肢の番号に○をつけてください。あまり深く考えずに、思いついたものを選択してください。「その他」に○をつけられた方は、カッコ内に回答を具体的にご記入ください。
7. 質問内容がわからない場合やどうしても回答したくない項目については、無回答のままでかまいません。
8. 回答には 20 分程度かかります。
9. 回答後は、回収用封筒に入れ、封をしたうえで、提出してください。
10. 本調査にご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

調査者 大阪市

大阪市教育委員会

宮川雅充(関西学院大学)、南多恵子(京都光華女子大学)、濱島淑恵(大阪歯科大学)

ご記入ください。

1. 12 歲 2. 13 歲 3. 14 歲 4. 15 歲 5. 16 歲以上(歲)

1. 男性 2. 女性 3. その他(わからない、答えたくない等も含む)

1. 中学1年生 2. 中学2年生 3. 中学3年生

1. 父親
2. 母親
3. 兄・姉()人
4. 弟・妹()人
5. 祖父母()人
6. その他(具体的に:)

1. 父親 2. 母親 3. 兄・姉 4. 祖父母
5. 社会の制度 6. わからない 7. その他(具体的に:)

1. 正社員の仕事 2. 派遣社員、パート、アルバイトの仕事 3. 自営業
4. 年金 5. 生活保護 6. わからない
7. その他(具体的に:)

B. あなたの日常生活について、おたずねします。

(B1) あなたが普段しているお手伝いについておたずねします。次の項目について、あてはまる数字(1～5または1～6)に○をつけてください(○はそれぞれ1つ)。

	全くしない	ほとんどしない	たまにする	ときどきする	よくする	非該当(そのよう な人はいない)
家事(料理・掃除・洗濯など)の手伝い	1	2	3	4	5	
家族を精神的に支える(ぐちをきく、なだめる、なぐさめるなど)	1	2	3	4	5	
家のお金の管理をする	1	2	3	4	5	
介護の手伝い (高齢の家族、障がいや病気のある家族のお世話や介護の手伝い)	1	2	3	4	5	6
幼いこどもの世話をする(弟、妹、おい、めいなど)	1	2	3	4	5	6

(B2) あなたには、次のようなことをしてくれる家族はいますか(○はそれぞれ1つ)。

	いる	いない	わからない
食事を作ってくれる家族	1	2	3
自分の話を聞いてくれる家族	1	2	3
自分が体調不良の時、看病してくれる(薬をくれる、世話をしてくれるなど)家族	1	2	3

(B3) あなたは、現在の生活に満足していますか(○は1つ)。

1. 不満である 2. どちらかといえば不満である 3. どちらかといえば満足している 4. 満足している

(B4) 過去 30 日間をふりかえって、あなたの健康状態は、どれにあてはまりますか(○は1つ)。

1. 健康ではない 2. どちらかといえば健康ではない 3. どちらかといえば健康である 4. 健康である

(B5) 過去 30 日の間にどれくらいの頻度で次のことがありましたか。各項目についてあてはまる数字(1～5)に○をつけてください(○はそれぞれ1つ)。

	全くない	少しだけ	ときどき	たいてい	いつも
神経過敏※に感じましたか。 ※ ちょっとしたことにもすぐ反応する、 精神の不安定な状態。	1	2	3	4	5
絶望的だと感じましたか。	1	2	3	4	5
そわそわ、落ち着かなく感じましたか。	1	2	3	4	5
気分が沈みこんで、何が起ころうとも 気が晴れないように感じましたか。	1	2	3	4	5
何をするのも面倒だと感じましたか。	1	2	3	4	5
自分は価値のない人間だと感じましたか。	1	2	3	4	5

(B6) 過去 30 日の間にどれくらいの頻度で次のことがありましたか。各項目についてあてはまる数字(1～5)に○をつけてください(○はそれぞれ1つ)。

	全くない	少しだけ	ときどき	たいてい	いつも
体がだるい	1	2	3	4	5
めまいがする	1	2	3	4	5
食欲がない	1	2	3	4	5
よく眠れない	1	2	3	4	5
腰が痛い	1	2	3	4	5
肩がこる	1	2	3	4	5
歯が痛い	1	2	3	4	5

(B7) 以下の各項目について、あなたにあてはまる数字(1～4)に○をつけてください(○はそれぞれ1つ)。

	あてはまる	あてはまる どちらかといえば	あてはまらない どちらかといえば	あてはまらない
家族との絆(きずな)が強い	1	2	3	4
家族の役に立っている	1	2	3	4
他の人の気持ちがよくわかる	1	2	3	4
同級生より家事がよくできる	1	2	3	4

(B8) あなたの普段の生活について、①～③の問いに答えてください。なお、定期テストの期間、長期の休み等は除いた、普段の生活について、回答してください。

①あなたは、普段の平日、学校の授業以外でどのくらい勉強をしますか(○は1つ)。

1. しない 2. 30分未満 3. 30分以上 1時間未満 4. 1時間以上 2時間未満 5. 2時間以上

②あなたは、普段の平日、自分の好きなことをしたり、ゆっくり過ごす時間はどのくらいありますか(○は1つ)。

1. ない 2. 1時間未満 3. 1時間以上 2時間未満 4. 2時間以上 4時間未満 5. 4時間以上

③あなたは、普段の平日、何時間寝ますか(○は1つ)。

1. 4時間未満 2. 4時間以上 5時間未満 3. 5時間以上 6時間未満
4. 6時間以上 7時間未満 5. 7時間以上 8時間未満 6. 8時間以上

(B9) あなたは毎月、お小遣いをもらっていますか(○は1つ)。

1. はい 2. いいえ

(B10) あなたは、現在、塾や習い事に通っていますか(○は1つ)。

1. はい 2. いいえ

C. あなたの学校生活について、おたずねします。

(C1) 学校は楽しいですか(○は1つ)。

1. 楽しくない 2. あまり楽しくない 3. どちらともいえない 4. まあまあ楽しい 5. とても楽しい

(C2) 今年度の1学期に学校を欠席したことは何日ありましたか(○は1つ)。

1. 0日 2. 1、2日程度 3. 3～5日程度 4. 6～10日程度 5. 10日以上

(C3) 今年度の1学期に学校を遅刻したことは何回ありましたか(○は1つ)。

1. 0回 2. 1、2回程度 3. 3～5回程度 4. 6～10回程度 5. 10回以上

(C4) 今年度の1学期に宿題を忘れたことは何回ありましたか(○は1つ)。

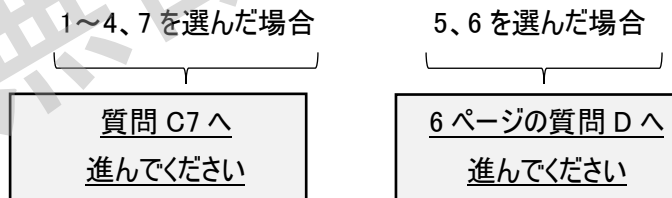
1. 0回 2. 1、2回程度 3. 3～5回程度 4. 6～10回程度 5. 10回以上

(C5) 学校での友人関係はうまくいっていると思いますか(○は1つ)。

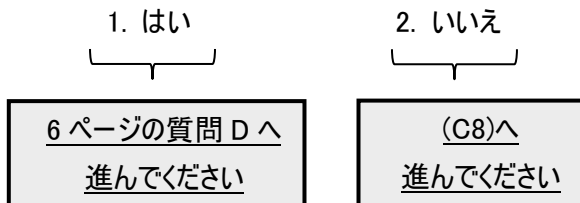
1. うまくいっている 2. どちらともいえない 3. うまくいっていない

(C6) 卒業後の進路先について教えてください(○は1つ)。

1. 全日制高校に行く予定 2. 定時制高校に行く予定 3. 通信制高校に行く予定
4. 働く予定 5. 考えたことがない 6. 考えているが、決まっていない
7. その他(具体的に:)



(C7) (C6)で答えた進路の選択は、あなたの希望通りですか(○は1つ)。



(C8) 希望の進路を選べない理由は何ですか(○はいくつでも)。

1. 成績が十分ではないため 2. 経済的な理由のため
3. 家族の世話や手伝いがあるため 4. 保護者の意見のため
5. その他(具体的に:)

(D1) あなたの家族には、高齢である、若い、病気や障がいがある、精神的に不安定、日本語が苦手などのために、介護、手伝い、精神的サポートが必要な人はいますか(○は1つ)。別居している家族も含みます。



1. 祖父 2. 祖母 3. 曾祖父(ひいおじいさん) 4. 曾祖母(ひいおばあさん)
5. 父 6. 母 7. 兄・姉(人) 8. 弟・妹(人)
9. その他(具体的に: _____)

1. 病気
2. 認知症
3. 高齢である
4. 幼いため世話が必要である
5. 身体障がい、または身体的な機能の低下
6. 精神疾患や精神障がい、または精神的に不安定
7. 知的障がい
8. 発達障がい
9. 日本語が苦手(外国の出身である等の理由で)
10. お酒をものすごく飲む(アルコールに依存する傾向がある)
11. ギャンブルがとても好き(ギャンブルに依存する傾向がある)
12. その他(具体的に:)
13. わからない

1. はい 2. いいえ 3. わからない

(D9) あなたは、現在、(D6)で答えた介護、お手伝い、精神的サポートをどのくらいの頻度でしていますか (○は1つ)。

- | | | |
|---------------|-----------|---------|
| 1. 1年に数日 | 2. 1か月に数日 | 3. 週に1日 |
| 4. 週に2、3日 | 5. 週に4、5日 | 6. 毎日 |
| 7. その他 (具体的に: |) | |

(D10) あなたが(D6)で答えた介護、お手伝い、精神的サポートをしている時間は、1日のうち、どのくらいですか。学校がある日、学校がない日について答えてください(○はそれぞれ1つ)。

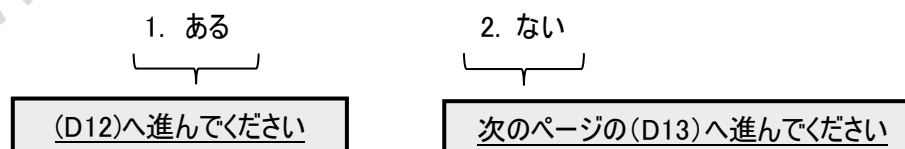
(a) 学校がある日

- | | | |
|---------------|---------------|---------------|
| 1. 1時間未満 | 2. 1時間以上2時間未満 | 3. 2時間以上4時間未満 |
| 4. 4時間以上6時間未満 | 5. 6時間以上8時間未満 | 6. 8時間以上 |
| 7. その他(具体的に: |) | |

(b) 学校がない日

- | | | |
|---------------|---------------|---------------|
| 1. 1時間未満 | 2. 1時間以上2時間未満 | 3. 2時間以上4時間未満 |
| 4. 4時間以上6時間未満 | 5. 6時間以上8時間未満 | 6. 8時間以上 |
| 7. その他(具体的に: |) | |

(D11) あなたは家族の介護、お手伝い、精神的サポートをしていることを家族以外の人に話したことはありますか(○は1つ)。



(D12) (D11)について、話したことがある人に○をつけてください(○はいくつでも)。

- | | | |
|---|------------------|---------|
| 1. 学校の先生 | 2. 保健室の先生 | |
| 3. スクールカウンセラー | 4. スクールソーシャルワーカー | |
| 5. 親戚 | 6. 友人 | 7. 友人の親 |
| 8. 医療、介護、福祉の専門職(医者、看護師、ホームヘルパー、ケアマネージャー等) | | |
| 9. 近所の人(友人の親以外) | | |
| 10. その他(具体的に: | | |
|) | | |

(D13) あなたが、今、ほしいと思うサポートや支援に○をつけてください(○はいくつでも)。

1. 勉強のサポート
2. 家事のサポート
3. 介護のサポート
4. 育児のサポート
5. 書類の作成、手続きのサポート
6. お金の管理のサポート
7. 経済的な支援
8. 使える社会の制度、サービスについて教えてくれる支援
9. 家族や自分のことについて、一緒に考えてくれる支援
10. その他(具体的に:)
11. 特にない

(D14) あなたが介護、お手伝い、精神的サポートをしてきて、学校、社会、周囲の人などに対して思ったことがあるものに○をつけてください(○はいくつでも)。

1. 自分が家族のお世話をしていることについて周りに理解してほしい
2. 家族のお世話のために遅刻、欠席してしまう時があることをわかってほしい
3. 学校で、家族に連絡をとるために電話を使わせてほしい
4. 家族のお世話から離れて、休める時間がほしい
5. 自分のしていることの価値を、周りの人に認めてほしい
6. 家族だから当たり前のことをしているだけだ
7. 同じようなことをしている中学生と出会ってみたい
8. その他(具体的に:)
9. 特にない

E. 現在のあなたの悩みや困りごとについて、おたずねします。

(E1) 現在、あなたは悩んだり、困ったりしていることはありますか。あてはまるものに○をつけてください(○はいくつでも)。

- | | | | |
|-----------------------------|---------------------|----------|-----------|
| 1. 友人関係のこと | 2. 成績のこと | 3. 進路のこと | 4. 部活動のこと |
| 5. 学校生活に必要なお金のこと | 6. 塾や習い事ができない | | |
| 7. 家庭の経済的状況のこと | 8. 自分と家族との関係のこと | | |
| 9. 家族内の人間関係のこと(両親の仲が良くないなど) | | | |
| 10. 病気や障がいのある家族のこと | 11. 自分のために使える時間が少ない | | |
| 12. その他 (具体的に: _____) | | | |
| 13. 特にない | | | |

(E2) あなたが悩みや困りごとを相談しやすいのはどこ(誰)ですか。あてはまるものに○をつけてください(○はいくつでも)。

- | | | | |
|-----------------------------------|------------------|---------------|---------|
| 1. 家族 | 2. 親戚 | 3. 友人 | 4. 友人の親 |
| 5. 担任の先生 | 6. 保健室の先生 | 7. 部活動の顧問 | |
| 8. スクールカウンセラー | 9. スクールソーシャルワーカー | | |
| 10. その他(5～9 以外)の学校の人(具体的に: _____) | | | |
| 11. 近所の人 | 12. 塾や習い事の先生 | 13. 医療や福祉の専門職 | |
| 14. 役所の相談窓口 | 15. SNS への書き込み | | |
| 16. LINE、メールの相談先 | 17. 電話での相談先 | | |
| 18. その他(具体的に: _____) | | | |
| 19. 誰もいない | | | |

F. 「ヤングケアラー」について、おたずねします。

(F1) 何らかの援助が必要な家族のために、家事、介護、世話、精神的なサポート等をする子どもたちのことを「ヤングケアラー」といいます。あなたはこの言葉を、以前に聞いたことがありましたか(○は1つ)。

- | | |
|--------------|---------------|
| 1. 聞いたことがあった | 2. 聞いたことがなかった |
|--------------|---------------|

(F2) あなたは、自分を「ヤングケアラー」だと思いますか(○は1つ)。

- | | | |
|-------|--------|----------|
| 1. はい | 2. いいえ | 3. わからない |
|-------|--------|----------|

以上で質問はすべて終了です。
ご協力ありがとうございました。

家庭や家族のことに関する悩みごとについても、学校の先生やスクールカウンセラー、LINE による相談窓口などに、相談することができます。あなたが悩んでいることをしっかり聞いて、どうすることがあなたにとって一番良いかを一緒に考えます。ひとりで悩まず、気軽に相談してください。

大阪市立中学校生徒を対象としたヤングケアラー実態調査報告書
(家庭生活と学校生活に関する調査)

令和4年7月

大阪市（事務局：こども青少年局企画部企画課）

大阪市教育委員会（事務局：教育委員会事務局総務部教育政策課）

研究チーム

宮川雅充（関西学院大学）南多恵子（京都光華女子大学）

濱島淑恵（大阪歯科大学）

